

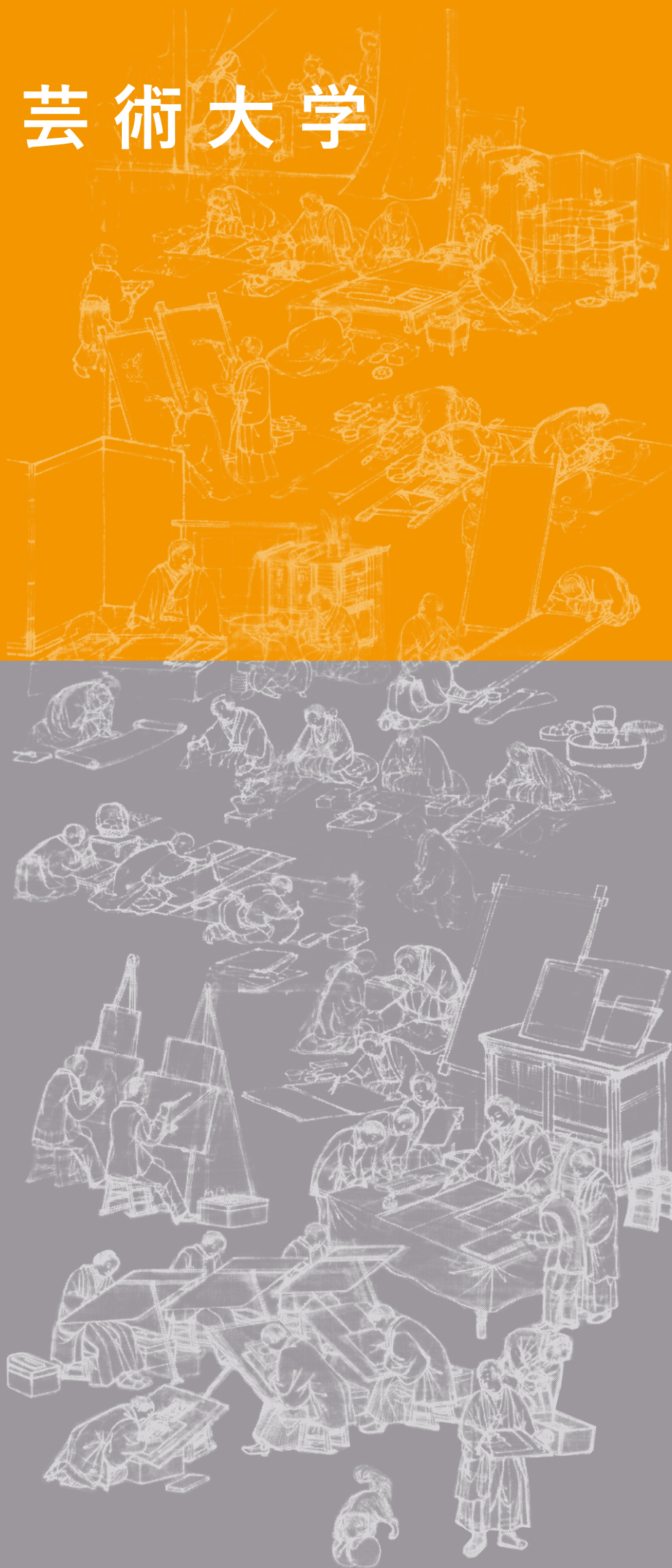
京都市立芸術大学

大学案内

2022-2023

Kyoto City
University
of Arts

founded in 1880





潜在的な表現力を さらに輝くものに 赤松玉女

京都の人々は考えた 芸術は新しい時代を切り拓く力だと

少人数教育で学ぶ実技と理論 — 思考することで創造力を磨く

京都市立芸術大学は、創立140周年を超える、日本で最も長い歴史をもつ芸術系の学校です。明治初期の京都。幕末からの戦災や遷都によりまちが衰退していた1880年、復興を目指す若い絵師たちの思いを集めて、京都府画学校が設立されました。そして1952年、戦後の復興期に京都市立音楽短期大学が誕生しています。京都の人々は厳しい時代にこそ、芸術や教育が時代を切り拓く大きな力になると考えていました。伝統文化をもちつつ、常に新しいものを取り入れて、まちを活性化させてきた京都。その土壌に学び、さらに新しい価値観を示しながら、本学は日本の近現代芸術の屋台骨を支えるアーティストたちを脈々と輩出してきました。

京都芸大は、常に「創造の現場」です。私たちが学生に求めているのは、芸術や文化に対する好奇心、表現することへの強い意欲、柔軟な思考力、あふれる個性です。一学年が両学部合わせて200人の小さな大学ですが、この規模だからこそその「質の高い少人数教育」と、学部や専攻、実技と座学の「垣根を超えた横断的教育」を行っています。作品制作や演奏のためのテクニックや感性を磨く「実技教育」と同時に「理論教育」も重視します。感性や直感のみに頼らず、広く社会に関心を持ち、思考することで、潜在的な表現力をさらに輝くものに育てていくのが京都芸大の教育です。

いま、先が見えないといわれる時代に、芸術や文化の力が大きな注目を集めており、社会や産業のイノベーションに、デザイン・シンキング、アート・シンキングが必要といわれています。芸術

には変化に対応していく柔軟さがあり、困難を乗り越える力があるからです。卒業生たちは、国内外の芸術界、産業界で活躍していますが、いわゆる芸術家のみならず、新しい価値観を生み出す力をもった人材として、社会の様々な分野でその力をふるっています。「無」から生み出すことを学んで身につけた想像力や豊かな表現力を発揮しているのです。

いよいよ2023年秋、学生の皆さんの学びの場となるキャンパスは、京都の玄関口である京都駅近くへ全面移転します。京都芸大は、未来に向けた方針として「テラスのような大学」を目指しています。「テラス」は、地域に開かれ多様な人々と交差し、交流を深める中で新たな展望を開くオープンな場所。本学は、これまでも真に多様な価値観を認め合う大学ですが、芸術の視点から時代や社会の「あたりまえ」を問い直して新たな価値観を提示し、失敗を恐れず実験的な取組ができる開かれた大学として挑戦を続けていきます。

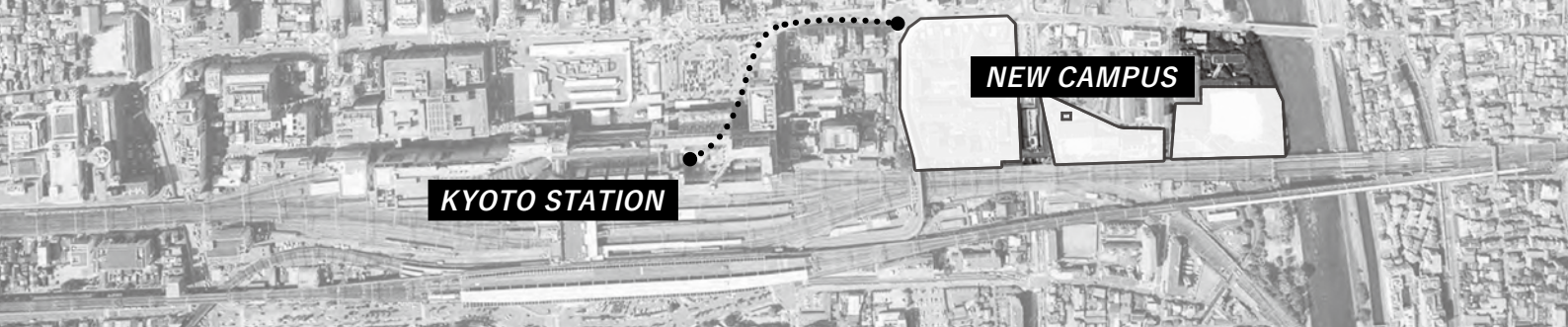
学生は京都芸大という場で、高い志をもった仲間たちと出会い、教員であると同時にアーティスト、音楽家、研究者である教授陣と出会います。お互いに啓発しあいながら芸術を学び、創造力を磨く、そんな全ての体験は、社会に出てからの自信となり強みになります。人生を豊かにする方法を考え、将来の可能性を探っていく大切な学生時代、ぜひ京都市立芸術大学でしっかりと学んで、皆さんの夢の実現につなげてください。

学長・理事長 赤松玉女

赤松 玉女【あかまつ・たまめ】

画家。1959年兵庫県尼崎市生まれ。1984年に本学大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)修了後、国内外の美術館やギャラリーでの展覧会を中心に活動。油彩、水彩、フレスコ技法等、画材や技法を組み合わせた絵画表現の可能性を研究。イタリアでの創作活動等を経て、1993年に本学美術学部美術科油画専攻教員に着任。2018年度から本学美術学部長。2019年4月から現職。2020年度尼崎市民芸術賞、2021年度亀高文子記念一赤艸社賞。

NEW CAMPUS 2023



2023年10月 京都駅東部エリアに移転

まちに開かれた都市型キャンパスとして整備される新キャンパスは、京都駅から徒歩6分。京都市内はもとより国内外からのアクセスにも優れるこの場所は、まさしく外に向かって開かれた空間であり、多様な人々が往来・交流する「テラスのような大学」となることを目指しています。

新キャンパスには、オーケストラやオペラ、アンサンブルなど多様な編成に対応できるよう、最適な音響空間を確保したサイズの異なるホールが整備され、金属や木材など様々な素材の加工が可能な工房も一層充実するなど、すべての学生が持てる力を存分に発揮できる環境が用意されます。

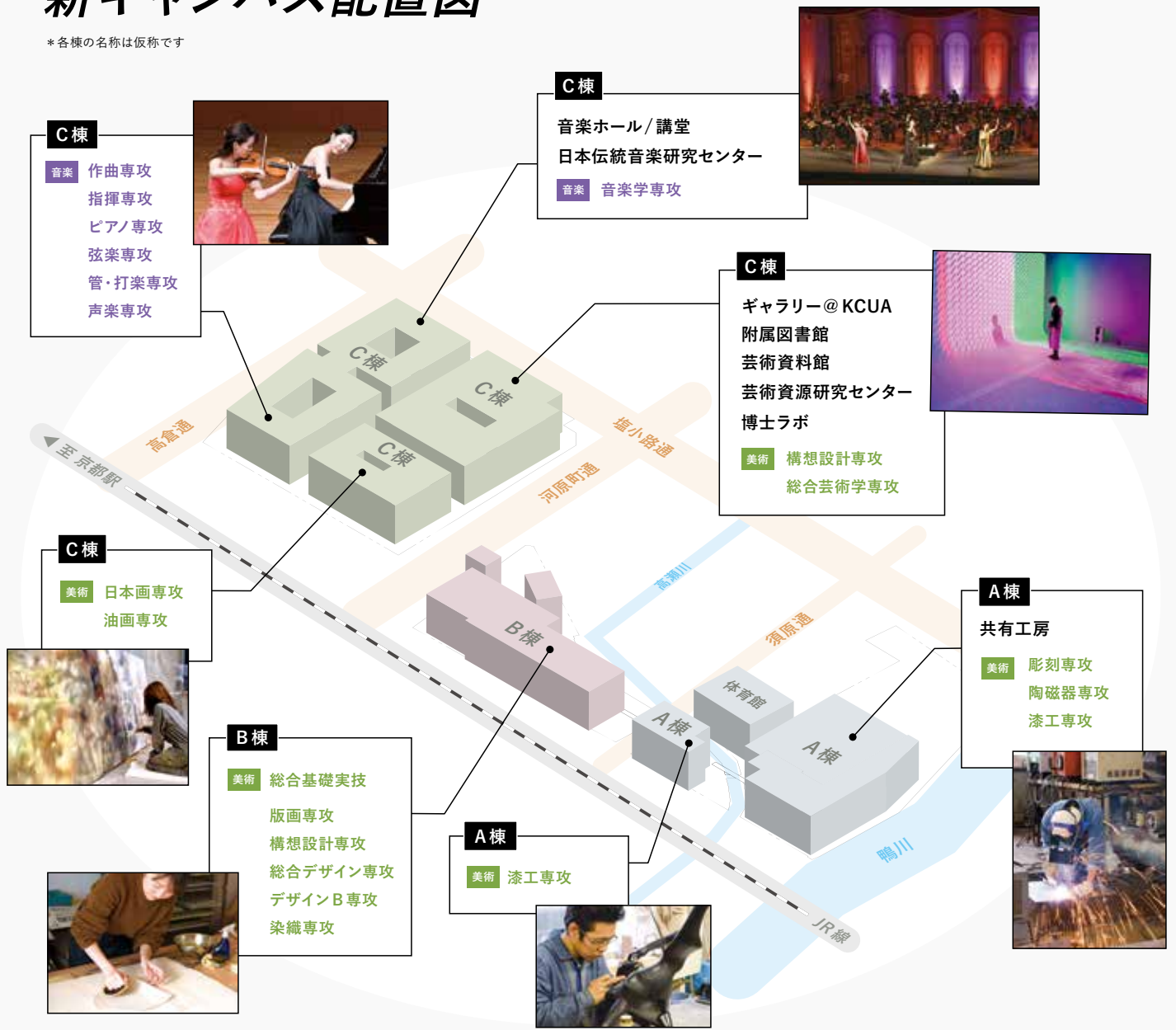
京都市立芸術大学の新キャンパスは、みなさんの夢や思索をかたちにし、世界中の人々に届けるための場所。誕生まで、もう間もなくです。





新キャンパス配置図

*各棟の名称は仮称です



卒業生

Interview

在学生が聞きました！

京都芸大で身につけた
専門性・創造性は
さまざまな分野から
求められています。



P.6-7 たかはし しんや
高橋 伸也 さん / 任天堂 取締役 専務執行役員



P.8-9 かさい いくこ
葛西 郁子 さん / 西陣織職人



P.10-11 すけの ゆか
助野 由佳 さん / ファゴット奏者

これまでにインタビューにお答えいただいた卒業生も、さまざまな分野で活躍しています。

※ は取材年、卒業生の肩書は取材当時のものです。

美術学部・美術研究科 卒業生

2012



森村 泰昌さん
美術家

2012



岡田 圭子さん
シャープ株式会社
執行役員

2012



山本 あいみさん
高校美術教員

2012



櫻木 知子さん
画家

2012



山口 高志さん
NHKデザインセンター
チーフディレクター

2012



釜野 真理子さん
JICA青年海外協力隊

2012



皆川 魔鬼子さん
テキスタイルデザイナー
イッセイミヤケ取締役

2012



高嶺 格さん
アーティスト

2013



松井 智恵さん
アーティスト

2014



三瀬 夏之介さん
日本画家

2014



松尾 恵さん
MATSUO MEGUMI
I+VOICE GALLERY
pfs/w 代表

2014



やなぎ みわさん
舞台演出家 / 美術家



2014
森田 リエ子さん
日本画家



2014
服部 麻衣さん
学芸員



2015
山本 容子さん
銅版画家



2015
名和 晃平さん
現代美術家



2016
久門 剛史さん
美術家



2016
木村 幸奈さん
マツダ株式会社
デザイナー



2016
高谷 史郎さん
アーティスト



2016
八木 光恵さん
アートコートギャラリー
代表



2017
下内 香苗さん
株式会社フェリシモ



2019
中尾 香那さん
(株)電通関西支社
アートディレクター



2021
池田 精堂さん
西條 茜さん
令和2年度京都市芸術
文化特別奨励者

音楽学部・音楽研究科 卒業生



2012
小倉 幸子さん
ヴィオラ奏者



2012
林田 明子さん
声楽家



2012
菊本 和昭さん
NHK交響楽団
トランペット首席奏者



2012
山根 明季子さん
作曲家



2012
松田 洋介さん
関西フィル管弦楽団
トロンボーン奏者



2012
河内 仁志さん
神戸市混声合唱団
専属ピアニスト



2012
谷村 由美子さん
声楽家



2013
次田 心平さん
読売日本交響楽団
チューバ奏者



2013
浦山 瑠衣さん
ピアニスト



2013
木下 敦子さん
ピアニスト



2013
高橋 範行さん
大学教員



2014
菅野 勢津子さん
マリンバ奏者



2014
菅 英三子さん
声楽家



2014
白子 正樹さん
クラリネット奏者



2014
谷 正人さん
大学教員



2015
佐渡 裕さん
指揮者



2015
小西 潤子さん
民族音楽学者



2015
山本 康寛さん
声楽家



2015
玉木 優さん
トロンボーン奏者



2016
中村 淳二さん
フルート・ピッコロ奏者



2016
粟辻 聡さん
指揮者



2016
藤井 浩基さん
大学教員



2018
安田 直己さん
ティンパニ・打楽器奏者



2018
齋庭 絵里子さん
大学教員



2019
瀬 泰幸さん
読売日本交響楽団
コントラバス奏者

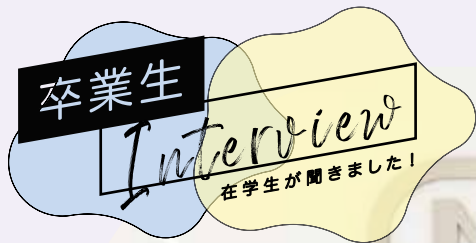


2021
細川 泉さん
九州交響楽団
首席ヴィオラ奏者

京都市立芸術大学では、多方面で活躍する卒業生に、本学の思い出や、現在の活動について等のお話を伺う「卒業生インタビュー」を、2012年から行っています。これまでに約50人の卒業生に取材を行い、大学案内冊子と本学ウェブサイトにてご紹介しています。ウェブサイトでは、より読み応えのあるロングバージョンを公開中！ぜひご覧ください。

<https://www.kcuu.ac.jp/profile/interview/>





任天堂 取締役 専務執行役員

たかはし しんや
高橋伸也さん

インタビュー

中西優太郎さん

漫画専攻4年生*

取材日|2021年12月20日
取材地|任天堂本社

※撮影時のみマスクを外しています。

*卒業生の肩書・インタビューの学年は取材当時のものです。

絵を描くのはやっぱり好きだったし、京都芸大への憧れも

— 幼少時代はどのような子どもでしたか？

ご多分に漏れず絵が好きで、幼稚園に入る前からずっと絵を描いていました。写生大会で賞をもらったりもしましたし、一般的な芸大生が辿るような道は大体通っていたように思います。小学生の時は漫画が好きで、6年生の時は漫画家になりたいと言っていました。

— 芸術大学への進学を決めたのはいつごろでしょうか？

中学生までは美術大学(美大)に行こうと思っていました。ただ、自分にそれほどの実力はないとも思っていて、「美大はちょっと違うな」と思って高校から理系でした。でも高校3年生の時に共通一次試験※1の結果を見て「これはあかん…」と(笑)。さあどうしようかと悩みました。そして悩んだ結果、思い直して「やっぱり美大に行こう」と決めました。理系の方がいいかもしれないと思って絵から離れていったけど、絵を描くのはやっぱり好きだったので。

— 京都芸大を選んだのはなぜですか？

現役の時は受験しませんでした。美大を受けようと思い直して浪人してから研究所に通いました。私は京都出身ですが、みんな京都芸

大を目指していましたが、憧れもありました。色々調べていくうちに染織にも興味が沸いてきて、1浪目は工芸科を受験しました。結局、今度は版画が面白そうだと2浪目は美術科を受けました。当時、版画専攻がある大学はあまりありませんでした。

ものの作り方やプロセス、考え方に惹かれる

— 京都芸大に入っていくのがでしたか？

当時、京都芸大の版画専攻の教員だった吉原英雄先生が「版画は工程を考えることで完成する」とおっしゃっていたのが印象的でした。もともと私は理詰めで物事を作っていくようなタイプなので、これは自分に合っているなと感じました。作り方の面白さ、方法論を色々学んだと思います。実技の基礎では、普段あまり触れることのない日本画を選びましたが、絵そのものよりも日本画はどのように描くのかというそのシステムが気になっていました。版画も作り方とかプロセス、考え方が面白いというところに惹かれたのだと思います。リトグラフをしていましたが、それもそのシステムが好きでした。不思議な化学反応が起こるから。

— 課外活動ではどのように過ごしていましたか？ゲームの話題がこれまで出てきませんが…。

ゲームの話題がないのは、私の時代は家庭用ビデオゲームがほとんどないからです(笑)。幼い頃にボードゲームはありましたが、特に好きだったということはありませんでした。ゲームをし始めたのは中学生の時です。インベーダーゲームが流行って少し遊んだのと、大学に入ってからファミコン※2が発売されて、友達と遊びとしてやっていました。クラブはバドミントン部に入っていました。

絵を描くことと一緒に、ゲーム作りは最後まで粘ることも大事

— 就職を意識したのはいつからでしょうか？

卒業してすぐに就職するつもりはありませんでした。教員になろうと思いましたが、教員免許を取れていなかったのが、卒業後に科目等履修生として取得しようと思っていました。そこで4回生の12月だったか、年明け頃にアルバイトを探していたら、新聞に任天堂の社員募集が掲載されていました。アルバイトとは書いていませんでしたが応募してみようと思い、履歴書を出して面接を受けました。面接官は、スーパーマリオの開発者で、世界的に有名な宮本茂※3で、ポートフォリオというものを知らなかったのが、とりあえず物を鞆に全部入れて持って行って、作品やデッサンを壁にずらずらと並べて見てもらったのですが、最終的に来いと言われて正社員に採用されました。ですので、いわゆる就

職活動はしていません。先生には「えっ?どうやって入ってん?」と驚かれました。

— 任天堂に入ろうと思った理由は何だったのでしょうか?

ゲームが好きということが一番の理由ではありませんでした。実は当時、コンピュータグラフィックス(CG)が出始めた頃で、自分で何とかしようと思ったら高額なコンピュータが必要ですし、学校で教えているところもありましたが高額な学費が必要になります。会社なら仕事としてできるということもありました(笑)。当時は3Dがほとんど出ていなかったの、面接で「CGをやりたいです」と言いました。結局、「そんな事はウチではやらない」と言われながらも、入社してしばらくしてからデザインスタッフとして3DCGを使ったゲームソフトの立ち上げに関わる事ができました。当時、数人で独自に勉強しましたが、そこで理系の脳が生かされたかもしれません。

— 就職してから印象に残っていることはありますか?

任天堂がファミコン※2を大ヒットさせていた時代に入社し、ソフト担当になりました。はじめに担当したソフトの締め切りがゴールデンウィークで、その次には秋にも締め切りがあって、入社早々とても忙しかったですね。当時、自分の描いたドット絵がテレビで動かせるのが新鮮で、面白がりながら作っていました。面白いからずっと触る。なので「コンピュータ」についての勉強も始めました。



高橋 伸也【たかはし・しんや】

任天堂株式会社 取締役 専務執行役員 企画制作本部長

京都府宇治市出身。1989年に京都市立芸術大学美術学部美術科(版画専攻)を卒業し、任天堂へ入社。企画開発本部長などを歴任し、2018年に現在の取締役専務執行役員に就任。任天堂のソフト開発およびNintendo Switch開発の総責任者を務める。過去の主な開発担当ゲームソフトは、『東北大学未来科学技術共同研究センター 川島隆大教授監修 脳を鍛える大人のDSトレーニング』『マリオカート ダブルダッシュ!!』『ウエーブレース64』『ふぁみこん昔ばなし 遊遊記』など。



— ピンチになったことはありますか?

自分は「ピンチ」とは思わないタイプです(笑)。なんとかして何でも活かそうと考えています。

— 版画で学んだシステムや考え方で、今の仕事に生きていることはありますか?

ゲームを作る会社ではシステムティックに仕事を進めていくと思っていましたし、実際にそのように進める部分も多く、その中でも色々な考え方をすることが必要です。一方で、商品として作り上げる時は最後まで粘ることも必要です。それは最後の最後まで絵を描いていくことと一緒に、商品は両方を兼ね備えた中で作っていくものだということが分かりました。会社に入ってからだんだん考え方を切り替えていきました。

客観的に様々な角度から見て、何が正しいのかを自分で見つける

— 会社でのこれまでのキャリアについて教えてください。

デザイナー職で入社してから、ゲームのディレクター職をさせてもらいました。その後、色々なプロジェクトに関わるようになって、全体を見てディレクターをまとめるプロデューサーのような仕事をするようになりました。狙っていたわけではなく、こうすべきと思ってやっているうちにそうなったという感

※1 現大学入学共通テスト

※2 1983年に発売された家庭用ゲーム機「ファミリーコンピュータ」

※3 任天堂株式会社 現 代表取締役フェロー

このインタビューのロングバージョンを本学ウェブサイトにて公開予定!

卒業生

Interview
在学生が聞きました!

インタビュー

山口沙璃乃さん

染織専攻修士1回生*

西陣織職人

かきい くこ

葛西郁子さん

インタビュー

四方理南さん

染織専攻修士1回生*

取材日 | 2021年12月17日

取材地 | 葛西さんのアトリエ

※撮影時のみマスクを外しています。

*卒業生の肩書・インタビューの学年は取材当時のものです。

京都芸大は自由さが最高

— 幼い頃はどのような子どもでしたか？

私は青森県出身で、高校まで弘前市に住んでいました。実家はまるで山のようなところだったので、裸足で木に登ったり、ひたすら植物や虫をじっと観察したりして遊んでいました。本を読むことよりは、自然の中を走り回ったり、絵を描いたり、何か作ることが好きな子どもでした。

— 自然からたくさんインプットできる環境だったんですね。

はい。中学校まではのびのびと過ごしていました。ところが、高校から環境が一転してしまっただけです。時代の雰囲気もあり、進学校に通い始めたのですが、ひたすら暗記を繰り返す日々。それまでは休日といえば家族で

出かけてばかりだったのですが、高校に入ってから夏休みや春休みもなくひたすら講習で、段々嫌になってしまいました。それでも3年間、自分なりに勉強をして、理系の一般大学を受験したのですが、不合格でした。

その時に、はじめて全国の大学が掲載されている本を見てハッとしました。世の中にはこんなにいろんな大学があるんだ、と。そこで「芸術大学」という選択肢を見つけることができました。青森県には芸術大学はないし、もちろん美術の予備校もありません。世の中に芸術系の大学があることは知らずにここまで来たんですね。私は元々、絵を描くのも物作りも好きだったので、そこから一気に方向転換し、美大受験のため、東京の予備校へ行くことにしました。周りの予備校生の絵の上手さには衝撃を受けましたが、でもやっぱり描くのが好きだから、喜びが大きかったです。

— 数ある芸術大学の中から、京都芸大に進学を決めたのは何故でしょうか？

東京の予備校に通っていたので、初めは東京の美大を受験しようと思っていました。しかし、東京は誘惑が多すぎて勉強できる場所ではないと思い始めて、東京以外の大学を探していた時に、京都芸大を見つけました。公立大学であることも魅力的でした。

— 実際に入学してみて、京都芸大の印象はいかがでしたか？

自由さが最高だなと。そのおかげで、自分で工夫して、創造して、何か出来ないことがあったら先生をつかまえ、先生が分からなかったら他をあたって。野放しにさせてくれたからこそ、自分で生み出す力がついたと思いますし、私は大学で「これだ!」と思うものと出会えた。それが今の仕事である織物です。

— どのような学生生活を過ごされたのでしょうか？

織物に出会ってからはそれに没頭して、とにかく作りたくて、とにかく織りたいという気持ち。織りは制作時間がかかるので、制作ばりの大学生活だったと思います。自分のやりたい事だけに真っ直ぐ突き進みました。

同級生とは、一緒に制作に向かって、常に議論して、お互いに高め合っていました。また先生だけでなく、先輩から面白いお話を交えながら教わることもありました。とにかくのびのびと制作に没頭出来て、楽しい学生生活を送れました。



西陣織とは

伝統工芸である西陣織の一種。部分的に先染めした糸で模様をつくりだす紉の技法の中でも、西陣の紉は髪の毛よりも細い絹のタテ糸を自由自在に組み替えて、梯子という道具で大胆にずらし、紉模様をつくることができる。華やかで精緻な色柄が特徴であり、着物や帯、装束などの伝統衣装、また、ファッション分野でも使われている伝統的技法。

「京都には西陣織がある」 非常勤講師から職人の道へ

——職人としての道を考えたのは、いつ頃だったのでしょうか？

私は大学院まで進んだのですが、着物の作品に取り組んでいましたから、技術的なことにも興味がありました。より美しく織るための技を追究していく中で、もっと現場の技術を知りたいと思い、学外へも目を向けるようになりました。そんな時に、「京都には西陣織がある」と思いつき、直接西陣の職人の元を訪ねてみました。初めて伺ったにもかかわらず、職人さんは技術を惜しみなく教えてくれましたし、商品を美しく作り上げるためだけに全てのエネルギーを注ぎ込んでいるその姿を見て、私は「作家としてではなく、職人として物を作りたい」と思いましたね。

——卒業後、どのような経緯で拵職人になったのでしょうか？

職人になりたいという思いは持ちつつ、家庭の事情で卒業後しばらくは織物関係のアルバイトをしながら、大学で非常勤講師として働いていました。転機は非常勤講師の任期が最後の年に、大学院の頃に知り合った職人さんに再会した時。「非常勤はもう終わりなんですよ。でも本当は職人になりたかったんです」とぼやいたら、その方が「こんな仕事好きか？ほな教えてやるから来るか？」と仰ってくださいました。それが今の師匠となる人です。この時、師匠の後継者は誰もいないという話も伺いました。「こんなに素晴らしい技を継ぐ人がいないのはだめじゃん」と思いました。その時は、

自分が後継者になるのかはわからないけれど、技術というものは文章で残せるものではないから、私が身体で覚えなきゃという感じで、「やります!」と即答しましたね。そこから週1回、師匠のところに通うことになりました。その時、師匠は70歳を超えていましたし、1分1秒も無駄に出来ないという気持ちで、無我夢中で技を覚えていきました。それから行政の制度にも助けられながら、1年間みっちり師匠のところ学んで、自分の屋号届や事業届を出して、個人の拵職人として今に至ります。

——お仕事でのやりがいや大切にしていることを教えてください。

世の中では、職人は決まった仕事をコツコツやっているとされているかもしれませんが、それは大間違いなんです。職人こそ創意工夫の塊の世界。毎回、何かしらの工夫があった上で、コツコツやるステージに進めるからです。そこまでできる経験と想像力を作り上げてくるのができたのは、京都芸大で学んだ感覚があったおかげです。特に拵の仕事は同じ柄が無く、その都度、どう合理的にどう美しくするかは各職人の工夫でなされていきます。実際に作る時もそうだし、打合せする時も、まだ実物が出来ていないから、織屋さんが考えているイメージを、こちら側が把握して想像して、形にする力が必要です。京都芸大で培われた力が「役立っている」という言葉では済まないくらいです。



——今後の夢や目標はありますか？

後継者を見つけることです。現在、西陣織の拵職人は6人、その内4人が80代、1人が70代、あとは私だけ。私で終わらせるのではなく、この素晴らしい技を次に繋げていきたいです。

——在学生にアドバイスをお願いします。

一言でいうと、「バカでいろ」です。好きなものに対して一筋でいる、そういう意味のバカです。恥も外聞も全て捨ててとことんバカで、とことん自分で切り開く喜びを感じてください。こういうことができるのは学生の特権。これが道を切り開くコツです。

——最後に、京都芸大を目指す受験生に向けてメッセージを。

芸大に入っても就職できるか不安だから諦めようと思う人がいるかもしれないけれど、人生で本当に必要な人間の心、京都芸大はそれを豊かにしてくれる環境がある大学です。学生という多感な時期に、いつの間にか大切な力を培うことができる素晴らしい大学だと思うので、受験頑張ってください!人生を楽しく豊かにするためには、京都芸大に入りましょう(笑)。おすすめしますよ。

このインタビューの
ロングバージョンを
本学ウェブサイト
で公開予定!



葛西 郁子【かさいいুক】
西陣拵加工師

青森県弘前市出身。京都市立芸術大学美術学部工芸科にて染織を専攻。同大学院美術研究科修士課程工芸専攻(染織)修了。卒業後、同大学非常勤講師勤務、のち西陣拵加工師のもとで修行、独立し「葛西拵加工所」を開業。現在は「西陣拵加工業組合」の理事長も務める。同世代の仲間とチーム「いとへんuniverse」も組み、西陣拵の広報や新製品の制作にも積極的に取り組む。http://itohen-univers.com/

卒業生

Interview
在学生在听了!



インタビュー
儀啓乃さん
管・打楽専攻4回生*

ファゴット奏者
すけのゆか
助野由佳さん

インタビュー
大上穂花さん
管・打楽専攻4回生*

取材日 | 2021年8月27日
取材地 | 本学音楽棟大合奏室

※撮影時のみマスクを外しています。

*卒業生の肩書・インタビューの学年は取材当時のものです。

「留学」を実現させるため 京都芸大を選んだ

— ファゴットとの出会いを教えてください。

音楽好きな両親の影響で、4、5歳からピアノを始めて、私も音楽が好きになりました。中学校では吹奏楽部に入り、初めはトロンボーンを担当していたのですが、歯の矯正をしてからマウスピースが痛くて吹けなくなってしまいました。その時に他の楽器で空いていたのがファゴットかコントラバスでした。コントラバスをやるには身長が足りなくて(笑)。必然的にファゴットを吹くことになりました。

— 音楽大学(芸術大学)への進学を決めたのはいつ頃でしょうか。

吹奏楽部でファゴットを指導してもらった先生から、「助野さんはファゴットが上手だから音楽大学を目指してみたら?」と言われた時です。人に薦められることがあまりなかったので、そこから音楽大学(芸術大学)への進学を意識するようになりました。

— 数ある大学の中から、京都芸大を選んだのはなぜですか?

高校時代から「留学をしたい」という思いが頭にあり、お金を貯めるという意味で、家から通えて学費も安い公立大学は魅力的でした。関西の高校に通っていましたが、関西の芸大といえば京都芸大という周りの雰囲気もあり迷い

はなかったです。

— 実際に京都芸大に入学してどのような印象を受けましたか?

入学する前は、当時は郊外にある大学というイメージで、閉じこもって音楽に取り組むことになっていました。しかし、実際に入学してみると、他大学との交流演奏会や、学外のマスタークラスに参加する機会も多く、いい意味で裏切られました。

休む暇なく音楽と向き合った 大学時代

— 在学中、印象に残っていることはありますか?

在学中は、本当に休む暇なく音楽と向き合っていました。1・2回生の時、ファゴットの学生は全学年で4人。3・4回生の時に至っては3名しかいない時代で、とにかくいろんな出番に引っ張りだこ。オーケストラや管・打楽合奏などの授業では、ほとんどすべての曲に出演していました。加えて自主



京芸の現役生とOBによるファゴット部屋合宿にて

的な活動もあり、毎日毎日、合奏の日々でした。

— 今の在學生と変わらないですね(笑)。私たちもたくさん掛け持ちしながら、一つ一つの曲をこなしています。

今思えば、演奏機会が多いことはよかったと思います。在学中は、個人でじっくりと曲に取り組むよりアンサンブルの時間が多かったけれど、それは大学にいるからこそ出来ること。アンサンブルにしっかり取り組めたことは、後々の強みになりました。

— 留学先はいつ、どのように決めたのでしょうか?

3回生の時に、浜松の国際管楽器アカデミーに参加して、そこで来日していた先生から初めて指導を受けたときに、「この人なら、自分が学びたいことを100%教えてくれる!」と直感して、会ったその日にその先生のいる大学へ留学しようと決めました。留学先を決める際には、いろいろな先生の元を訪ねるのが一般的



大学時代のアンサンブルの自主公演

ですが、私の場合は即決でした。入試もその先生のいる大学しか受験しませんでした。

— 実際に留学してみてもいいですか？

日本では、大学生活のほとんどの時間を音楽に費やしていました。しかし留学先では、クラスメートから「助野さんはもう少し肩の力ぬいて、人生を楽しもうよ!」と言われていました。没頭して音楽に取り組んでいたの、「まさかこんな言葉をかけられるなんて!」と驚きましたが、周りは皆のびのびと音楽をしていたように思います。空き時間にはクラスメートと公園に行ってアンサンブルを演奏するなど、日本よりもラフに生きることができましたね。



バンベルク交響楽団アカデミーの仲間たちと

— 留学生活で大変だったことは？

やはり言葉の壁です。オーケストラアカデミーに所属していた時、コミュニケーション不足が原因で不穏な空気になったことがありました。海外では、日本のような「空気を読む」ということがまったくないので、「言わないと伝わらないんだよ」と指摘されましたね。文法は間違ってもいいから、恥ずかしがらずに伝えようとする気持ちが大切だと思います。

何事も焦らず、人生という「長い旅」の一部と考える

— 現職であるパリ管弦楽団へ入団された経緯を教えてください。

私にとって最初のポジションであるベルン交響楽団に入るまでには、20楽団ほどの入団オーディションにチャレンジしたと思います。最終審査まで残ることもあったのですが、最終合格がもらえない状況が続いていて、精

助野 由佳【すけのゆか】
ファゴット奏者

1990年兵庫県出身。2012年京都市立芸術大学音楽学部卒業。

スイス・チューリヒ芸術大学の修士課程へ進学し、在学中にバンベルク交響楽団のアカデミー生として研鑽を積む。第30回日本管打楽器コンクールにて第3位。エッセン交響楽団の契約団員、ベルン交響楽団の正団員を経て、2019年よりパリ管弦楽団のファゴット兼コントラファゴット奏者を務める。

神的に参ってしまって1か月間楽器を吹かない時期もありました。次も合格しなければ、楽器を売って日本に帰ろうとまで考えていたほどです。

現職であるパリ管弦楽団との出会いは大学4年生の時。ちょうど京都公演があり、生の演奏を聞いてから一番好きな楽団になりました。また、チューリッヒで習っていた先生がパリ管弦楽団の首席奏者だったこともあり、入団オーディションを記念受験したら、なんと合格。それまでたくさんのオーディションに落ちましたが、忍耐強く取り組んでよかったです。

— オーディションに落ち続けても、モチベーションを保つ秘訣はありますか？

しんどくなったら、立ち止まる。そしてしっかり休憩する。あとは、なかなか難しいことだけど、人と比べないこと。コンクールやオーディションに落ちても、続けないことには何も始まりません。試験の結果に一喜一憂せず、目の前のことにコツコツと取り組んでいくことが大切だと思います。結局、人はみなどこかに落ち着くところがあります。たとえばそれがオーケストラ奏者でなくても。焦らずに、何事も「長い旅」の一部と考えてみてはどうでしょうか。

世界一小さなコントラファゴット奏者

— 今後の夢や目標はありますか？

指導者として、ファゴットの楽しさを広めたいと思っています。また、私はコントラファゴット奏者でもあるのですが、日本でもどうしても「特殊管」というイメージがあり、コントラファゴットのレッスンをやっている大学はほと



パリ管弦楽団のコンサートの様子

んどないと思います。

一方、海外には専属の先生がいて、まったく特殊管ではありません。今後は指導者としても、より広くコントラファゴットの魅力を広めていきたいと思っています。

— 失礼かもしれませんが、助野さんは小柄なのに、大きくて重たい楽器であるコントラファゴットを演奏されています。大変ではないのでしょうか？

私は「世界一小さいコントラファゴット奏者」を自称しています(笑)。もちろん身体の使い方や呼吸の仕方、そしていろいろな奏法を試しました。探せば自分に合うやり方が必ずあります。それに、小柄であることが逆に強みになっていますよ。小さい体なのに、ホールいっぱい音が届いていたら、そのギャップで観客に印象を残すことができます。

— 最後に、京都芸大を目指す受験生や在学生にメッセージをお願いします。

少人数制が京都芸大の良いところ。音楽学部はみんな顔見知りで楽器の枠を超えて仲良くなれますし、卒業後もその人脈で新しい仕事につながっていくこともあります。また自由な校風のおかげで、私は副科のレッスンでもファゴットを持ち込んで、声楽の先生に聴いてもらったこともあるくらいでした。

大学の4年間って、本当にあっという間。在学中は忙しいと思いますが、目の前にある課題や本番の一つ一つ取り組んで、実体験を積み重ねていってください。

このインタビューのロングバージョンを本学ウェブサイトにて公開予定!

倉西宏嘉さん
構想設計専攻 3 年生*

取材日 | 2022/01/19
取材場所 | 大学会館ホール
*学年は取材当時



今作はこれまでの映像表現から離れ、視覚に頼らないインスタレーション作品を制作。実際の展示空間では完全に照明を消し、鑑賞者は暗闇の中をにおいと音を頼りに歩き進んでいく。

作家として第一線で活躍する先生たちが一対一で向き合ってくれる恵まれた環境で自分の表現や価値観を模索しています。

京都芸大を志望した理由を教えてください。

もともと映像を勉強したいと思って進学先を探していたところ、京都芸大の構想設計専攻を見つけました。一見すると何をしているところなのかが分からず、最初は「なんだこの謎な専攻は」と思いましたが、興味が湧いてオープンキャンパスにも参加しました。他の大学や専門学校は映像の中でも、実写やアニメーションなどそれぞれに特化しているところが多いですが、構想設計専攻は、実写やアニメーションだけでなく、インスタレーションやパフォーマンスなど、とにかく入学してから「何でもできる」というところが気に入って、現役の時は京都芸大しか受験していませんでした。また、京都の土地にも魅力を感じていました。



石橋義正教授から展示のアドバイス。完成まであと少し。

入学してみて、教員や周りの友人にはどのような印象を受けますか？

学生数が少ないので、先生が一対一で個々に

向き合ってくれる分、とても身近に感じています。一方で先生方は一人の偉大な作家でもあるので、近くに「教科書」となる人がいることは、とても有難いと思っています。同級生についても、同じ課題でアプローチの仕方が全然違うこともあり、常に刺激を貰えます。すぐ隣に別の世界が転がっている感じです。

現在取り組んでいる制作について教えてください。

現在の制作は、視覚以外の感覚に焦点を当てて取り組んでいます。目が見える人は、普段、外部情報の大半を視覚に頼っていますが、目が見えない人は、視覚以外からの情報で様々なことを把握しています。これは1回生の総合基礎実技の授業で学んだことですが、その時の学びをもとに、3~4回生の課題・テーマとして自分で設定しました。今回の作品展では、まず視覚情報を遮断し、においと音をメインに使った作品を発表します。これらの視覚以外の重要性を体験し、自分の価値観を見直せるような作品になればと。

授業や制作以外の時間はどのように過ごしていますか？

バレー部と野球部に所属しており、空き時間は体を動かしています。コロナ禍で、体を動かしていないと制作意欲が落ちることに気づき、適度に運動をするようにしています。あとは近所のうどん屋でアルバイトをしたり、

学外で個人的にいただく映像のお仕事をしたりしています。

今、大学で自分の好きなことをできていますか。

大学時代の目標のひとつに「いろんな人と関わって人脈を増やす」というのを立てていたので、コロナ禍でその機会が減ってしまったことは残念ですが、もともとやりたいと思っていた映像制作については何となく自由な感覚でもらっています。最近は映像といっても多岐にわたっているので、実写やアニメーションだけにとらわれない形も面白そうですし、これからいろいろなことに手を出そうと思っています。

最後に、将来の目標を教えてください。

近い将来の話にはなるのですが、大学院に進学して引き続き映像の道を探求していきたいです。ゆくゆくは、映像に関わるお仕事で食べていけるようになるのが理想です。



本学オープンキャンパスのYoutubeチャンネルでは、倉西宏嘉さんのインタビュー動画(2021年8月当時)がご覧いただけます。

森脇 涼さん
指揮専攻 3 回生 *



作曲専攻新作発表会の直前リハーサル。指揮者としてオーケストラをまとめ、新曲を仕上げる。



取材日 | 2022/03/04
取材場所 | 講堂
* 学年は取材当時

指揮者は演奏者との関わりが重要なので
京都芸大のアットホームな環境はとても助かっています。

京都芸大の指揮専攻を志望した理由を教えてください。

他大学に在籍していた時にオペラの指揮をさせていただく機会があり、その時の楽しかった経験をきっかけに指揮者を目指すようになりました。京都芸大に進学した理由は師事したい先生がいたからです。また伝統を重んずる京都という土地柄も魅力に感じていました。

好きな授業を教えてください。

オーケストラ実習です。実際に音が出で、どう指揮者が音楽を仕上げていくか、その過程を学べるのでとても勉強になります。

また実際にオーケストラを指揮させてもらえる機会もいただけるので、毎回責任感を持って授業に臨んでいます。

京都芸大の教員や友人・同級生はどのような存在ですか？

学生数が少ないので教員とお話できる機会が多く、勉強の悩みやプライベートな相談もできるほど身近な存在です。同級生とは廊下ですれ違えば立ち話をしたり、気軽にアンサンブルをしたりしています。

指揮者は自ら音を発することはなく、奏者に音を出してもらうので人との関わりはとても重要。ですので、このようなアットホームな環境はとても助かっています。

現在、どのような研究に取り組んでいますか？

現在はベートーヴェンの交響曲第3番のレッスンを受けています。1、2年生のうちに古典派の作品をしっかり学ぶことができ、それ以降の作品を見る目が変わっていくのが実感できました。

また、声楽専攻のオペラの授業にも聴講という形で指揮をさせていただいたり、ピアノを弾かせていただいたりすることでオペラのレパートリーも増やすことができています。

授業や制作以外の時間はどのように過ごしていますか？

部活動では、現代音楽研究会「club MoCo」に所属しています。今年度から発足した新しい部活で、顧問の酒井健治先生の指導のもと、学生が主体となって演奏会の企画や勉強会などを行っています。またアルバイトで譜面制作のお仕事をすることもあります。休日には、京都の街へ繰り出し、日本の歴史を感じたりしています。

今、大学で自分の好きなことをできていますか？

コロナ禍で演奏会の機会はかなり減っていますが、貴重な演奏の機会を糧に勉学に励んでいます。

最後に、将来の目標を教えてください。

イタリアオペラが好きなので、将来はどこかの歌劇場でオペラ制作の現場に関りたいと思っています。



現代音楽研究会「club MoCo」での活動の様子。



作曲専攻の中村典子准教授の研究発表会でも指揮を担当。

Guest Professor
and
Special Lesson

客員教授 による 特別授業



秋山和慶氏の指揮による第167回定期演奏会
(2021年12月10日)

総勢28名の客員教授による授業のほか特別授業も

学生が大学で学ぶ上で、芸術分野はもちろんのこと、幅広い分野において国際的な感覚を身につけることが重要です。その素養を身につけるため、世界を舞台に活躍する作家・演奏家・研究者など、アーティストをはじめとする多彩な方々を講師として本学にお招きしています。学生は、授業において、客員教授、特別講師から技術指導や研究への助言を受けたり、専攻を超えて開催される講演会に参加したりすることで、自らの視野を広げる貴重な機会が得られます。

客員教授による授業



彬子女王殿下による特別講義
(2021年12月13日)



森村泰昌氏による特別授業
(2022年4月22日)

特別授業

客員教授のほか、特別講師を招聘しての特別授業も年間で15回程度開催しています。



佐渡裕氏によるオーケストラレッスン
(2022年3月4日)



ウラディーミル・アシュケナージ氏による
ピアノマスタークラス
(2018年5月28日-29日)



五嶋龍氏によるヴァイオリンマスタークラス
(2018年6月13日)



公開特別講義 「パブリック・テラス」

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学内で大人数が集まってお話を聞くことができないことから、未来の芸術を担う本学学生のために収録した特別講義の動画のオンデマンド配信をスタートしました。

そしてこの配信を、広く一般の方々にもご覧いただけるよう「パブリック・テラス」と名付けました。

多くの文化とそれを支える人々の交差点としてある京都、そこに芸術の新たな息吹をもたらし、人々が集い、交換し、結びつく、そんな創造の現場であり続けることが京都芸大の役割です。

どうか京都芸大の「公開特別講義」を皆様の学びの機会としてご活用ください。

京都芸大Youtubeチャンネル
にて「パブリック・テラス」が
ご覧いただけます！



初回は2021年度より新たに本学客員教授に就任いただいた、メディアアーティストの落合陽一氏による特別講義「メディアアートとライフスタイル—作家として生きるススメ」を配信。アーティストを目指す本学学生へメッセージをお届けしました。

客員教授一覧 五十音順・敬称略

新規 は2022年度就任



杉子女王



秋山 和慶
指揮者



今藤 政太郎
長唄三味線方



インゴマー・ライナー
音楽学者 (歴史的演奏法研究)



大友 直人
指揮者



尾高 忠明
指揮者



落合 陽一
メディアアーティスト



久能 祐子
社会起業家



金剛 永謹
能楽金剛流 26世宗家



篠原 資明
美術評論家・詩人



須川 展也
サクソフォニスト



建昌 哲
美術評論家・詩人



時田 アリソン
音楽学者



富田 直秀
医療工学研究者・医師



中岡 司
文化庁機能強化特別アドバイザー



中村 功
パーカッショニスト



パスカル・ドゥヴァイヨン
演奏家・教育者



ハンスイェルク・
シェレンベルガー
オーガニスト・指揮者



東良 雅人
元 文部科学省
初等中等教育局 視学官



広上 淳一
指揮者



外園 祥一郎
ユーフォニアム奏者



皆川 魔鬼子
テキスタイルデザイナー



森田 りえ子
日本画家



森村 泰昌
美術家



門内 輝行
建築家



山極 壽一
人類学・霊長類学研究者



ヤロスラフ・トゥーマ
オルガン・チェンバロ奏者



横山 幸雄
ピアニスト

美術学部	17
日本画専攻	22
油画専攻	24
彫刻専攻	26
版画専攻	28
構想設計専攻	30
2023年度、デザイン科は新体制へ	32
総合デザイン専攻	34
デザインB専攻	36
陶磁器専攻	38
漆工専攻	40
染織専攻	42
総合芸術学専攻	44
[大学院] 美術研究科 修士課程	46
[大学院] 美術研究科 博士(後期) 課程	47
作品展	48
音楽学部	49
作曲専攻	52
指揮専攻	54
ピアノ専攻	56
弦楽専攻	58
管・打楽専攻	60
声楽専攻	62
音楽学専攻	64
[大学院] 音楽研究科 修士課程	66
[大学院] 音楽研究科 博士(後期) 課程	66
定期演奏会	67
教職課程	68
研究センター/学外ギャラリー	69
日本伝統音楽研究センター	70
芸術資源研究センター	72
@KCUA(アクア)	74
キャンパスライフ	75
大学施設	76
クラブ活動・大学行事	78
学生生活サポート	79
キャリアデザインセンター	80
学外連携事業	82
国際交流	84
年間行事予定	86
大学情報	87
歴史・沿革	88
教育・研究理念	89
教育方針(ポリシー)	90
入試情報	92
学費・奨学金	94
進路	95
教員一覧	97
オープンキャンパス/進学説明会/アクセス	98



美術学部／美術研究科

美術, デザイン, 工芸, 総合芸術学の4つの学科で構成された美術学部。国際的な芸術文化都市・京都の資源を生かし, 独創的で多様な研究を背景に, 専門的で横断的な教育を通して, 優れた芸術家や独創的な人材を生み出しています。

<https://www.kcua.ac.jp/arts/>

4年間の学び	18
総合基礎実技・テーマ演習・共通教育	20

〈美術科〉

日本画専攻	22
油画専攻	24
彫刻専攻	26
版画専攻	28
構想設計専攻	30

〈デザイン科〉

2023年, デザイン科は新体制へ	32
総合デザイン専攻	34
デザインB専攻	36

〈工芸科〉

陶磁器専攻	38
漆工専攻	40
染織専攻	42

〈総合芸術学科〉

総合芸術学専攻	44
---------	----

[大学院]

美術研究科 修士課程	46
美術研究科 博士(後期)課程	47
作品展	48
教職課程	68

過去3年間の就職先・進路の一覧はp.95-96



アトリエ棟

美術科の4専攻(日本画・油画・版画・構想設計)とデザイン科2専攻が入る。総合基礎実技の実習もここで行われる。



彫刻棟

彫刻専攻で修得する, 鉄の溶接や鋳造, 木彫, 石彫, 陶彫と多様な手法を扱うための設備が揃っている。



染織棟・漆工棟・陶磁器棟

工芸科の3専攻で修得する各手法を学ぶための設備が整っている。染織棟の一部はギャラリーとしても活用。

4年間の学び

1年次の前期は「総合基礎実技」から 科・専攻の枠を超えて学びをスタートする

美術学部は、美術科、デザイン科、工芸科、総合芸術学科の4つの学科から成ります。入試は、この4つの学科ごとに募集し、各専攻に分かれるのは、1年次前期の「総合基礎実技」を履修した後、各専攻の基礎を学んでから。2年次以降（デザイン科は3年次以降）、それぞれの専攻の学びと実技へと進んでいきます。

本学の芸術教育の特色は、創造活動の土台となる基礎力の育成を重視する点にあります。入学後の半年間、美術学部すべての新入生が、科・専攻の枠を超え、総合基礎実技を履修します（P.20参照）。



総合基礎実技の様子

卒業制作展ではなく、「作品展」 全学年の展示会に1年次から出品

卒業・修了年生だけでなく、学部1年生から大学院修士課程2年生までの全学年が作品を展示。毎年作品を作り上げ、搬入・陳列・搬出まですべて学生自らが行います。

学部卒業までに4回、大規模な作品展に参加できることは、学生たちにとって重要な経験となります。（P.48参照）



2021年度の作品展は、本学キャンパス（写真上）と京都市京セラ美術館（写真下）が展示会場となった



1年次後期から始まる「専攻基礎実技」 自分の進む専攻の基礎づくりを

総合基礎実技が終われば、専攻の基本をしっかりと学びます。目指す専攻によって求められる基礎知識や技術はそれぞれ異なるため、学習内容も各専攻でカリキュラムが組まれ、期間も科によって違いがあります。本格的な専攻実技を履修する前に、素材についての知識、描画などの技法、道具や機械の扱い方など、練習や体験を重ねて学んでいきます。（各専攻ページP.22-45参照）

基礎から専攻へ

本学は専攻別入試ではなく「科別入試」を採用しています。1年次前期の総合基礎実技を履修後、各専攻の基礎実技を学び、希望する専攻へ進みます。

美術科

1年次後期-2年次前期、5専攻の基礎実技の中から、半年ずつAとBの2回の基礎実技を自由に選択（日本画専攻を除く）、2年次後期から本格的な専攻実技に進みます。各専攻に定員はありませんので、希望する専攻に必ず進むことができます。（ただし、2年次後期からの専攻実技に進む際、各専攻の基礎実技の履修が条件となる場合があります）

デザイン科

1年次後期のデザイン基礎1で2専攻[※]の基礎を学び、2年次に各専攻の基礎実技を選択、3年次から各専攻に進みます。

[※] デザイン科は、2023年4月から「総合デザイン専攻」と「デザインB専攻」の2専攻になります。詳しくはP.32-37をご覧ください。

工芸科

1年次後期の工芸基礎で3専攻の基礎を学び、2年次から各専攻に分かれます。

総合芸術学科

1学科1専攻。1年次から総合基礎実技と併せて、基礎演習が始まります。

専攻別構成図()内は募集人数

	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
美術科 (70名)	美術科基礎A 下記から1つ選択 日本画基礎A 油画基礎A 彫刻基礎A 版画基礎A 構想設計基礎A	美術科基礎B 下記から1つ選択 日本画基礎B 油画基礎B 彫刻基礎B 版画基礎B 構想設計基礎B	日本画専攻						
			油画専攻						
			彫刻専攻						
			版画専攻						
			構想設計専攻						
デザイン科※ (30名)	総合基礎実技 デザイン基礎1	デザイン基礎2A 下記から1つ選択 総合デザイン基礎1 デザインB基礎1	デザイン基礎2B 下記から1つ選択 総合デザイン基礎2 デザインB基礎2	総合デザイン専攻					
				デザインB専攻					
工芸科 (30名)	工芸基礎	陶磁器基礎A	陶磁器基礎B	陶磁器専攻					
		漆工基礎A	漆工基礎B	漆工専攻					
		染織基礎A	染織基礎B	染織専攻					
総合芸術学科 (5名)	他専攻の基礎	他専攻の基礎	総合芸術学科 基礎実技	総合芸術学演習					
	基礎演習A-1	基礎演習A-2		調査研究・ 企画運営演習A・B	基礎演習B				

※デザイン科は、2023年4月から「総合デザイン専攻」と「デザインB専攻」の2専攻になります。詳しくはP.32-37をご覧ください。

午前は講義、午後は実技
メリハリをもって学習と制作に集中する

新しい芸術を生み出すための自由で豊かな発想力、思考力を育成するためには、多岐にわたる幅広い教養と深い洞察力が必要です。そのための教養教育および学科教育は、芸術創出のための知的活力の基盤ととらえています。科目は、哲学や社会学などの「芸術文化」、宇宙物理学や現代生物学、数学、人間工学といった「芸術科学」、また日本美術史や西洋美術史などの「芸術学・美術史」を系列ごとに編成。ほかに外国語演習やコンピュータ演習、体育など。授業はすべて午前中に行います。

一方、実技は午後から。実技教室や制作室、工房などで、作業のほか、ゼミや合評を行います。

※「テーマ演習」(P.21参照)など、一部午後に行われる科目もあります。



美術学部の授業科目

学科教育

芸術に関わる幅広い視野と、専門的な知識の修得のためには、芸術の各ジャンルを越えて、さまざまな知の領域を横断しながら学ぶ教養教育が不可欠です。そのため学科教育では、「芸術文化」「芸術科学」「芸術学・美術史」の各系列ごとに科目を編成しています。その幅広い授業内容から知識と教養を深め、各自の専門性を高めることを促し、異なる芸術領域を横断する知的活力を養成します。

多彩な教員

柔軟な思考力と独自の発想力を育てるため、専任教員はもとより、学外からもさまざまな分野の専門家を非常勤講師として迎え、多彩な内容の授業科目を設けています。専門的な知識・技法の修得のみならず、論理的な思考力・課題解決力の育成を目指して、授業を構成。少人数による密度の高い教育課程の中で、教員は個々のテーマに合わせた課題を設定し、学生一人ひとりが自らが学ぶ能力の修得を目指します。

外国語教育

外国語は、英語・フランス語・ドイツ語を学びます。実践的な表現力の修得はもとより、外国語学習を通して言語・文化などを幅広く考察しながら、現代社会の理解を目指します。

保健体育

技術の修得や発揮、芸術活動の継続にとって基盤となるのは身体です。スポーツの実践・競技技術の鍛錬により身体運動能力を養うことは、総合的な判断力の涵養にもつながります。保健体育科目で、心身のバランスのとれた学生生活を支援します。

教職課程・博物館学課程

教職課程および博物館学課程では、卒業生の多数が教員免許並びに学芸員資格を取得しており、卒業後の活躍の場を広げています。(教職課程 P.68参照)

総合基礎実技

40年を超える実績

新入生のすべてが履修する「総合基礎実技」というプログラム



美術学部には、40年以上の実績がある領域横断型のユニークな授業があります。それが「総合基礎実技」(略称：総基礎)。受験実技から創作の世界へとスタートを切るうえで、非常に重要なプログラムとして、この授業を位置づけています。

美術学部の新入生は全員、所属の科に関係なく4クラスに編成され、科の枠を越えた課題に取り組めます。指導を担うのも、実技や学科、専門分野の枠を超えた教員。各領域に通じるテーマが設定され、テ

マに基づく課題を展開していき、展示として成果を発表します。授業の形態は、関連講義のほか、ワークショップや、チュートリアル(個別指導)、個人またはグループによる制作、学外研修、発表、合評などさまざま。

入学直後から半年にわたり取り組む中で、異なる方向性をもった学生同士、学生と教員の間コミュニケーションが生まれます。自己の視野を広げ、多様な学問領域の人と人との間に交友関係を築いていくことも、芸術という大海に船出するための豊かな礎になります。



〈 2021年度の総合基礎実技 課題紹介 〉

課題テーマ『ビジュツって、なんの術?』

どんな環境の中でも私たちは生きていけるように、さまざまなすべ(術=arts)を開拓してきましたが、「美術」もその一つです。美術という言葉は明治初期、英語の「fine arts」をイメージして訳されたものですが、いま一度、その「ビジュツ」が、私たちにとってどのように必要なのかを探ってみましょう。

第1課題 「伝える術」

何をどう伝えるか、その術と向き合いました。伝える対象は京都芸大。キャンパス全体を全学生で均等にエリア分けし、自分のエリアを調べること、ボードに任意の場所を上から見て描くことの2課題を行いました。雑木林の中、グラウンドの片隅など、この課題がなければ在学中、足を踏み入れることがなかったかもしれない場所に数週間通うことになりました。



第3課題 「魅せる術」

「魅せる術」とは印象を深くするための術で、意思や目的をもって演出・編集することをいいます。6つのワークショップやレクチャー(触覚・身体表現・草稿・文学・映像・フードデザイン)を準備し、そこで示された動詞と手法を手掛かりにこの術の可能性について考えました。また、「見る人の心を捉える、身体性を伴った時間的・空間的表現を行う」という課題にも取り組みました。



第2課題 「わかる術」

物事が「わかる」ためには、そこに紐づけられた多様な意味を解体し、その本質を見極める必要があります。異なるものを連想で結びつける遊び心満載の「見立て」を軸に、「見立てスコープ」を用いて景色を切り取ったり、自分が描いた水墨画の中に何かを発見したり、「宇宙人の私が見た日本の京都」という課題で取材し、何かを発見し、それを何かに「見立て」ることにしました。



第4課題 「はかる術」

目の前に確かに存在しているもの、遠く手が届かないところにあって見えないもの、心の中にあって形のないもの、そのような私達に関わりがあり、それがどのようなものか調べなければならぬ対象に迫るすべ、それが「はかる術」です。複数のエクササイズに複数のグループで取り組み、「迫るべき対象」を選択し、目に見え、手に触れることができるような形にして発表しました。



テーマ演習

幅広い視野と探究心とコミュニケーション能力を養う 3回生から参加できる本学独自の教育カリキュラム

テーマ演習は、総合基礎実技と並ぶ、本学独自の教育カリキュラムです。一定のテーマに沿って、学生と教員が専攻を超えて、実践的な研究活動を行うことで、芸術に関わる幅広い視野と探究心、そしてコミュニケーション能力を養います。研究テーマを学生から提案できることもこのカリキュラムの魅力の一つです。



「街道をめぐる」ゴール地点の鯖街道口にて

テーマ演習の一例

* ()内は担当教員

街道をめぐる

(上英俊, 宇野茂男, 川島渉, 安藤隆一郎, 田島達也, 安井友幸, 永守伸年)

「鯖街道」の歴史や鯖の運搬法・調理法について学び、小浜市から京都市出町柳までの鯖街道約80kmを2日間で完歩、その旅を言葉と絵で綴る作品を制作する予定でした。しかしコロナ禍の中、各自が自宅を中心に安全を祈願して五芒星(結界)の形を描くルート歩き、参加者が歩いた総距離で大学を中心に大きな五芒星を地図上に描くこととなりました。本番に向け、帽子や手ぬぐいなどのグッズをデザイン・制作し、職員も巻き込み歩いた総距離は合計1,696km。非常に大きな五芒星となりました。



和菓子の文化史

(田島達也)

和菓子、特に上生菓子について、銘や色形に込められた意味を様々な角度から学びました。そして「練り切り・きんとん・こなし」、「錦玉・琥珀糖・寒天」、「饅頭・団子・どら焼き」の3つのグループに分かれ、百人一首を題材にした和菓子をそれぞれ制作しました。百人一首に詠まれた様々な情景から造形のイメージを膨らませることによって、情緒ある美しい和菓子を作ろうと考えました。技術的な難しさもありましたが、独創的で作品性の高い和菓子が出そろいました。



祇園祭の鷹山の復興デザイン計画

(吉田雅子, 滝口洋子, 日下部雅生, 川嶋渉)

江戸時代の文政9(1826)年の暴風雨により損害を被り、祇園祭の巡行から退いていた山鉦のひとつである「鷹山」が、約200年ぶりに正式に巡行に復帰するに当たって、その復興プロジェクトに取り組みました。「音頭取り(山鉦を先導する人)」や「車方(車輪を操作する人)の衣装や、山鉦の下部につける「裾幕」などをデザインしました。「鷹山」の歴史的復活に、学生がデザインした衣装や裾幕が使われ、歴史に残っていきます。



共通教育

美術学部では、学科教育・教養教育やテーマ演習など全専攻生を対象とした科目のすべてを「共通教育」と位置づけています。新たな芸術を生み出す自由で豊かな発想力・思考力を育むための幅広い教養と深い洞察力を磨きます。芸術を創出するための知的活力の基盤となるプラットフォームとして、活発な知の交流を目指しています。

教員

*非常勤講師の一覧は、本学ウェブサイトをご覧ください。



三木 博 教授
専門 教育人間学ほか



飯田 真人 教授
専門 美術教育



上 英俊 教授
専門 保健体育



玉井 尚彦 准教授
専門 理論言語学ほか



磯部 洋明 准教授
専門 宇宙物理学



中村 翠 准教授
専門 フランス文学



永守 伸年 講師
専門 哲学、倫理学

日本画専攻

Nihonga



百四十年の歴史と伝統 理論,技法,描く力を養う

本学オープンキャンパス Youtube チャンネルで、日本画専攻の渡邊京子さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



日本画専攻は、本学が1880年に日本初の公立絵画専門学校として開設されて以来、日本画の制作指導と、制作理論の研究を行ってきました。連綿と続いてきた基礎技術の指導により表現技法を修得した上で、現代における日本画表現と技法を学び、また制作理論の基礎を研究し、日本画を制作していきます。

同時に古画研究を通して、古典絵画における様式研究や技法研究を行い、原作の評価と鑑賞の方法を学び、日本画制作における評価能力を養います。

伝統に培われた指導により技術を獲得し、さらに今日的な感覚と知識、絵を見る目を持ち、日本画制作を続けていく力を修得します。



| 4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	日本画基礎 A	日本画基礎 B	日本画専攻実技	研究室1~3から1つを選択し、制作を進める。			

日本画基礎 A・B (1年次後期・2年次前期)

1年次前期の総合基礎実技を履修後、すぐに専攻基礎実技が始まります。「日本画基礎 A」・「日本画基礎 B」では、ものの見方や捉え方をさまざまなアプローチによる写生や古画研究などを通して学び、この後の日本画材を用いた絵画制作のための基礎を養います。

日本画専攻実技 (2年次後期)

「人体」を対象にした課題制作を行います。ヌードモデルのさまざまなポーズを、主に線を用いたデッサンで量感や空間の捉え方などを意識しながら何枚も行います。それらを基に、日本画材を用いた絵画制作を行います。

研究室1・2・3 (3年次・4年次)

3年次より、下記の3つの研究室から1つ選択し履修します。研究室の変更は、半期ごとに可能です (4年次は通年で履修することが望ましい)。

研究室1

古画 (近代以前の日本美術や日本美術に影響を及ぼしてきた異文化の古典絵画など) が有する美意識、様式、表現技法について時代、地域を俯瞰的に考察することを軸に模写制作を含む絵画表現の探究を行います。

研究室2

主に外界の写生を通して対象を観察し、現場から身体感覚として得たものを基に本画制作へ進むというプロセスを軸にした作品を展開していきます。

研究室3

写生から本画に至るまでのさまざまなプロセスの可能性を、チュートリアルなどを通して実践的に探り、作品を展開していきます。

教員



川嶋 渉 教授
専門 日本画



奥村 美佳 准教授
専門 日本画



小島 徳朗 准教授
専門 日本画



正垣 雅子 准教授
専門 日本画模写



谷内 春子 講師
専門 絵画制作



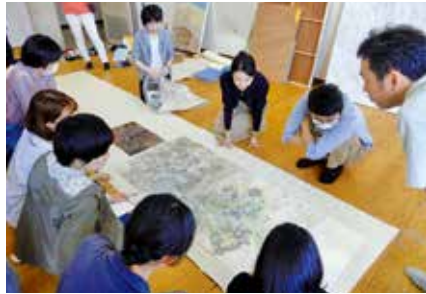
三橋 卓 講師
専門 絵画制作



翟 建群 特任准教授
専門 日本画

非常勤講師

- ・ 池上真紀
- ・ 井上 舞
- ・ 梶岡百江
- ・ 北川 咲
- ・ 上坂秀明
- ・ 幸山ひかり



専攻独自の取り組み

日本画教育と研究を再構築

日本画研究室では、教員と学生が「現在の大学における日本画教育と研究を、今日的な視点から見直し、改めて再構築する実践と研究」に取り組んでいます。

その内容は日本画制作を軸とした研究、カリキュラムの改善、学生のさまざまな進路に生かせる教育体制の構築、社会資源としての活用など多岐にわたります。

伝統的かつ柔軟なカリキュラム

この「現在の大学における日本画教育と研究を、今日的な視点から見直し、改めて再構築する実践と研究」に基づき、2015年度より、現在の多様化する日本画表現に対応すべく、3年次から選択できる特色の異なる3つのゼミを開設しました。さらに2020年度より、2年次までの基礎カリキュラムについても、本学日本画専攻の特徴の一つでもある写生教育を引き継ぎながら、新たな視座を交えた内容へと転換をはかっています。様々な視点を持ちながら創作する力を磨くことで、卒業後の多様な進路において、また刻々と変化する課題にも柔軟に対応できる能力を身につけることを目指します。

東アジアレベルでの岩彩画の展開

岩彩画（中国での日本画材を用いた絵画の名称）研究において、中国との国際交流を行ってきました。2019年度は、中央美術学院・上海美術学院の教員を招聘し、中国での岩彩画教育と本学日本画教育の現状について意見交換をしました。2021年度においても、オンライン授業の形式で教員を招聘し、交流を続けています。



STUDENT'S VOICE

濃密で面白い世界がここにはあります。



日本画専攻4年生
安藤 梨香 さん

本学の日本画専攻は、非常に長い歴史がありますが、融通の利かない型がある訳ではありません。学生ひとりひとりが「好きな日本画」を追求できる環境があり、先生方はそれを導いてくださいます。

そして、最初は「好きな日本画」がわからなくても大丈夫です。ゼミに分かれる前の基礎カリキュラムは、しっかりと日本画の基本を学びつつ、自分を見つめ

直すことのできる有意義な期間になると思います。

私は専攻の選択時、自分が何をしたいのか具体的にわからず、「とりあえず」という気持ちで日本画を選びました。しかし上回生になった今は、毎日制作を楽しんでいる自分がいます。そうなるだけの理由が、この濃密で面白い世界にはあるのです。是非その世界を味わいに来てください。

油画専攻

Painting



表現に至る明確な動機と 個性豊かな絵画技法を探求する

価値の多様化が進む今日、「表現者」の果たす社会的役割はますます大きくなると言えます。そのため美術家には、表現に至る明確な動機と個性豊かな技法とを探求していく自立

心が必要です。

油画専攻では、1年次後期と2年次前期に全教員による基礎授業を実施、2年次後期からは個人指導を中心に、各学生に内在する個性

本学オープンキャンパスYoutubeチャンネルで、油画専攻の伊藤さき代さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



を伸ばしていきます。併せて、絵画の社会的意義を認識させ、十分な見識と技術を身につけた表現者の育成を目指しています。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	美術科基礎A	美術科基礎B	各自の希望に応じて、3教室(油画1~3)のいずれかを選択し履修			油画1~3から1つを選択し、卒業制作を進める。	

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期と2年次前期で美術科の基礎実技(日本画基礎、油画基礎、彫刻基礎、版画基礎、構想設計基礎)A・Bを履修します。

油画専攻に進むためには、「油画基礎A・B」のいずれか、または両方の履修が必須です。*

* [その他の基礎A・B] …日本画基礎P.22, 彫刻基礎P.26, 版画基礎P.28, 構想設計基礎P.30参照

油画基礎A・B(1年次後期・2年次前期)

“ワークショップ”では、さまざまな画材を使った実習を通して基本となる技術への理解を深めます。“ドローイング”では、完成された絵画作品に至る前の思考／試行を繰り返します。“ペインティング”では、個人それぞれの多様な技法に基づく絵画表現を試みます。「油画基礎B」の最後は、制作室を使った展覧会を学生主導で企画・展示します。

油画1・2・3(2年次後期・3年次・4年次)

少人数制の各教室での授業を通じ、水彩や水彩、アクリル、フレスコなどの技法を学びつつ、複合的な絵画表現の研究と制作を行います。油画専攻では、「つくること=制作」, 「みること=批評」, 「おくこと=展示」の技法を、実践的に学ぶことができるカリキュラムに基づいて制作研究を行っています。

次の3つの教室は、段階的に順を追って履修するものではなく、担当教員の研究内容に応じて編成されており、2年次後期から4年次までの学年を超えた混合教室となっています。半期単位で教室を自由に移動することができます。

油画1+ 壁画

手と材料という非常に原始的な手段を頼りに、自分にとっての絵のあり方を探します。そして、出来た作品へのレスポンスとして次の作品に取り組みます。そのシンプルな繰り返しの中でテーマを探り、作品を体系化していきます。

油画2

絵画における主題性を軸とし、自由で柔軟な思考と方法で、真摯に作品を展開することを目標とします。多種多様な視点が芽生える、今日のアート。この教室では新たな絵画の可能性を問い直していきます。

油画3

平面表現の可能性を拡張し、近代の「絵画」概念を更新する「もう一つの絵画」を探求します。映像、写真、立体、音響などさまざまなメディアと交雑するハイブリッドな実験制作を行い、表現の多様性を開拓します。

教員



森口サイモン 教授
専門 絵画



石原 友明 教授
専門 現代美術



渡辺 信明 教授
専門 絵画



法貴 信也 教授
専門 油画



金田 勝一 教授
専門 油画



伊藤 存 教授
専門 現代美術



児玉 靖枝 特任教授
専門 絵画

非常勤講師

- ・ 川口奈々子
- ・ 川田知志
- ・ 黒宮菜葉
- ・ 中田有美
- ・ 船越 董
- ・ 堀 奏太郎
- ・ 増田佳江
- ・ 本山ゆかり
- ・ 森 千裕



専攻独自の取り組み

ゆうゆうバス再生プロジェクト

京都市西京区の市立上里小学校には、古いバスの車体に児童たちの夢や願いを描いた「ゆうゆうバス」が置かれています。バスの車内は図書室として利用されており、長年にわたり同校の児童たちから愛されてきましたが、色落ちが進むなど傷みが目立つようになったことから、校長先生からの依頼を受け油画専攻生たちが、児童の皆さんの夢や願いをバスの車体に描きました。



学長室壁画プロジェクト

油画専攻には西洋古画技法であるフレスコ技法を学ぶ教室があります。学長室の壁にフレスコ壁画を制作しようと、教員の指導のもと漆喰で塗る作業や、下絵を転写し顔料を使って描くプロセスを、学生たちが実践的に学びました。今では京都芸大のシンボルです。完成後は、応接室として、学長と学生との対話の場として、音楽学部の学生による演奏会の場として、開かれた学長室になっています。



STUDENT'S VOICE



油画専攻4回生
峰松 沙矢 さん

様々な観点から表現について思考できる専攻です。

私が油画専攻を選んだ理由は、油画専攻という名称でも表現方法は油絵具にとどまらず、さまざまなメディアで幅広く制作ができるからです。同時代性を兼ねた表現媒体やコンセプトから、古典的な表現方法の追求まで、自分の課題を自由に設定し制作することができることは、この専攻の魅力の一つです。そしてゼミでは、ワークショップや、美術館・ギャラリー

での作品鑑賞などを行います。半期に3回ずつ行われる合評は、全学年で行うので、学年問わずさまざまな議論や批評が展開できます。作品を発表するプレゼンテーション力や、新たな視点から自身の作品を見つめ直すこと、社会とのつながりについて考えることなど、様々な観点から表現について思考できる専攻です。

彫刻専攻

Sculpture



彫刻基礎A 鉄の課題

独自の視点で事象を捉え 表現へと展開・構築する方法を探る

確かな実感をもって捉えた自然界や人間社会のあらゆる事象が、彫刻表現の源泉です。そして、心動かされる事柄や思考を、物質や画像など適切なメディアを用いて、現実空間に変換し、表し、記憶にとどめ、他者と共有しようとするのが、彫刻するという事です。

彫刻専攻は、さまざまな事象を独自の視点で捉え、表現へと展開し構築する方法を探る場であり、人と人、人と社会、人と自然を結びつける芸術本来の役割を担える人材を育てることを目標としています。

本学オープンキャンパスYoutubeチャンネルで、彫刻専攻の大西亜花里さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	美術科基礎A	美術科基礎B	彫刻1~3の中から1つを選択し履修。 各個人が教員との対話を繰り返しながら、研究計画を立て、自由制作を行う。			彫刻1~3から1つを選択し、卒業制作を進める。	

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期と2年次前期で美術科の基礎実技(日本画基礎、油画基礎、彫刻基礎、版画基礎、構想設計基礎)A・Bを履修します。彫刻専攻に進むためには、「彫刻基礎A・B」のいずれか、または両方の履修が必須です。*

* [その他の基礎A・B] …日本画基礎P.22、油画基礎P.24、版画基礎P.28、構想設計基礎P.30参照

彫刻基礎A・B

(1年次後期・2年次前期)

「彫刻基礎A」では、観察を出発点に鉄や石、自然木、陶土など実素材を使った制作過程を体験・修得します。「彫刻基礎B」では、立体的



彫刻基礎B 石の課題

な表現に関する発想と展開にあたっての着眼点について、また素材の特性や、制作に必要な加工技術と取扱いの知識を学びます。

彫刻1・2・3(2年次後期・3年次・4年次)

下記の3つ研究室(彫刻1~3)の中から1つを選択し、自由制作とゼミを行います。研究室は半期ごとに自由に選択し履修します。

彫刻1

彫刻の造形原理を学ぶことにより、その展開と表現ができるようになることを目指します。

彫刻2

自己と、自己をとりまく現実世界との関係性から制作の糸口を探り、その展開と表現ができるようになることを目指します。

彫刻3

各自の制作研究活動を、自発的に探査し展開する活動として捉え、その方法の多様性を理解し拡張を試みます。

教員



松井 紫朗 教授
専門 彫刻



小山田 徹 教授
専門 彫刻



中原 浩大 教授
専門 彫刻



安藤由佳子 准教授
専門 彫刻



金氏 徹平 准教授
専門 彫刻

非常勤講師

- ・ 大塚朝子
- ・ 黒川 岳
- ・ 村上美樹

専攻独自の取り組み

彫刻、映像、パフォーマンスに関するワークショップ

「パフォーマンスとメディア・アートのラディカリズム—ジョーン・ジョナスとその変遷あるいは継承—」ロームシアター京都で行われた第34回京都賞記念ワークショップ(主催:稲盛財団)。アーティストユニットのコンタクトゴンゾとともに彫刻専攻をはじめとする学生が参加しました。

(提供:稲盛財団/写真:井上嘉和)



身体の立体的描写

塑像での身体表現とそれを用いた動画作成を通して、身体を捉え直し再構築します。



登り窯実習

粘土は心に思い描いた形をすばやく目の前に実現することのできる素材のひとつです。これに焼成のプロセスを加えることで、より安定した媒体とな

り、古来さまざまな民族に用いられてきました。彫刻ではこの技法について、登り窯実習として数年に一度、実体験できる機会を設けています。



共有空間の獲得

「場を自ら獲得することは、関係を作り出すことでもある」との考えのもと、さまざまな共有空間の創出を学生と共にを行っています。

(写真: Weekend cafe)



STUDENT'S VOICE



彫刻専攻4回生
武田 真佳 さん

たくさんの選択肢に、ゆっくりと悩む場所です。

彫刻専攻には、決まったルールがありません。基礎の授業で木や鉄、石、樹脂、 casting、木工、陶彫などをひと通り学んだあと、扱う素材や制作場所、テーマややりたい事などを自分で考えて決めます。たくさんの選択肢に悩む時もありますが、彫刻専攻はそんな時間がゆっくりと流れている場所だと思います。

また、比較的重たいものや、大きいものを扱うことが多いので、学年を超えて学生や講師の方と協力しながら作業をすることがあります。そういった共同作業の中で生まれるコミュニケーションや体験は良い刺激になり、また何かの発見に繋がったりします。私たちはいろいろな人と関わり合い、制作をして過ごしています。

版画専攻

Printmaking



浮世絵から3Dプリンターまで 伝統文化と最先端技術が交錯

人は、世界中にはり巡らされたネットワークを通じて、自由に情報を交換できるようになりました。その源流として、印刷技術の出現が人々の生活を根本的に変えてしまったという歴史があります。では、現代において、印刷された美術、版画はどのような役割を果たすべきなのでしょうか。京都芸大の版画

専攻では、版を単に複製のために使うのではなく、版を使うことによって生まれる表現の独自性に注目しています。絵筆などで直接表現するよりも、何かを仲介させる「間接表現」に新たな可能性があると考え、「版」の多様性と複数制作できる特質を最大限に活用した現代の版画表現を追求するとともに、

本学オープンキャンパスYoutubeチャンネルで、版画専攻の山口はるきさんのインタビュー動画がご覧いただけます。



情報伝達メディアから表現メディアとなった「版画」を重層的にとらえ、あらゆる可能性を追求していこうというのが版画専攻の今の姿です。版画の思考で現代を切り拓き、時代を超えた新たな創造活動に挑戦する人材の育成を目指しています。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	美術科基礎A	美術科基礎B	版画基本4版種より一つの工房を選択するが、他の工房での制作も可能。合評会に出品するほか、個別指導やグループ演習でステップアップを目指す。特別講義も行われる。			これまでのカリキュラムに加え、共同での版画集制作や、卒業制作を目標とする。	

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期と2年次前期で美術科の基礎実技(日本画基礎、油画基礎、彫刻基礎、版画基礎、構想設計基礎)A・Bを履修します。

版画専攻に進むためには、「版画基礎A・B」のいずれか、または両方の履修が必須です。*

* [その他の基礎A・B] …日本画基礎P.22, 油画基礎P.24, 彫刻基礎P.26, 構想設計基礎P.30参照

版画基礎A・B(1年次後期・2年次前期)

ドローイング、イメージ構成などにより作品制作の基礎造形力を養います。「版画基礎A」では、技術修得を基盤としたシルクスクリーン基礎、木版画基礎を、「版画基礎B」では、銅版画基礎、リトグラフ基礎を開講。また、版画の現状を紹介し論ずる「版画論」、デジタル写真とPCによる画像処理の基礎「映像」も、並行して学びます。

版画基本4版種(2年次後期・3年次・4年次)

次の4版の中から1つのメジャーワークショップ(工房)を選択します。

- 「凹版」…銅版画など
- 「凸版」…木版画など
- 「平版」…リトグラフなど
- 「孔版」…シルクスクリーンなど

工房同士は緩やかに結びついているため、例えば写真製版工房は全版種共通で利用でき、工房ごとのスキルアップと版種を越えた指導が混在しています。



授業・技法演習ほか

授業では、適宜開かれる合同合評会に出品し、技術と知見を向上させます。技法演習では、作品に応じた個別指導、グループによる演習などでステップアップを目指します。また、世界的に活躍する作家、専門職の技術者を招いた特別講義も行います。



| 教員



田中 栄子 教授
専門 リトグラフ、絵画



大西 伸明 教授
専門 銅版画、マルチプル



吉岡 俊直 准教授
専門 シルクスクリーン



王 木易 講師
専門 木版画

| 非常勤講師

- ・ 伊藤学美
- ・ 清水 穂
- ・ ジョン・ケネス・ミラー
- ・ 藤田紗衣
- ・ 松井亜希子
- ・ 松元 悠
- ・ 森糸沙樹
- ・ 山田真実
- ・ 芳木麻里絵

| 専攻独自の取り組み

全国大学版画展

全国大学版画展には本学から毎年10名前後の学生が出品しており、300点近くある力作の中から与えられる優秀賞や買い上げ保存賞・観客賞など、本学の学生は毎年受賞を続け、優秀な成績を収めています。



版画集制作授業

30年以上続いている、卒業・修了生による版画集制作。作品を複数制作することができる特徴を生かして、制作された版画集は貴重な資料として研究室や図書室などに保管され続けており、各自が1部ずつ受け取り卒業・修了していきます。



学外授業 - 印刷

3回生を対象とした学外授業では、大学で行う作品制作以外の「印刷」について学びます。2021年度は「オフセット」「活版」「リソグラフ」の3種類を実際に体験しました。印刷会社や印刷スタジオを訪ね、プロの職人の方々から、それぞれの印刷の特徴や歴史などについて直接お話を伺いながら、学生自身が作成した原稿を実際に印刷しました。



STUDENT'S VOICE



版画専攻4回生
高橋 弦希 さん

版を介することで新しい表現や可能性に出合えます。

版画専攻は先輩や後輩といった縦横の隔たりがないアットホームな環境が魅力だと思います。私は作品制作が行き詰まったとき、周りによく相談をします。個性豊かな版画表現があふれていますが、その制作工程では共通している部分が多く、専門の先生に指導いただく以外にもたくさんの友人達と技術的な知識や経験を共有することができます。それによって一人では獲得しえないようなアイデアや新たな視点を

得ることができ、具体的な会話から制作のヒントへとつながる場合も多く、自身の作品についての可能性や表現のレベルが高まるのを実感しています。現代美術の多様な思考や表現方法がある中で、印刷技術としての側面を持つ版画において、「版を介する」ことで共有できるさまざまな価値は京都芸大の中で一番熱いと思っています。

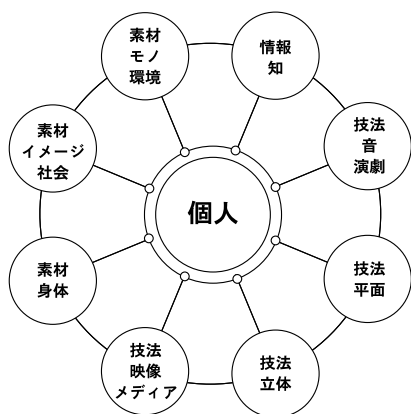
構想設計専攻

Concept and Media Planning



「構想を設計する」という 京都芸大独自のカリキュラム

本学オープンキャンパスYoutubeチャンネルで、構想設計専攻の倉西宏嘉さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



構想設計は学生の提案から生まれた世界でも類のない専攻です。

学生は自らの「アイデア」を中心に、表現をカタチにする素材や技術を選択する事ができます。演習を通して、映像・空間・身体による表現やプログラミング、サウンドなど様々な媒体による技術を学ぶことができます。また演習と並行してセミナー、ワークショップ、レクチャーなどを行うことで、「総合的な構想力」と社会に対して「語る言葉」を養います。それは広く浅く多くではなく、隕石のような未知の世界と自身をつなぐ表現の探求の始まりとなるでしょう。

ひとりひとりの学生が最適な表現方法を探りながら、それぞれの作品についてみんなで真剣に考え語り合い「共同で授業を作ってゆける場所」。それが構想設計です。



4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	美術科基礎 A	美術科基礎 B	基礎 A・B での経験を継続的に発展させると共に、映像・インスタレーション・言語・パフォーマンス・インタラクティブメディア・サウンドなど、個々の学生の発想・興味・資質に応じた自由な表現方法を、学生が主体となって実験的に作り上げる。			表現を他者との文脈に関連させる批評性を身につけることを目指し、1年間の個人プロジェクト演習を行う。	

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期と2年次前期で美術科の基礎実技(日本画基礎、油画基礎、彫刻基礎、版画基礎、構想設計基礎) A・Bを履修します。

構想設計専攻に進むためには、「構想設計基礎 A・B」のいずれかを履修していることが望ましいですが、履修していなくても専攻に進むことができます。*

* [その他の基礎 A・B] …日本画基礎 P.22, 油画基礎 P.24, 彫刻基礎 P.26, 版画基礎 P.28 参照

構想設計基礎 A・B (1年次後期・2年次前期)

従来の専門ジャンル・技法修得型の教育ではなく、「相互行為」、「リサーチ」、「演出」、「構築」という4つを軸にし、柔軟な発想と独自の表現方法を身につけることを目指します。技術面では映像・空間・身体に加えて、プログラミング、サウンドなど様々な表現媒体の基礎を取得します。

合同ゼミ制 (2年次後期・3年次・4年次・修士)

2年次後期からは学生の指向に基づき、ゼミに分かれた指導体制を取ります。学部2年から大学院修士2年までが合同で参加する各ゼミは相互に連携しながら多面的な学びの場を形作ります。学生の希望を尊重した専門的な技術の演習と、セミナー、ワークショップ、学外の研究機関・地域と連携したリサーチ・フィールドワークなど、総合的な構想力と表現技術を養います。

教員



高橋 悟 教授
専門 現代美術、プロジェクト



石橋 義正 教授
専門 映像、演出



木村 友紀 准教授
専門 現代美術



人長 果月 特任准教授
専門 現代美術、メディアアート

非常勤講師

- ・ 粟津一郎
- ・ 熊野陽平
- ・ 倉智敬子
- ・ 小松千倫
- ・ 笹岡由梨子
- ・ 吹田哲二郎
- ・ 杉山雅之
- ・ 南條沙歩
- ・ 二瓶 晃
- ・ 福永一夫
- ・ 前田岳究
- ・ 村田冬実
- ・ 山本麻紀子

専攻独自の取り組み

大学移転に先行するアートプロジェクト

新キャンパスへの移転に先立ち、地域の記憶を芸術固有の方法で共有化する多数のプロジェクトを企画してきました。



アートを介した連携ワークショップ

構想設計では他大学やNPO法人との連携ワークショップなど、さまざまな活動を通じて大学が社会にひらかれる可能性を追求しています。



音楽とアートの交差

ロームシアター京都メインホールでのパフォーマンス「火の鳥」。京都市交響楽団とのコラボレーションで、さまざまな身体表現と新しいメディア体験をクラシックの生演奏とともに実現するプロジェクトです。



Photo: Kenta Yamaji



STUDENT'S VOICE

学生の要望に合わせて柔軟性のあるカリキュラムが組まれています。



構想設計専攻4回生 ※取材当時

岡留 優 さん

構想設計専攻は、ある特定の表現形式にこだわらず、ノージャンルな制作をしているところと、ゼミによって写真や映像・アニメなどメディアの表現に特化しているところがあり、それらが並存していることが特色だと感じています。

自身の据えたテーマに対しどのような表現方法を用いるか、という一連の思考プロセスが鍛えられるのが僕にとっては大きいことでした。

構想設計は学部生・大学院生・留学生の間で垣根が低く、合評ではひとりずつかなり時間をかけて皆でディスカッションしていくので、さまざまな見方の意見を吸収し、自身の制作を深く見つめ直す機会になります。

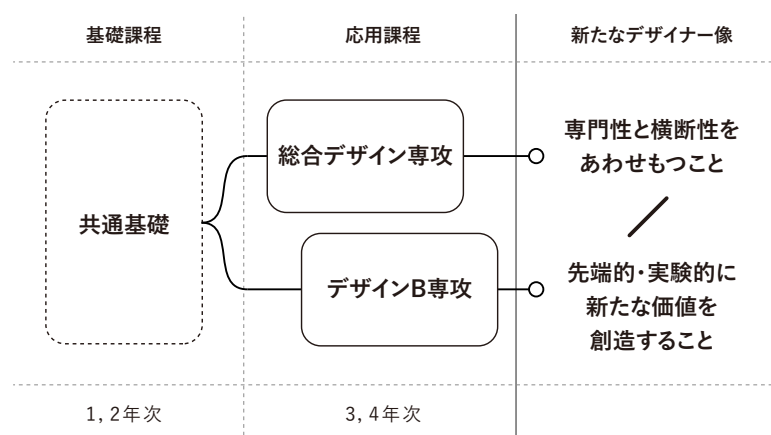
またゼミでは、アーティストやその他さまざまな分野のゲストを呼んで講義などを行うことも多く、学生の要望に合わせて柔軟性のあるカリキュラムが組まれていることも魅力です。

2023年度 デザイン科は 新しい体制をスタート!

変化する社会の諸問題に柔軟に対応するため、2023年4月よりデザイン科は新しい体制をスタートさせます。これまでの「ビジュアル・デザイン専攻」、「環境デザイン専攻」、「プロダクト・デザイン専攻」を一つに統合し、「総合デザイン専攻」とするとともに、新たな領域である「デザインB専攻」を設置し、二専攻体制に変更します。

近年、様々な領域でデザインの発想法や考え方が注目を集め、デザイナーの役割が地域のコミュニティづくりやオンラインのサービスづくりなど形のないものにまで及び、デザインの社会的意義は根本的に変わってきました。そのようななか、デザイン各分野の専門性だけではなく、柔軟で横断的に活躍するデザイナーが今日の社会にとって必要になってきたと言えます。そして、デザイン教育もこういった時代の変化に対応したものに更新する転換期に来ています。現在を生きる私たちは、環境問題をはじめとする様々な社会問題を抱えています。われわれ全人類が解決すべき課題に対して、デザインは何を

すべきか。本学では、このことに対して真摯に向き合ってきました。そしてこの度、専門性の協働や横断性が求められる社会の要求に応える形で、既存の三専攻を一専攻に統合する「総合デザイン専攻」と、既存の枠組みや概念を超えてより実験的かつ先端的なアプローチで取り組む専攻「デザインB専攻」を新設し、これら二つの特色ある専攻を並走させることで、変化の激しいこれからの未来社会に備えて、様々な専門や新たな価値を常に取り込むことができる体制を整備し、継続的に新鮮なデザインの教育・研究を実践していきます。



総合デザイン専攻

Integrated Design Specialities

これまでのデザイン科3専攻を一つの専攻に集約し、各領域の専門を深く研鑽するカリキュラムとともに領域を横断する授業を併せて行う専攻。基礎課程から段階を追って高い表現力を獲得し、社会に潜在する問題を発見・解決することができる高度な能力を持ったデザイナーの育成を目指します。

(→ p34-35)

デザインB専攻

design B

「B」は、「生成変化」を意味する“Becoming”の頭文字。多角的で実験的なアプローチを試行し、新たな価値を創造する新専攻。自らの学びを主体的に構築しながら、社会の未知なる課題を発見し、優れた解決方法をデザインできる人材の育成を目指します。

(→ p36-37)



STUDENT'S VOICE

※現在の三専攻の学生です



ビジュアル・デザイン専攻4回生
小川 涼羽 さん

「手で作ること」の感覚をもとに自分らしいデザインを研究しています。

自分の伝えたいことを明確にし、実際に自分の手を動かすことによって得られる体験を積み重ねることでオリジナルの表現方法を探っていく授業を行っています。平面表現のイラストレーション、ポスター、タイポグラフィからパッケージ、衣服、空間構成など多様な分野の視覚デザインを経験しながら学んでいます。また、学生は少人数なので、先生方との距離が近く、

専門的かつ親身な指導を受けることができます。ひとつひとつの課題の中で自分の持つ世界観を引き出し、どこかにあるデザインとは違う自分にしかできない表現を目指します。それを軸に、何を、どのように、どうやって伝えるのか順序立てて考えることで説得力のある論理的なデザインを展開することに挑戦し続けています。



環境デザイン専攻4回生
安田 結葵 さん

複合的観点から物事を捉える力が身につくと感じます。

環境デザイン専攻では、諸分野で活躍される先生方の指導の下、家具やインテリア、住宅や店舗、都市空間など、スケールの大小を問わずさまざまな空間のデザインに取り組んでいます。この専攻では、学部生と大学院生・留学生が共に学び、異なる世代、異なる国籍の仲間から日々刺激を受け、学びを得られる点が魅力の一つです。

見学授業も豊富で、さまざまな建造物や庭園などを

鑑賞することで目を養うことができます。歴史的価値の高い文化財が多く現存する京都という土地で学ぶ意義を感じられる授業です。

私は身の回りを取り巻く空間を構成する全てが環境であり、それは自らが設計した事物そのものだけでなく、元ある自然や人との相互的な影響があって初めて完成するものだと考えています。環境デザインを学ぶことで複合的観点から物事を捉える力が身につくと感じます。



プロダクト・デザイン専攻4回生
浦西 玲次 さん

先生や仲間とともに時間をかけて考えられる場です。

時代と共に変化し続けているデザインのように、柔軟にその姿を変えるのがこの専攻の魅力です。

目的を叶えるための最適な手段がモノをつくることでないときには、プロダクト・デザイン専攻という名にとらわれることなくイラストや映像で表現することも、目に見えない仕組みや関係性のようなもの考えることもあります。

またこの専攻はデザインそのものについて、先生や他の学生と共に時間をかけて考えられる場でもあります。「デザインとは」というシンプルでふわふわした問いに向き合うことは、ときに苦しくもありますが、その考えを通じて創り出される作品たちは力強く魅力的です。そういったそれぞれのデザインに触れるとき、私はとてもわくわくします。

総合デザイン専攻

Integrated Design Specialities



幅広いデザイン領域から、専門・進路を自由に選択できる専攻

2023年度から新設される総合デザイン専攻は、これまであったビジュアル・デザイン専攻、環境デザイン専攻、プロダクト・デザイン専攻を一つの専攻に統合し、各領域の専門を深く研鑽するカリキュラムとともに、領域を横断する授業を合わせて行う専攻です。学生は、デザインの基礎課程を経た後に、自分に見合っ

た専門を自由に選択することができます。総合デザイン専攻を卒業すると様々な進路が広がっています。企業・NPO・行政への就職はもちろん、京都芸大の大学院、国内の国公立大学の大学院への進学や欧米の大学に留学することもできます。



卒業後の進路(これまでの3専攻の実績から)

グラフィックデザイン、広告デザイン、ゲームデザイン、映像デザイン、ファッション・テキスタイルデザイン、プロダクトデザイン、家具デザイン、カラーデザイン、ディスプレイデザイン、インテリアデザイン、建築デザイン

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	デザイン基礎1	デザイン基礎2A	デザイン基礎2B	総合デザイン1 各自の希望に応じて、Design1~3から一つを選択。(専門性を深めつつ領域を超えた課題にも取り組む。)		総合デザイン2	

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期にデザイン基礎1と、2年次にはデザイン基礎2A・B(「総合デザイン基礎1・2」「デザインB基礎1・2」から選択)を履修します。総合デザイン専攻に進むには、「総合デザイン基礎2」の履修が必須です。*

*[デザインB基礎1・2] P.36参照



デザイン基礎1(1年次後期)
デザイン基礎(総合的なデザイン基礎課題、各専攻の基礎等)を、1週間から3週間の期間で取り組む課題を行い、デザインするために必要な表現方法や、基礎的な技術を身につけます。

デザイン基礎2A・B

総合デザイン基礎1・2(2年次前期・後期)

2年次前期では、1年次に培った造形力と構想力を基盤としながら、デザインの各専門に必要な幅広い技法や技術を修得します。この段階で重視するのは、平面、立体、空間へ展開する表現力の修得であり、そのために、色彩、タイポグラフィ、立体造形、図法、木工、写真、シルクスクリーンなどの多彩なカリキュラムが組まれています。2年次後期では、選択課題(平面、立体、空間系)を各自選択し、デザイン各領域の技術を伴う幅広い表現力の修得を目標とする一方で、構想力を身に付けるためのカリキュラムが織り交ぜられています。これらの授業の体験から、学生は、自分に合った専門を見定めていきます。

総合デザイン1・2(3・4年次)

3年次には、2年次までに見定めた自分に合った専門のゼミを選択します。ゼミは3つあり、グラフィック・イラストレーション・ゲーム・映像・CG・UI/UX・パッケージ・書籍・ファッションなどのデザインを専門とする「Design 1」、日用品・家具・各種デバイス・モビリティなどのデザインを専門とする「Design 2」、そして、建築・都市計画・ディスプレイ・インテリアなどを専門とする「Design 3」です。学生は任意に選んだゼミで高い専門性を獲得していきませんが、3年次には、テーマを共通とする3つのゼミ合同の授業を行うことで、専門を横断し総合する高いレベルのデザインについて学びます。4年次には、自分で設定した自由なテーマでの卒業制作に取り組めます。

教員



辰己 明久 教授
専門 ビジュアルコミュニ
ケーションデザイン



滝口 洋子 教授
専門 ファッションデザイン、
テキスタイルデザイン



楠田 雅史 教授
専門 デザイン(空間デザイン、
企画ディレクション)



舟越 一郎 教授
専門 グラフィックデザイン



坂東 幸輔 准教授
専門 建築(コミュニテイ、
まちづくり)



島田 陽 准教授
専門 建築

教育方針

身体を使った創作を重視したカリキュラム

総合デザイン専攻は、素材に触れながら手で描き創る、すなわち身体を使った創作で培われる基礎造形力を重視しています。もちろんデジタル機器による表現技法も修得していきませんが、本専攻では、素材に触れながら描き作った体験を基盤とすることが、デジタル機器での創作においても、より個人的・独創的な表現になると捉えています。

基礎力を基盤に、段階を追って 独創性を身に付けていく授業体系

総合デザイン専攻の1年次と2年次では、デザインに必要な造形の基礎力を修得することを重視したカリキュラムが組まれています。3年次からは学生が、自分に合った専門の表現を、深く探求できるカリキュラムとなっています。このように総合デザイン専攻では、学生が、基礎から段階を追って表現力を身に付けていくことで、独創性ある人材の育成を目指しています。

社会にある問題を発見し、問題の解決を デザインの力で具体化できる人材の育成

総合デザイン専攻の授業には、社会にある様々な問題を発見し、デザインの力でその問題を解決することを目標としたカリキュラムが組まれています。授業には、社会の最前線で活躍するデザイナーやアーティストはもとより、医学・工学・哲学・文化人類学・経済学・法学(知的財産権)等、美術以外を専門とする外部講師による演習や、京都の伝統産業を含む企業・行政・NPOといった外部組織との学外連携事業も行います。また、国立大学や海外の芸術大学との共同授業も組まれています。この授業の目的は、複雑な社会にある諸問題を発見し、問題の解決をデザインの力で具体化できる人材を育成することにあります。



専攻独自の取り組み

様々な企業との連携授業

総合デザイン専攻では、これまでのビジュアル・デザイン専攻や環境デザイン専攻が、エレクトロニクスメーカー、化粧品メーカー、食品メーカーなどの企業と連携した製品開発、ブランディング、店舗などのデザインの授業を、さらに充実させる予定です。



パルフェスティバルの家具デザイン

香川県の丸亀パルフェスティバル実行委員会からの依頼をきっかけに、パルフェスティバルで使うカウンター企画、デザイン、モックアップの制作を行いました。制作はShopBotというCNCルーターを用いて行いました。デザインから制作まで一貫したプロセスを経験することができました。



欧米の芸術大学とのポローニャでのイラスト展

国際的な連携授業として、ENSAD(仏)、ポローニャ大学(伊)、ハンブルグ応用科学大学(独)、パーソンズ スクール オブ デザイン(米)、バルセロナ大学(西)などの大学とポローニャで、イラストレーションの展覧会を行っており、欧米の学生作品の幅広い表現や発想に触れることができます。



手塚プロダクションとの連携授業

総合デザイン専攻は、手塚治虫作品を展開している手塚プロダクションと連携協定を結んでおり、手塚治虫の作品を深く読み解き、イベント、プロダクツ、展覧会などのデザインを行う授業を行っています。この授業には手塚プロダクションのディレクターの方も参加しています。



祥栄小学校の「祥栄の森再生プロジェクト」

京都市立祥栄小学校に、緑の空間「祥栄の森」の活用方法を提案。現地を視察し、議論を重ね、小学5年生にプレゼンテーションを行いました。周辺環境を読み取りその場にふさわしい空間を提案するだけでなく、小学生たちが利用できる内容を検討するなど、有意義な取り組みとなりました。



非常勤講師

- ・ 芦田康太郎
- ・ 池上典衣
- ・ 今西啓介
- ・ 家入 杏
- ・ 大石起聖
- ・ 岡野邦彦
- ・ 乙川佳奈子
- ・ 黄瀬 剛
- ・ 楠 麻耶
- ・ 桑田知明
- ・ 康 未来
- ・ 鴻野 祐
- ・ 坂野 徹
- ・ 高木良枝
- ・ 辻中達也
- ・ 寺岡波瑠
- ・ 中坊壮介
- ・ 中村真紀
- ・ 橋本健史
- ・ 藤野真史
- ・ 藤脇慎吾
- ・ 本位田有恒
- ・ 本江果鈴
- ・ 湊 健雄
- ・ 山崎泰寛
- ・ 山本紀代彦
- ・ 山本 史

デザインB専攻

design B



デザインのあり方を問い続け、わくわくな未来のためにチャレンジできる新専攻

産業化や国際化、近年の情報化など、近代以後の様々な取り組みは、便利で豊かな暮らしを提供してきた一方、環境問題をはじめ様々な社会問題をもたらし、重大な課題を突きつけています。社会が抱えるこのような課題に対して、デザインとして何が提案できるかを考え、既存の枠組みや概念を超えて、より実験

的・先端的なアプローチで取り組む「デザインB専攻」を新設します。学生は、異なるテーマで設定された授業(ユニット)を自分自身で選択し、既存のデザイン領域だけでは捉えられない様々な諸課題に取り組み、人間とデザインについて総合的で根源的な理解を進め、デザインの意味と役割を拡張することを学び

ます。未来を切り拓くプレーヤーとして、社会の中にある未知で未解決の課題を発見する能力を養い、従来のデザインの手法だけでなく、独自性、革新性と批評性を重視し、学生がコンセプトから実用的な解決方法までを自分たちで考え実行できるようになることを目指します。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	デザイン基礎1	デザイン基礎2A	デザイン基礎2B	デザインB			

1年次前期の総合基礎実技を修了後、1年次後期にデザイン基礎1と、2年次にはデザイン基礎2A・B(「総合デザイン基礎1・2」「デザインB基礎1・2」から選択)を履修します。*

* [総合デザイン基礎1・2] P.34参照

デザイン基礎1(1年次後期)

デザイン基礎(総合的なデザイン基礎課題、各専攻の基礎等)を1週間から3週間の期間で取り組む課題を行い、デザインするために必要な表現方法や、基礎的な技術を身につけます。デザインBに関わる基礎では、デザイ



ンに必要な表現方法や、基礎的な技術だけでなく、学生一人一人が自分にとってデザインと関わる動機を見つめ直したり、モノのデザインをモノ単体から考えるのではなく、時間の経過や空間、素材などから試行する課題を行います。

デザインB基礎1・2(2年次前期・後期)

デザインB(3・4年次)

デザインBを選択した学生は、文房具や器といった身近な生活のモノから社会の仕組みや問題まで、多岐にわたるテーマの中から、デザインの手法やプレゼンテーション方法、モノの

仕組みや構造、素材や加工法の理解及び制作プロセス、新しい技術を用いた表現法、また日常生活からの気づき(発想力育成)、人とモノと社会の関係性の理解などを学びます。4年次前期には社会とデザインの関わり、あるいは学生自身の興味のある事からテーマを設定し、問いをたて、調査、文献を吟味し、フィールドにでたり実験したりしながら、一本の論文としてまとめます。後期には、その論文を通して掘り下げたテーマを、各自の卒業制作に繋げていきます。



教員



藤本 英子 教授
専門 デザイン, 景観



高井 節子 教授
専門 環境デザイン, 芸術文
化学



牛田 裕也 准教授
専門 機械工学, インダスト
リアルデザイン



谷川 嘉浩 特任講師
専門 哲学, 教育学

非常勤講師

- ・金原佑樹
- ・田中美有
- ・宗方秀斗
- ・小池 清
- ・谷川宗繁
- ・仲克駿
- ・上月建太郎
- ・吉田幸代
- ・森田修斗
- ・清水美沙子
- ・星野祥子

教育方針

基礎と応用, 様々な領域を横断し, 主体的に学ぶ学生を育てるカリキュラム

基礎と応用を横断して, 多種多様な領域の課題を各自の関心に応じて主体的に選び, 組み合わせることができます。また, 学びたいことに合わせて学習の新たな選択肢を要望することが可能で, 学生と専攻が共に学びを構築します。変化する社会に合わせて柔軟に成長し, 自己を生成変化させることができる人物の育成を目標とします。

人文・社会科学的な学びを含むデザイン教育

デザイン理論に加え, 人文・社会科学などを含む思考系授業と実技系授業の連携により, 自然, 社会などに対する知識と幅広い現代の諸問題と向き合い, 問いを発見し, 新しいデザインのあり方を生み出すべく挑戦し, 実験的な態度で繰り返し, 実践・検証を試みる志向性を養います。

学年を横断した対話的な授業

ゼミや選択課題などの少人数科目を履修し, 学年を横断した授業の中で, 他者と議論し, 幅広い視点と対話力を培い, 自らの考えを表現する能力を身につけます。



専攻独自の取り組み

コミュニケーションとものづくり体験をデザインする, 実践的アプローチ



「カットボード作り」のワークショップ (2021)

体験のデザインの授業では, 実践的なアプローチからデザインの可能性を見出すことを狙いとし, コミュニティカフェなどの地域の人々が集まる機会に成果発表を行います。全員で具体的なアイデアを出し合い, ワークショップをデザインしていきます。

日本文化に触れる

茶人の木村宗慎氏を講師に招き, 「侘び寂び」「枯れ」「真行草」といった美的判断や美的範疇の核心と, それが生成する歴史のプロセスを解説するレクチャーの後, こうした美学・感性論が実際に用いられている寺社や茶室で実地で解説していただく現地研修を行います。その他, 禅修行体験など様々な主題のレクチャーを通して, 観察眼を鍛え, 新たな見方や知識を得る機会を設けていく予定です。



アート×デザインB 工芸×デザインB ●▲■?×デザインB

デザイン科をこえて, 彫刻専攻での金属実習や陶磁器専攻での制作など, 他の専攻との連携授業を発展・拡大させます。また, 学外の様々な現場にもとびこみ, 新たなスキルや視点を学ぶ機会を拡充します。デザイン領域外とコラボレーションすることで, 表現や発想の選択肢を増やし, 新しいデザインのあり方を探求していきます。

名称「デザインB」について

専攻名であるデザインBの「B」は, 「生成変化」を意味する「Becoming」から頭文字を借りています。これは, 必要に応じて自分たちを組み替える私たちの姿の描写として, あるいはデザインの常に新しく生まれ, 進化し変化していく営みの形容として適切な表現であると考えています。それ以上に, デザインのアウトプットやデザインのあり方を「これである」と指定しないメリットがあります。新しいデザインB専攻では, 常に変化に適応し続けられるデザイン教育のシステムの構築と, 絶えず変化していく新しい社会実装の形を実験的に模索していきます。「B」と省略したのは, あえて, 学生が何を学べるか分からない環境に自分の身を置く, つまりは自分で自分の学びを主体的に創造していきたい, チャレンジしたいという資質を持った学生に, デザインB専攻を選択してもらいたいからです。デザインBでの学びを通して, 不透明で分かりにくいこの現代社会を生き抜く能力, デザインする力を身につけてもらいたいと考えています。

陶磁器専攻

Ceramics



陶磁表現の可能性を探り「やきもの」の本質を探究

本学オープンキャンパスYoutubeチャンネルで、陶磁器専攻の野儀伊代さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



縄文時代から現代まで、「やきもの」は常に人の暮らしや地域・社会・芸術と関わって発展してきました。

陶磁器専攻では、「やきもの」の素材の理解と技術の修得をもとに、制作と研究を行いま

す。作品制作を行う中で、機能と量産の考察、伝統技法からの展開、自由な思考による新しい表現など、さまざまな角度から陶磁表現の可能性を探り、陶磁器の本質を探究していきます。

陶芸の分野における確かな技術を修得し、専門的知識を生かした創作活動を行うことのみならず、社会において芸術のもつ可能性を認識し、専門的知識を活用できる人材を育成します。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	工芸基礎	陶磁器基礎A	陶磁器基礎B	陶磁器1	陶磁器2	陶磁器3	

工芸基礎(1年次後期)

1年次後期は、3専攻(陶磁器・漆工・染織)の基礎を学び、2年次から各専攻に分かれます。陶磁器、漆工、染織の各専攻課程へ進むために必要となる素材と技術の基礎を修得し、各専攻の専門課程の内容を知り、選択の指針とします。(それぞれ4週間程度)

陶磁器：成形から本焼成までの作陶の基本的工程をひと通り体験。

漆工：木を削り合成漆を塗装し、装飾を加えるという基本的な漆工芸のプロセスを体験。

染織：「染」を基礎学習のテーマとし、観察からのイメージの発想、展開、そして表現へと発展させる染織美術の基本を体験。

陶磁器基礎A・B(2年次)

2年次の前—後期、成形技術として「ろくろ」「タタラ」「手びねり」の修得、装飾技術として「呉須」「鉄絵」「化粧」などの基礎的加飾方法と、「釉薬実習」で釉薬と焼成の基礎的知識を修得します。

陶磁器1・2(3年次)

技術、素材などの制作プロセスから要素を発展させ表現へと導く期間です。「生活とやきもの」「表現とやきもの」「社会とやきもの」の3コースに分かれ、それぞれの課題に取り組みます。研究テーマ・制作予定期間など具体的な研究届を提出し、教員と適宜ディスカッションを経て、セメスター(学期)終了時には合評を行います。

前期は各コース共に、磁器の技術として、石膏型による成形と、ろくろ成形を学びます。後期はそれぞれのコース課題に取り組み、陶磁表現を、思考的な角度からの考察・歴史的観

点からの考察・伝統技法からの展開など、制作を通じて陶磁表現の可能性を探ります。

陶磁器3(4年次)

“創造”と“表現”への展開の期間です。これまで修得してきた“素材”と“技術”を生かし、自主テーマによる制作を通して、新しい「やきもの」の世界を開拓。各自の陶磁表現を目指します。後期は各自の制作を深め、卒業制作に取り組みます。

「集中講義」や「研修旅行」

非常勤講師による集中講義など、実践的な技術や表現を学び、現場の話を聞く機会を設けています。研修旅行では陶産地に足を運び、窯業関係工場、美術館等を見学したり、登り窯実習など薪窯での焼成体験を通して、陶磁器全般に対する知識と理解を深めます。

| 教員



長谷川 直人 教授
専門 陶磁器



重松 あゆみ 教授
専門 陶造形



森野 彰人 教授
専門 陶磁器制作



若杉 聖子 准教授
専門 現代陶芸

| 非常勤講師

- ・ 井上 舞
- ・ 井上 路久
- ・ 潮 桂子
- ・ 木田 陽子
- ・ 木村 歩
- ・ 清水 宏章
- ・ 黒宮 菜菜
- ・ 前田 あかね
- ・ 山川 美幸

| 専攻独自の取り組み

大学陶芸教育と学生の交流に関する オンライン企画

陶芸教育を行っている他大学との交流を進めています。オンラインツールを活用した大学における新たな陶芸教育の可能性を探り、学生の交流を図る企画です。今までは場所や移動など物理的制限から実現し難かった、幅広い参加者と密度のある体験を目指しています。内容は「学生による自作や研究内容のプレゼンテーション」（発表に対して所属大学以外の教員が講評を行い、参加学生は自由に質問できる）や、学生によるディスカッションなどです。

参加大学：愛知県立芸術大学 大阪芸術大学 沖縄県立芸術大学 鹿児島大学 金沢美術工芸大学 京都市立芸術大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 嵯峨美術大学 多摩美術大学 東京藝術大学 東北芸術工科大学 名古屋芸術大学 武蔵野美術大学



「京式登り窯」の共同利用による体験実習

2017年度から京都府宇治市にある「京式登り窯」の体験実習を行っています。2018年度は、京都市産業技術研究所との合同実習で、京焼炭山協同組合が所有する登り窯を、組合の先生方のご指導により体験。薪割りから窯詰め、焼成、窯出しまでの実技訓練を通して、京都の伝統的な焼成を学びました。



学外研修として各地のやきもの制作の現場や美術館、資料館などへの研修旅行を行っています。また、本学資料館が所蔵する多くの作品からいくつかを選び、優れた作品に実際に触れて学ぶ機会を持つ授業も行っています。このような貴重な体験は自身の作品制作にとっても役立つことになるはずです。



STUDENT'S VOICE



陶磁器専攻3年生
田中 佑果さん

思うようにいかないことがあっても、新しい発見につながります。

成型から窯で焼く「焼成」の間では、思うようにいかないこともありますが、それよりも窯から出てきた時、思いもよらない反応が返ってくるのが楽しいし、驚きです。失敗だと思った事を違う表現として使ったり、新しい釉薬を実験するたびに次はどんな反応が起こるのかドキドキします。

学外の登り窯の体験では、作家の先生方から伝統

的な焼成を学び、炎の力を間近で感じる事ができました。

作品を制作する中で、自分と窯の力が合わさって、1人では作れないものが出来上がることが魅力的です。専攻内でも様々な制作がされているので、他回生の作品からも刺激を受ける事ができ、自分の視野が広がります。

漆工専攻

Urushi Lacquering



漆の美を追求し 自由で創造的な漆工表現を学ぶ

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、漆工専攻の橋本梨生さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



漆工はウルシノキから採取された樹液を精製し、塗料や接着剤として用いる、東アジアを中心に発展した、日本を代表する伝統工芸です。本学漆工専攻は、木工・髹漆(複合)・加飾の4つの分野を基本に置き、一貫制作により自由で創造的な漆工表現を学びます。各自が現代に適応した新たな造形表現の可能性を探求するとともに、工芸では必要不可欠

な機能性や用の美を追求します。必要な技術と計画性を身につけて、漆工表現の本質的意味を考えられる、次代を担う人材の育成を目指しています。

卒業後は、漆工分野だけでなく、デザイン・建築・現代美術の分野で活躍する人や、教員として後進の指導にあたる卒業生も多くいます。

漆工専攻の4つの分野

木工：木材を用いた制作です。主に木彫・家具・食器などを作ります。

髹漆：漆の塗りを主体とした制作です。呂色・塗り立て・変わり塗りなどの技法があります。

乾漆(複合)：麻布と漆で素地を作る乾漆技法の他に、さまざまな素材を使った複合的な制作をします。

加飾：漆の塗面に装飾を施します。蒔絵・螺鈿・漆絵などの技法があります。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	工芸基礎	漆工基礎 A	漆工基礎 B	漆工1・2			

工芸基礎(1年次後期)

1年次後期は、3専攻(陶磁器・漆工・染織)の基礎を学び、2年次から各専攻に分かれます。陶磁器、漆工、染織の各専攻課程へ進むために必要となる素材と技術の基礎を修得し、各専攻の専門課程の内容を知り、選択の指針とします。(それぞれ4週間程度)

陶磁器：成形から本焼成までの作陶の基本的工程をひと通り体験。

漆工：木を削り合成漆を塗装し、装飾を加えるという基本的な漆工芸のプロセスを体験。

染織：「染」を基礎学習のテーマとし、観察からのイメージの発想、展開、そして表現へと発展させる染織美術の基本を体験。

漆工基礎 A・B(2年次)

2年次の前―後期、漆芸の用具、漆の性質、木工具・機械等の使用方法、漆工全般の基礎実習と制作を行います。デッサン、木地(製図、箱、器、家具)、髹漆(器物および変わり塗り)、加飾(パネルに漆技法で装飾)、乾漆(立体造形・複合素材加工)の学習を重ね、それぞれの技法の要点を修得します。



漆工1・2(3年次・4年次)

木工・髹漆・乾漆(複合)・加飾のうち、希望のゼミを選択し、各専門分野を中心とした実習と自主テーマによる制作を行います。制作と実習は半期を区切りとし、成果として1年に2回の作品展示(前期展・作品展)を行います。4年次後期は各自の制作をより探究し、卒業制作に取り組みます。作品の初期段階では、担当教員だけでなく、専任教員全員の意見を聞ける場としてチュートリアル(個別指導)が行われます。また作品展示では合評を行い、作家としての意識の確立を目指します。通常の実習のほか、各分野に必要な実習や外部講師を招いてのワークショップ、工房などの見学会や研修旅行も行っています。

教員



栗本 夏樹 教授
専門 加飾, 漆造形



安井 友幸 教授
専門 乾漆, 漆造形



笹井 史恵 准教授
専門 髹漆しゆしよ, 乾漆



大矢 一成 准教授
専門 木地, 木工

非常勤講師

- ・ 井上 舞
- ・ 内海紗英子
- ・ 北浦雄大
- ・ 公庄直樹
- ・ 黒宮菜葉
- ・ 佐藤由輝



専攻独自の取り組み

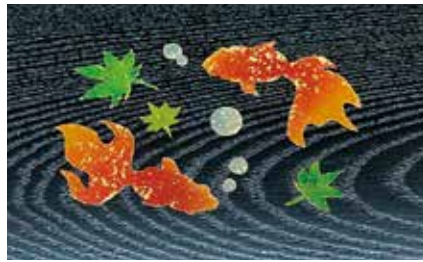
輪島への研修旅行

毎年5月から6月にかけて、石川県輪島漆芸美術館では、漆芸コースがある全国の大学から卒業・修了生の作品が一堂に会する展覧会が開催されます。そのギャラリートークとシンポジウムの日程に合わせて輪島へ研修旅行に行きます。主に漆工基礎(2回生)中心のこの研修旅行は、漆芸の町・輪島を通して、これから学ぶ漆芸への思いをより一層深めることができます。



サマーアートスクール チャレンジ漆工 「ステンシル技法で作る漆絵のお盆」

2021年度のサマーアートスクールでは、漆工専攻として「ステンシル技法で作る漆絵のお盆」の講習を行いました。本漆でお盆に絵付(漆絵・箔絵)を行う内容です。参加者にデザイン案を事前に準備して頂いたので見応えのある作品に仕上がりました。



あいづまちなかアートプロジェクト

[会津・漆の芸術祭×まちなかピナコテカ]

2013年度から毎年10月に福島県会津若松市で開催されている漆のアートイベントに、漆工専攻の教員と学生が参加しています。漆作品の展示やワークショップで会津漆器の漆職人や他大学との交流事業を行っています。



STUDENT'S VOICE



漆工専攻4回生(木工)
川崎 李恩 さん

多様な角度からのアドバイスで、表現方法に選択肢が広がります。

漆工の中でも、きゅう漆、加飾、乾漆、木工の4つに分かれ、それぞれに専任の先生がいます。一つの目標に対して、多様な角度からの意見を頂き、方法に選択肢が広がるのがメリットです。

私の所属する木工では、皮のついた大きな木材を大型機械で製材し、ほぞなどで組みあげ、ノミや彫刻刀で彫り込むなど、さまざまな加工を駆使して制作し

ています。

全ての学生が利用できる学生会館の情報スペースではMac、PCをはじめ、幅が1メートル以上ある大型プリンター、テレビ局が使うようなビデオカメラなど、本格的なデジタル機材が使用できます。自分の表現技法に軸を持ちつつ新しいことに挑戦したい人は、工芸とデザインの両立ができるこの大学がおすすめです。

染織専攻

Dyeing and Weaving



布と糸、色と形を自在に操る次世代のクリエイターへ

生まれた時に、あたたかく包み込んでくれた布。その後も毎日、私たちは布を身につけて暮らしています。このように、人と一番近い「布」を作り、それを彩る技法が「染織」です。この「染め」や「織り」の技法は、人類の歴史とほぼ同じだけの悠久の歴史をもち、未来も人間と共にあります。そして生命を保持するためだけではなく、美を求める人の心に寄り添いながら、生活をしっかりと支えているので

す。染織専攻では、太古の人類と同じように、羊毛や麻綿の繊維素材と出会うところから、染織技法へ進化する過程を体験しつつ、さまざまな染料を使って、布に独自の色彩と形体を定着させることを試みます。そうした制作工程を通して、染織特有の自己表現を模索し、新たな視点を持ったクリエイターを育てることを目指しています。

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、染織専攻の山口汐璃乃さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技 (P.20)	工芸基礎	染織基礎 A	染織基礎 B	染織1	染織2	染織3	

工芸基礎(1年次後期)

1年次後期は、3専攻(陶磁器・漆工・染織)の基礎を学び、2年次から各専攻に分かれます。陶磁器、漆工、染織の各専攻課程へ進むために必要となる素材と技術の基礎を修得し、各専攻の専門課程の内容を知り、選択の指針とします。(それぞれ4週間程度)

陶磁器：成形から本焼成までの作陶の基本的工程をひと通り体験。

漆工：木を削り合成漆を塗装し、装飾を加えるという基本的な漆工芸のプロセスを体験。

染織：「染」を基礎学習のテーマとし、観察からのイメージの発想、展開、そして表現へと発展させる染織美術の基本を体験。

染織基礎 A・B(2年次)



前期の染織基礎 A では、染技法を中心に、ろう染制作、プリント表現、型染制作、植物染料実験などを行います。後期の染織基礎 B では、織、繊維を中心に繊維造形実習、繊維素材研究、織物制作、技法研究(フェルト・ニットなど)に取り組み、最後に A・B で学んだ技法・素材で自由制作に取り組みます。前後期を通し、ドローイングやデッサン、染色実験なども行います。

染織1・2(3年次)

さまざまな繊維素材を用いて、より専門的な染織技法や知識を修得し、作品制作に必要な表現力や技術力、構想力を高めます。また、レクチャーや工房見学、学外との連携プロジェクトなど、染織の文化や歴史、現代社会との関わりに対する理解を深めます。

染織3(4年次)

各自がテーマを設定し、計画を立て、それぞれの課題に応じた作品制作を行います。プレゼンテーションや合評、グループでの討論や教員からの指導を通して、制作意図を明確にし、自らの制作の原点を探ります。独自の表現や次世代のものの作りを追求し、卒業制作を進めます。

教員



藤野 靖子 教授
専門 織物



日下部 雅生 教授
専門 型染、染造形



藤井 良子 准教授
専門 テキスタイル



安藤隆一郎 講師
専門 蠶染、身体翻訳



上野 真知子 特任教授
専門 ファイバーアート

非常勤講師

- ・ 井上 舞
- ・ 大住由季
- ・ 片岡 淳
- ・ 木内小織
- ・ 黒宮菜菜
- ・ 斎藤高志
- ・ 堤 加奈恵
- ・ 伏木野 芳
- ・ 細田あずみ
- ・ 前田恵理子
- ・ 村田ちひろ



京都市産業技術研究所での紋織実習

専攻独自の取り組み

学外連携事業

京都市産業技術研究所と連携して授業を行っています。「紋織実習」では、デザインから紋データ作成、力織機を用いた製織という一連の工程を学びます。

フジバカマ再生プロジェクト

“京都市・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト第14号認定”のフジバカマ再生プロジェクトに協力して、日本固有種のフジバカマの育成を手伝い、その染料としての可能性を探っています。



学外の選抜展に出品

NIF・YOUNG TEXTILE（日本インテリアファブリックス協会主催の美術系大学優秀作品選抜展）、京都府新鋭選抜展、全国大学選抜染色作品展に出品しています。



学外での研修など

企業、地域などへ見学・体験に出かけています。

織旅丹後

以前連携事業を行っていた丹後半島へ一泊二日の産業見学旅行に希望者で毎年行っています。

研修旅行

学生の企画で不定期に研修旅行があります。2019年度は3回生全員で沖縄に行きました。

企業等見学

葛西緋加工所、京都市京セラ美術館見学（2021年度）、渋谷和子先生工房、ちいさな藍美術館、宮井株式会社（2019年度）など。



京都市京セラ美術館の見学



葛西緋加工所の見学

STUDENT'S VOICE



染織専攻4回生
植村 風吾 さん

素材に触れ、様々な技法を知り、自らの表現を見つけられる場です。

染織専攻は工芸科の中でも比較的自由度が高く、2回生で技法の基礎をひと通り学んだ上で、個々の表現へと昇華していきます。

私は、自分で染めや加工を施したオリジナルのテキスタイルを用いて服を作っており、パターンから縫製までをすべて自分で行っています。衣装や華美なものではなく、日常に溶け込み、着込むことでより魅力的に経年変化をする服を制作しています。この大学

にファッションデザイン科は存在しませんが、独学で足りない知識や技術を補えば、染織表現を用いた服の可能性は無限大です。芸大でリアル・クローズを提案することに不安はありましたが、様々なりサーチをしてクオリティを上げることでそれを覆すことができました。基礎で学んだことを発展させることで新しい加工を発見できたり、周りの仲間の作品が自分の制作のヒントになることも多く、日々たくさんの刺激を受けています。

総合芸術学専攻

General Science of Art



芸術の生まれる現場を熟知した 発信力ある研究者・企画者へ

現代社会において、芸術や文化をめぐる状況は大きく変化し多様化しています。それに応じて芸術を対象とする研究領域も広がりを見せ、実践的に芸術に関わる人材が求められています。

総合芸術学専攻は、総合「芸術学」とある通り、広義の芸術を対象として研究を行います。

①対象についてのさまざまな知識・情報を集め、②それを整理して理解し、③自らの考察を加えて新たな知見を導き出し、④それを外部に広く伝える、という一連の知的生産プロセスを身につけることを目的とします。

卒業論文を優れたものにするを第一の目

標とし、加えて次のような教育に力を入れています。またこの部分こそが、「総合」芸術学のゆえんであるといえます。

一連のプロセスを芸術の現場で学ぶ

他専攻の学生と一緒に実技を学ぶ場を設けているため、芸術の生まれる現場を間近で知ることができます。そうした環境を生かし、展覧会の企画・運営の授業が設定されています。芸術の現場で学ぶことは、制作技法の理解はもちろん、芸術家という存在のあり方を肌で知ることにつながり、研究に役立ちます。

また、日本の古典的な芸術の中心である京都

本学オープンキャンパス Youtube チャンネルで、総合芸術学専攻の池上真奈さんのインタビュー動画がご覧いただけます。



という地の利を生かし、毎週教員が引率して見学に行く授業を必修としています。

幅広い発信力を身につける

一般に芸術学系の専攻の場合、口頭発表・レポート・論文・プレゼンテーションといった形式に限られますが、本専攻ではそれに加えてもの作りの基礎力をベースにした表現方法を学びます。具体的には、原稿を書くとともに、印刷物作成に必要な編集やレイアウト、写真やビデオの撮影と編集なども学びます。またインターネット経由の発信をするためのスキルも学びます。

4年間の実技カリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合基礎実技(P.20)と併せて基礎演習Aを履修。	美術科基礎、デザイン基礎、工芸基礎のいずれかを履修。	展覧会運営に関するノウハウを学ぶ。他科の実技科目を履修することも可能。	本学教員への取材後、各種編集ソフトを用いてインタビュー誌と映像を制作する。	各自の専門領域を定め、3コースのゼミから一つを選択し、それぞれ内容に即した指導を受ける。合同発表会では、各人が研究成果を発表し、全体で議論しながらそれぞれのテーマを深める。また、ウェブサイトの運営や、展覧会を企画・運営する活動(合同演習)を通して、芸術を社会とつなげるための実践的な力を養う。	引き続き、ゼミでの研究と合同演習を中心に研究発表を重ねながら自分のテーマを掘り下げ、最終的にその成果を卒業論文にまとめる。なお、卒業論文に関連した作品を提出することも可。		
		3年次のウェブサイト運営や展覧会を企画運営する合同演習への参加も可能。					

1年次

前期は総合基礎実技と併せて、「基礎演習A」を必須科目として履修します。後期は「基礎演習A」と、美術科基礎、デザイン科基礎、工芸科基礎のいずれかを選択して履修します。講義科目は他科と共通ですが、語学や専門に関連する科目を手厚く履修します。

2年次

前期は「調査研究・企画運営演習」を履修し、作品の調査や研究の技法および展覧会の企画・運営方法の基礎を学びます。後期は「基礎演習B」「総合芸術学科基礎実技」を履修し、インタビューを中心とした冊子とビデオを制作。企画、撮影、執筆、編集、印刷発注、ビデオ編集に至る技術・方法を学びます。また、外国語の専門書の読解力を養う「専門書

講読」を履修します。なお、前期のみ実技科目の履修も可能です。

3年次・4年次

次の3コースのゼミから、一つを選択し所属して学びます。

- 第1ゼミ…「芸術の歴史と理論」
- 第2ゼミ…「文化と感性の理論」
- 第3ゼミ…「芸術と社会」

教員



三木 博 教授
専門 教育人間学



吉田 雅子 教授
専門 染織工芸史



加須屋 明子 教授
専門 美学, 芸術学



田島 達也 教授
専門 日本美術史



礪波 恵昭 教授
専門 仏教彫刻史



飯田 真人 教授
専門 美術教育



畑中 英二 教授
専門 窯業史, 考古学



竹浪 遠 准教授
専門 中国絵画史



深谷 訓子 准教授
専門 西洋美術史



砂山 太一 准教授
専門 デザイン, 現代美術

非常勤講師

- ・ 奥井素子
- ・ 岸本光大
- ・ 東 正子
- ・ 藤木晶子
- ・ 藤田瑞穂
- ・ 山下晃平
- ・ 横田悠矢



専攻独自の取り組み

Colors of KCUA

本学芸術学研究室学生による総合選抜展

芸術学研究室（総合芸術学科および芸術学専攻）の学生が中心となって企画・実施する展覧会「Colors of KCUA」をこれまでに6回開催してきました。本展覧会の目的は、京都芸大における制作活動や動向を幅広く伝えること。タイトル「Colors of KCUA」の「Colors」は、多くの色彩という意味で、学生の無数の個性（色）や多様なジャンルを表しています。

近年は、こうした展覧会を企画するための前段階として、展覧会企画や展示という行為について考える研究会やワークショップを重ねています。

作品展での成果も踏まえ、独自の視点で選ぶことを大切にしており、そうして選ばれた作品群を、より親しみやすく社会へ発信することを目的として企画・運営に取り組んでいます。



芸術学研究室ウェブ班の活動

<https://sougei.kyogei-ob.jp/>

芸術学研究室のネット活動チーム・通称ウェブ班は、合同演習という授業の一環で、「研究室ウェブサイト」と「京都芸大ギャラリーガイド」の2つのサイトを運営しています。「芸研日誌」「学内展覧会情報」「京芸関係者展覧会情報」「展覧会レビュー」などのコンテンツがあり、日々取材と執筆、更新作業に励んでいます。研究室のマスコット「芸研ちゃん」もチームの一員としてツイッターでつぶやき中。ぜひご覧ください。



STUDENT'S VOICE



総合芸術学専攻3回生
大三 敏秀 さん

新しいことに積極的に挑戦できる環境です。

総合芸術学科の魅力の一つは、新しいことに全力で取り組むことのできる環境があることです。先生方は新しいことにも寛容で、一学年が少人数であるため指導も手厚いです。私もそのような環境の下で、パッチャル展覧会という新しい体験の研究や制作に取り組むことが出来ました。そして、ここにはそういった活動をより良くするためのカリキュラムがあります。1

回生では総合基礎実技や実技基礎の授業で他専攻の学生と共に学び、かけがえない知識や経験、人との繋がりを得ることが出来ます。2回生では研究発表や展覧会企画、インタビュー冊子制作などを通して「伝える」技術について学びます。総合芸術学科を目指す皆さんには、この恵まれた環境を最大限活用して新しいことに挑戦してもらいたいです。

修士課程

Master's Course



美術専攻

日本画

各自が設定したテーマで自由に日本画を制作し、見つめる・感じる・創る・伝えるということを考察します。日本画制作を通して、美術や教育の分野により専門的に活躍できる人材を育成します。

油画

各自のテーマに沿った自主制作を中心とします。表現しようとしているテーマと技法を改めて見つめ直し、今後の制作の方向と可能性を探ります。「描く」「つくる」という個人の表現手段から離れて、見学などの「見る」こと、ディスカッションを通じての「話す」こと、展示や発表などの「置く」ことなど、多角的な演習を通じて制作への意識を高めます。

彫刻

自由な発想と展開による制作研究を通して、独自の観点を探求する重要性を理解し、自身の表現とアイデンティティの確立、社会における実践と検証を視野に入れた表現を研究・考察することを目標としています。

版画

版画の複数性と間接性による、表現の独自性と普遍性を研究し、制作をします。各自の研究計画書をもとに、担当教員と研究・制作プランを設定して進めます。合同合評会に出品する「作品ゼミ」と、自主研究を中心とした「研究ゼミ」を交互に受講します。より高度な技法展開を見据えた現代の版画表現を追求します。

構想設計

担当教員によるアドバイザー制をとりながら、各自が設定した研究テーマを基盤に演習と制作を進めます。大学が有するリソース（専門知・技術・資源）を活用しながら、それぞれが目指す専門領域の言説や批評言語を獲得し、社会の中に自らの場を創造してゆくことを目指します。

デザイン専攻※

※デザイン専攻は、2024年4月から「総合デザイン」と「デザインB」になります。

ビジュアル・デザイン※

グラフィック・デザイン系、写真・映像情報設計系、テキスタイル・デザイン系の3系列のいずれかの専門分野を選択し、自己のテーマを設定して2年間の研究・制作計画を立て、実行します。日常的に教員と研究計画に基づくディスカッションを行い、思考の深化とコンセプトの確認を図ります。

環境デザイン※

優れた地球環境、都市景観、ユニバーサルデザインの実現に向けた問題意識をもって、現状と理論の把握からデザインの実施に至るまでの包括的な研究を行います。

プロダクト・デザイン※

各自がテーマを見つけ、理論的かつ実践的に具体的なデザイン提案ができる研究者を養成することを目標としています。今日の社会問題と関わりのあるテーマ設定を行い、独自の視点で調査・分析し、論文または作品にまとめます。



工芸専攻

陶磁器

陶磁器による表現について、歴史的観点を踏まえつつ、現代性を多角的に問い、制作と論理との関係を明確にすることを目的に各自の課題に基づいた自主的な制作・研究を行います。

漆工

各自が提出する研究計画と、これまでに修得した技術をもとに、さらに伝統技法の研究や技法実験を行い、芸術的思考の深化と展開を促し、時代に対応する発想力の養成を目指します。

染織

染織という表現手段を通じて、歴史と現状を含めた工芸と美術全体への認識と理解を深めます。作家としての確かな意識の確立のために、各自が研究計画を立て制作します。すでに修得した技法だけでなく、幅広い視野と表現力を身につけ、創造力を深めます。

芸術学専攻

専門分野と指導教員を定めたくうえで研究に従事し、より専門性の高い授業が行われます。1年に数回の研究発表が課され、その成果を修士論文としてまとめます。

大学院のみ

保存修復専攻

日本・東洋の古典絵画を主要な研究対象として、保存修復に関する理論・技術を学びます。文化財を未来へ継承していく上での多様な課題を解決できる人材となるべく、伝統的な絵画技法の修得、芸術学、美術史学、保存科学等

の理論を横断的に学び、芸術を多角的に理解する能力を養うとともに、伝統絵画の修復技術を体得します。さらに自ら課題を設定して研究・制作に取り組みます。

保存修復専攻 教員



宇野茂男 教授
専門 日本絵画、保存修復



竹浪遠 准教授
専門 中国絵画史



高林弘実 准教授
専門 文化財科学

非常勤講師

・鈴木裕



博士（後期）課程

Doctoral Course



研究領域

※「ビジュアル・デザイン」、「環境デザイン」、「プロダクト・デザイン」は、2024年4月から「総合デザイン」と「デザインB」になります。

日本画

高度で創造的なテーマを設定し、日本画制作並びにそれに関わる理論的考察を深めます。自己のなかだけで完結するのではなく、他者への客観的提示を意識し社会性を考察します。それにより独自の日本画を創造し、新たな価値観を生み出し、美術や教育の分野で先導的な役割を担う人材を養成します。

油画

油画を中心とした技法による実技と理論の研究を通して絵画の創作を研究します。絵画表現の理論研究とともに、目的に応じた絵画材料や基底材（壁面を含む）の使用法について広汎かつ高度な研究を行い、新たな絵画世界の創造を図ります。

彫刻

彫刻の実技と理論の考察を通して、彫刻の創造研究を行います。空間的、立体的表現に関する理論の研究とともに、表現意図に応じた素材、技術の広汎かつ高度な専門研究を行い、空間や立体に作用する諸要素も計測に入れて、新たな彫刻表現の創造を図ります。また、高度な専門研究を通じて、高等教育における指導的人材の育成を図ります。

版画

版画の諸技法と理論の研究を通して版画の創作を研究します。「版」特有の表現方法の研究とともに、デジタル機器などを用いた表現形態など、表現目的に応じた技法の広汎かつ高度な研究を行い、新たな「版」表現の創造を図ります。

構想設計

高度な独自性を有する研究・制作を多面的な方法でサポートしてゆきます。専攻教員による指導に加え、他領域や他大学の専門家と連携したチームティーチングの体制で制作・リサーチ・論文の指導を行うことで、芸術領域における質を保持・深化しつつ、複数の領域との相互触媒的な関係から、複

雑な世界における潜在的コモンズを社会化できる人材を育成します。

ビジュアル・デザイン※

実技と理論の高度な制作・研究を行います。学生は、それまでの作品制作の実績を踏まえた研究テーマを設定し、担当教員の緻密な指導のもと、作品制作と論文の著述を行い、新たな表現に結びつく制作・研究を行います。

環境デザイン※

空間デザインの美的側面のみでなく、構想、技術、感性の統合として、社会的価値を理論化する研究者を養成します。空間リーダーとして、構想あるいは実践計画を通じて社会に寄与することを求めます。

プロダクト・デザイン※

プロダクト・デザインに関する実技と理論の研究を行います。生活環境に広範囲に存在する産業製品のデザインについての理論的研究を行うとともに、産業領域、公共領域、福祉領域、文化領域などの諸領域を対象としたデザインの実践的研究を行います。

陶磁器

陶磁素材による創作とその理論を研究します。伝統的な陶磁器制作の研究を踏まえ、新たな視点から技法研究や広く陶磁素材を用いた表現の理論的研究を行い、現代における陶磁表現による創作を行います。

漆工

漆を素材とした創作とその理論を研究します。伝統的な漆工制作の研究を踏まえ、塗装方法の比較研究と広く漆を用いた表現の理論的研究や、現代的な漆芸作品の創作を行います。

染織

染織およびテキスタイルに関連する作品制作と研

究を行います。伝統的な染織制作の研究を踏まえ、新たな技法や量産に関する研究や、染織を取り巻く社会をも視野に入れた研究、そして広く織維を用いた新しい創造的表現と理論の研究を行います。

芸術学

芸術学、美術史、工芸史、美術教育などを中心に、広く芸術現象を扱った理論的研究を行います。古今東西の芸術作品、多様な芸術現象、芸術を取り巻く環境、さらに社会における芸術振興などを対象に、作品調査や資料分析、理論的・批判的考察などに基づく学術的研究を行います。

保存修復

文化財の保存及び修復の技術とその理論の研究を行います。日本、東洋の絵画を中心に、復元を含む修復技術の実技的研究を行うとともに、保存修復に関する素材・技法についての科学的な研究を行います。

博士（後期）課程のみ

産業工芸・意匠

伝統産業のための意匠を提案する作家やデザイナーを育ててきた本学の伝統を踏まえ、現在では専門化・細分化した工芸・デザインのノウハウを持ち寄り、複合的研究の場を醸成すべく、博士（後期）課程のみに創設された研究領域です。

伝統的な工芸意匠、加飾などのデザインを研究し、その応用化・産業化を目標に研究する工芸領域の学生と、「京都デザイン」さらには「日本デザイン」の創出を目指すデザイン領域の学生の双方に開かれた研究領域です。

※工芸領域の教員と、デザイン領域の教員が連携し、学生の研究に対応します。

作品展

Annual Exhibition



「美術大学開学記念作品展」1950（昭和25）年撮影

搬入・陳列・搬出まですべて学生自らが行う
美術学部・修士課程最大のイベント

作品展 特設サイト
<https://kcuu-sakuhinten.com>



市長賞受賞者と学長によるギャラリートークを開催

「発表の現場」の緊張感を1回生から経験できるのは
少人数の本学だからこそ

本学の作品展は、美術学部・大学院美術研究科修士課程最大のイベントです。京都芸大では、他大学と異なり、卒業年生だけでなく、学部1回生から修士課程2回生までの全学年が作品を展示します。毎年作品を作り上げ、搬入・陳列・搬出まですべて学生自らがを行い、それを学部卒業までに4回も経験できることは、発表の現場での緊張感と経験値を得るためにも非常に貴重な機会です。

2021年度の市長賞受賞者と学長によるギャラリートークは、学長室で行ったものを撮影し、本学公式Youtubeチャンネルにて、動画でご覧いただきました。赤松学長が進行役を務め、美術研究科修士課程および美術学部の「市長賞」受賞者の中から6名の学生が自身の作品を解説しました。

市長賞受賞者と学長によるギャラリートーク
(本学 Youtube チャンネルより)



音楽学部／音楽研究科

少人数できめ細やかな教育が特長の音楽学部。個性を尊重した創造性を育む専門的な教育研究により、幅広い教養を有し、社会に対して発信し芸術文化に寄与できる優れた音楽家や、研究者となりうる人材を育成します。

<https://www.kcua.ac.jp/music/>

4年間の学び…………… 50

[音楽学部]

作曲専攻……………52

指揮専攻…………… 54

ピアノ専攻……………56

弦楽専攻…………… 58

管・打楽専攻…………… 60

声楽専攻……………62

音楽学専攻…………… 64

[大学院]

音楽研究科 修士課程…………… 66

音楽研究科 博士(後期)課程…………… 66

定期演奏会……………67

教職課程…………… 68

過去3年間の就職先・進路の一覧はp.95-96



音楽棟

大小さまざまな練習室が55部屋あり、すべてにピアノを設置。個人練習や合奏練習に使用される他、大合奏室ではミニコンサートも行われる。

4年間の学び

みんなが仲間でみんながライバル 刺激し合える状況が成長を支える

音楽学部は一学年の定員が65人。自分の専攻の同級生や教員はもちろん、先輩や後輩、そして他専攻の学生や教員、全員と知り合えるぐらいの人数です。その少人数制が、日々の練習や授業を共にし、オーケストラなどの演奏



卒業演奏会

を作り上げていく仲間としての学生同士のつながりを強め、時にはコンクールに挑戦するライバルとして、刺激し合える状況を作り出すことができます。新入生にとって、学部や修士課程の先輩の演奏や研究に触れる機会が多いのも、この人数規模だからこそ。

音楽家や研究者へと成長していく上で、技術を磨いたり、研究課題に向かう時間だけでなく、喜びも苦しみもみんなまで分かち合えることは、京都芸大の大きな魅力のひとつです。



アンサンブルレッスン



声楽レッスン

専攻別構成図(募集人数)

専攻	人数
作曲専攻	合わせて4名
指揮専攻	
ピアノ専攻	14名
弦楽専攻	14名
管・打楽専攻	16名
声楽専攻	14名
音楽学専攻	3名

音楽学部(65名)



卒業生で指揮者の佐渡裕氏による特別授業(2022)

芸術の土台となる教養を身につける授業内容

学生が専門分野における技術と知識を学び、感性を養うとともに、あらゆる芸術の土台となる幅広い教養を身につけることを目的に、専門的な内容である専攻実技と併せて、広く音楽的教養を身につける音楽史、音楽理論関係の授業・演習、一般教養科目、語学科目を開講しています。

※卒業に必要な124単位を、4年間で履修します。

※専攻によって、必修科目と受講可能な選択科目が異なります。



オーケストラの授業の様子

必修科目

講義・演習科目

実技レッスンに加え、ソルフェージュ、西洋音楽史、音楽音響学、和声法など、学術系の科目の履修を通して、音楽演奏に関わる精神的な根幹を持ち、幅広い知識を有する音楽家・研究者の養成を目指しています。



ソルフェージュの授業の様子

演奏会は月1回以上

場数の多さが自信につながる

音楽学部・音楽研究科は、学生の演奏会出演の機会が非常に多いことが特徴です。市内各地で行われる大小さまざまな規模のコンサートは、難解な現代曲から、小さなお子さまやご年配の方にも親しめる作品まで幅広い演目で開催されており、その完成度の高さには定評があります。企画の段階から広報まで、学生が参加するものも多く、演奏能力だけでなく、企画力やコミュニケーション能力を高める機会にもなっています。



定期演奏会

選択科目

専門科目

楽曲分析、管弦楽法、民族音楽学、音楽学特講など、受講科目は専攻によって異なりますが、卒業に必要な最低単位数124単位中の5～6割は、この専門科目に属します。

一般教養科目

哲学、文芸学、文化人類学、西洋文化史、日本文化史、心理学、社会学などを開講します（一部は隔年開講）。

保健体育科目

生涯教育的な観点からのスポーツの意義を実践等を通して学びます。

自由科目群

その他、教職に関する科目及びその他の科目を開講しています。

語学(外国語)

国際社会に対応する教養として、また研究教育の深化を図るために学ぶことを目的とする科目です。グローバル化に対応する人材を育成するために、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語のすべての語学においてネイティブスピーカーによる会話に重点を置いた授業を行っています。また、上級グレードの授業では、音楽文献を原語で読み、理解することを目的としています。

教職課程

教職に関する科目を履修することにより、中学校教諭一種免許状（音楽）と高等学校教諭一種免許状（音楽）を取得することができます。教職課程の意義を十分に理解し、履修方法や手続き等に間違いがないよう周到な計画と準備をして臨んでください。（教職課程 P.68 参照）

本学が主催する主な演奏会

▶ 定期演奏会（オーケストラ公演2回、オペラ公演1回）

さまざまな編成のオーケストラ作品やオペラ作品を取り上げています。夏のオーケストラ公演では、学内オーディションで選出されたソリストとの協奏曲や、冬のオーケストラ公演では大規模な合唱曲を演奏するなど、学生たちにとって日頃の成果を発表する貴重な場となっています。

▶ 卒業演奏会

音楽学部各専攻から選ばれた卒業試験成績優秀者が出演する、学部4年間の集大成となる演奏会です。

▶ オーケストラ協演の夕べ

学内で選ばれた各専攻のソリストがオーケストラと協演します。指揮専攻の学生も、指揮者として登場します。

▶ ピアノフェスティバル

学内オーディションによって選ばれたピアノ専攻生による演奏会です。

▶ クロックタワーコンサート

京都大学と連携し、京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールで、演奏会を開催しています。毎年さまざまなテーマのもと選ばれた曲を演奏するとともに、指揮者によるレクチャーをお楽しみいただいています。

▶ 京都国立近代美術館ホワイエコンサートシリーズ

京都国立近代美術館のホワイエで、年2回、開催中の展覧会にちなんだ演奏会を開催しています。作曲専攻と声楽専攻が担当します。

▶ 西文化会館ウエスティ「音暦」シリーズ

京都市西文化会館ウエスティと共催で、年2回、演奏会を開催しています。6月は管・打楽専攻、11月は弦楽専攻が担当し、さまざまな編成により演奏します。

▶ 文化会館コンサートシリーズ

京都市北文化会館との共催で、年2回、演奏会を開催しています。11月は管・打楽専攻による演奏会、2月は作曲専攻による新作発表会を行っています。

▶ クリスマスチャリティーコンサート

京都市立京都堀川音楽高等学校音楽ホールで、京都新聞との共催によるチャリティーコンサートを開催しています。子どもも大人も楽しめる演目は毎年好評です。

その他の演奏会など

▶ 演奏旅行（移動公演）

夏期休業期間中に、有志の学生によってオーケストラが編成され、各地の学校に出向いて公演します。声楽専攻の学生が同行する場合があります。

▶ 実技試験

実技試験の一部は公開で行われ、教員に加え一般の方にも入場いただき、演奏会さながらの雰囲気の中で行います。

作曲専攻

Composition



文化会館コンサート「Birth of Music」(2021年2月3日)

音楽的基礎力を養い的確に表現できる 高度な作曲技法を修得

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、作曲専攻の紹介動画がご覧いただけます。



作曲家が書き残す作品はさまざまです。過去・現在を通し、作曲家の音楽創造への思いは、一つとして同じものはありません。大学で作曲を学ぶ学生も、一人ひとりそれぞれに音楽表現したいものがあり、それらは多種多様であるため、同じ作品に仕上がらうはずがありません。自らの思いを的確に表現で

きる高度な作曲技術を身につけるために、確かな音楽的基礎力をきちんと養うことを、作曲専攻の主たる教育目的とします。併せて、他分野の表現方法を取り入れるなど、幅広く多様な領域とも積極的に接することで、独自の作品をつくることのできる人材を育成します。



音楽学部オープンスクール 公開授業「楽曲分析」(2019年10月6日)

| 4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	必修科目の作曲理論クラスで、高等和声法と対位法・フーガ作曲法など、基礎を徹底的に学ぶ。これにより、感性に富んだ和声感と多声音楽の基礎的書式方法を身につける。		基礎を修得しながら、学生の個人差を考慮して、適切な時期に作曲クラスへと進む。共同担任制で、学生は担当教員を自由に選べるので、作曲の過程で複数の教員の視点から助言を得ることができる。4年次では、各自のテーマで卒業制作を行い、演奏会で発表する。	
	楽曲分析クラスで、創作活動に必要な、作品への客観的な視野を持つ力を身につける。音楽コンクールへの出品や海外留学など、キャリアアップにつながる指導も行う。			
必修科目・選択科目	作曲Ⅰ1・2	作曲Ⅰ3・4	作曲Ⅰ5・6	作曲Ⅰ7・8
	作曲Ⅱ1・2	作曲Ⅱ3・4	作曲Ⅱ5・6	作曲Ⅱ7・8
	作曲特別演習1・2	作曲特別演習3・4		
	楽曲分析1・2	楽曲分析3・4	楽曲分析5・6	楽曲分析7・8
	ソルフェージュ1・2	ソルフェージュ3・4	総譜視奏1・2	
	管・弦・打楽(副科)1・2	管・弦・打楽(副科)3・4	声楽(副科)1・2	声楽(副科)3・4
	ピアノ(副科)1・2	ピアノ(副科)3・4	ピアノ(副科)5・6 指揮法(副科)1・2 チェンバロ(副科)1・2	ピアノ(副科)7・8 チェンバロ(副科)3・4
西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ 合唱	音楽心理学 音楽音響学 合唱 民族音楽学 日本音楽史 音楽学特講 ほか			
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

少人数制ならではの学生と教員の距離の近さを生かし、学生と教員が共に作品を創造していきます。

作曲専攻は、まず和声法や対位法、楽曲分析法、楽器法、オーケストレーションなどの西洋芸術音楽の方法論を学び、徹底的に音楽的

基礎力を養います。そうした知識をベースに、世界の先端的音楽の分析法や他領域とのコラボレーションの仕方、邦楽、民族音楽へのアプローチ方法、現代社会とアートの関わり方などについて研究し、作曲力を高めます。

学生が制作した作品は、他専攻の協力のもと、実際に音にして発表する機会を数多く設け、音楽家としての経験を豊かなものにしていきます。

| 教員



岡田 加津子 教授
専門 作曲



中村 典子 准教授
専門 作曲



酒井 健治 講師
専門 作曲

| 非常勤講師

- ・ 中本芽久美
- ・ 山口友寛
- ・ 山上友佳子



音楽学部オープンスクール 公開授業「ソルフェージュ」
(2019年10月6日)

| 専攻独自の取り組み

文化会館コンサート「Birth of Music」 「京都国立近代美術館 ホワイエコンサート」

地域への文化芸術の還元、地域文化への寄与、市民に対する良質な音楽の提供を目的として、演奏会を開催しています。北文化会館では新作発表演奏会を、京都国立近代美術館では展覧会にちなんだ作品の発表演奏会を、作曲専攻が担当して実施しています。

*新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2021年度は、「Birth of Music」については無観客で行ったうえで動画を配信し、「ホワイエコンサート」については開催中止となりました。



「Birth of Music」(2022年2月配信)



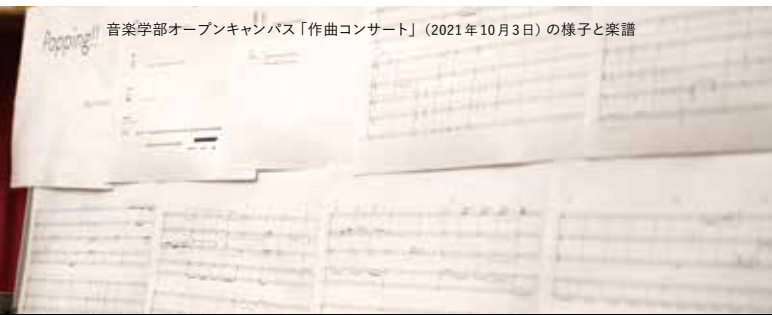
「ホワイエコンサート」(2018年5月19日)



「卒業演奏会」(2022年3月21日)



第164回定期演奏会にて酒井講師の作曲作品「デチューン」が演奏された際のトークの様子
(2020年12月4日)



音楽学部オープンキャンパス「作曲コンサート」(2021年10月3日)の様子と楽譜

STUDENT'S VOICE

作曲を学ぶための最適な環境が整っています。



作曲専攻4回生
田中 詩也 さん

京都市立芸術大学は、作曲を学ぶための最適な環境が整っていると思います。1,2回生で和声法,対位法,フーガ作曲法といった技術を通して、それぞれのスタイルでの音の動かし方,音楽の作り方を学び,学部の後半2年間は作品によって評価されます。その間継続して楽曲分析,管弦楽法,電子音楽まで実習します。主に3年次より毎週のレッスンで,自作品を通し

3人の先生方から異なる角度より助言を受けることができます。さらに卒業までに独奏から大編成までさまざまな実演を経験することで,作曲技術の向上はもちろん,これから音楽家として仕事に取り組んでいく上で必要となる社会性や計画性も身につけることができます。新たな表現に向けて,仲間と一緒に高め合える素晴らしい環境だと言えます。

指揮専攻

Conducting



第166回 定期演奏会 (2021年7月8日)

指揮は誰にでも出来る しかし、指揮者には誰でもなれる訳ではない

指揮専攻の教育目的は以下の通りです。

- ① 指揮棒を振り回す技術を学ぶことが最終目的ではありません。その前に、音楽家としての基礎能力を徹底して指導します。
- ② 作曲家とその作品と会話(研究)したことを相手にストレートに伝えられる指揮の技術を、人の真似だけでない、自分に相応しい指揮技術として自分で見つけるように導きます。

- ③ 指揮者は、一人では音楽をすることができない不思議な音楽家です。いつも相手に敬意と愛情をもって指揮台に立ち、卒業後、プロの音楽家・指揮者として活動していく姿勢もてるように指導します。
- 本学では、プロの指揮者を育成するため全力を尽くすとともに、並行して人間的に価値のある音楽家を育成します。

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、指揮専攻の紹介動画をご覧ください。

音楽学部オープンキャンパス「指揮レッスン」
(2020年10月4日)

4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした作品を中心に実習する。	ロマン派にレパートリーを拡げて実習する。	近現代の作品に加えオペラの作品などにもレパートリーを拡げて実習する。	希望するレパートリーを選択し、自分の進むべき道を確認するものにするため、4年間で学んだことの総仕上げをする。
必修科目・選択科目	指揮1・2	指揮3・4	指揮5・6	指揮7・8
	総譜視奏1・2	総譜視奏3・4	総譜視奏5・6	総譜視奏7・8
	オーケストラ実習1・2	オーケストラ実習3・4	オーケストラ実習5・6	オーケストラ実習7・8
	楽曲分析1・2 和声法(指揮) 対位法(指揮)	楽曲分析3・4 和声法(指揮) 対位法(指揮)		
	ソルフェージュ1・2 合唱1・2	ソルフェージュ3・4 合唱3・4	声楽(副科)1・2	声楽(副科)3・4
	ピアノ(副科)1・2 管・弦・打楽(副科)1・2	ピアノ(副科)3・4 管・弦・打楽(副科)3・4	ピアノ(副科)5・6 チェンバロ(副科)1・2	ピアノ(副科)7・8 チェンバロ(副科)3・4
	西洋音楽史I 西洋音楽史II	音楽心理学 音楽音響学 合唱 民族音楽学 日本音楽史 音楽学特講 ほか		
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

指揮者として必要な指揮法によるテクニック、リハーサルテクニックを個人レッスンに加え、本学のオーケストラや合唱、オペラ等に参加することで修得します。学年を問わず、オーケ

ストラ等の授業においては、見学し、リハーサルの代行指揮や、客演指揮者のアシスタントなどの経験を積めるように多くの指揮をする機会を設けます。

教員



下野 竜也 教授
専門 オーケストラ指揮

非常勤講師

- ・ 粟辻 聡
- ・ 上中朝美
- ・ 外村雄一郎
- ・ 中田延亮
- ・ 中本芽久美
- ・ 山上友佳子



専攻独自の取り組み

他専攻の取り組みとの連携

各専攻や有志で構成されたオーケストラに、本専攻の学生が指揮者として参加しています。本学のさまざまなスタイルのイベントや演奏会に関わり、さまざまな状況で数多くの本番を経験することができます。



「第27回カザラックコンサート」桂坂小学校にて
(2019年9月7日)



「クロックタワーコンサート」京都大学時計台ホールにて
(2019年5月8日)

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった「クロックタワーコンサート」で予定していたプログラムを無観客で収録し、「アカデミーオーケストラ特別演奏会」として動画配信を行いました。



卒業生で指揮者の佐渡裕氏による特別授業 (2022年3月4日)



第167回定期演奏会 (2021年12月10日 指揮：秋山和慶客員教授)



STUDENT'S VOICE



指揮専攻2年生
東尾 多聞 さん

実践経験の機会も多く、指揮者としての心構えや精神性も養えます。

バトンテクニック等の技術や和声法、対位法、楽曲分析等の知識を身に付けるはもちろんの事ですが、今後指揮者として歩いていく上で必要な心構えや、音楽との接し方など、精神性や人間性と向き合う機会も与えて頂き、様々な面で成長することができます。実地を踏む経験を多く積ませて頂けるのも指揮専攻の特色です。オーケストラ授業や器楽専攻のアンサンブル演奏会などを通して、実際にオーケストラやア

ンサンブルを指揮するという、貴重な実践経験をさせていただくことが出来ます。

また、指揮専攻は人数が少ないので、全学年の繋がりが強く、先輩方からも様々なことを教えて頂けます。私は、このように成長出来る環境を整え、非常に熱心に指導して下さる先生方や、尊敬できる先輩方のもとで学べることに感謝するとともに、指揮専攻で学べることを嬉しく思います。

ピアノ専攻

Piano



特別演奏会「オーケストラ協演の夕べ」(2020年10月20日)

作品を深く解釈し 地道に積み重ねて花開く 個性豊かなピアニストに

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、ピアノ専攻の紹介動画がご覧いただけます。



本来クラシック作品が内包している構成、論理、ドラマ、感情、そして作曲家の意図、美意識やスタイルなどをできる限り理解し、将来、独自の見識で演奏できるピアニストになるために必要な、基礎的な知識と技術を身につけることを目的としています。過去の巨匠の作品の良き解釈者となるためには、高い技術と感性、思考、伝統的な奏法や

考え方といった裏付けに加えて、豊かな想像力が必要となります。進歩がはっきりと目に見えるものや早急な結論を求めるのではなく、地道に積み重ねて少しずつ糧となり、一生を費やして追求することでやっと花開くものこそが、本当の成果であると考えています。



音楽学部オープンキャンパス「ピアノレッスン」(2021年10月3日)

| 4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	バッハ作品の様式とさまざまな練習曲を理解・修得する。	メンデルスゾーン、シューマン、ショパン、ブラームスを含むロマン派様式の作品、さまざまなソナタ作品、1945年以降の近現代作品を理解・修得する。	規模の大きな作品、あるいはさまざまな曲によるプログラム編成、ピアノ協奏曲作品を理解・修得する。	4年間の集大成として、広範囲にわたるピアノ作品から各個人の特性などを考慮し選択された任意の作品を理解・修得する。
必修科目・選択科目	ピアノ1・2	ピアノ3・4	ピアノ5・6	ピアノ7・8
	ピアノ伴奏法1・2 ピアノ重奏1・2	ピアノ伴奏法3・4 ピアノ重奏3・4	ピアノ伴奏法5・6 ピアノ公開演奏	ピアノ伴奏法7・8
	ソルフェージュ1・2	ソルフェージュ3・4		
	鍵盤楽器総論Ⅰ・Ⅱ			
和声法初級	和声法中級 作曲法(編曲法を含む)	チェンバロ(副科)1・2 指揮法(副科)1・2 声楽(副科)1・2	チェンバロ(副科)3・4 声楽(副科)3・4	
西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ 合唱	音楽心理学 音楽音響学 合唱 楽曲分析 対位法 民族音楽学 日本音楽史 音楽学特講 ほか			
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

ピアノ専攻では、ソロ演奏の個人レッスンに加え、ピアノデュオ、伴奏、室内楽の実践的な指導も行い、ピアノ演奏のあらゆる可能性を身につけられるよう、多角的な教育を行っています。できるだけ充実した演奏可能なレパートリーを身につけることを推奨していますが、最

低限これだけは身につけてほしいという目安として、それぞれの学年ごとに試験の課題曲が出されます。実技演奏指導のほか、講義・演習科目など多くの講座があり、音楽家に求められる広範な知識を修得できます。また特別講座として、第

一線で活躍している演奏家を招き、公開レッスンやレクチャー、ミニコンサートを通じ、普段のレッスンとは異なる角度から指導を受ける機会も設けています。

教員



阿部 裕之 教授
専門 ピアノ



砂原 悟 教授
専門 ピアノ



上野 真 教授
専門 ピアノ



三船 優子 准教授
専門 ピアノ



田村 響 講師
専門 ピアノ

非常勤講師

〔ピアノ〕

- ・岩井理沙
- ・泉 麻衣子
- ・岡本麻子
- ・兼重稔宏
- ・河合珠江
- ・河内仁志
- ・喜多宏丞
- ・三枝由美子
- ・坂本彩
- ・坂本真由美
- ・佐野えり子
- ・塩見 亮
- ・野元佑美
- ・林 直美
- ・東山洸雅
- ・棕木裕子
- ・山口博明
- ・湯川美佳

〔チェンバロ〕

- ・中野振一郎
- ・三橋桜子

専攻独自の取り組み

ピアノフェスティバル

学内オーディションおよび推薦で選出された学生による演奏会で、ピアノ専攻の教育成果を市民の皆様へ披露する場となっています。市内のホールで開催される本コンサートを通じて、学生たちは聴衆の反応や息づかいが感じられる中で表現力を磨く訓練をします。

協賛：京都ライオンズクラブ
協力：株式会社JEUZIA, ベーゼンドルフアー・ジャパン



「第34回ピアノフェスティバル」(2021年6月12日)



その他、音楽家に求められる広範な知識を修得し、表現力を磨く機会が多く設けられています。

- ・特別講座（第一線で活躍する演奏家による公開レッスン、レクチャー、ミニコンサート）
- ・学内リサイタル（4年次選抜者によるリサイタル）
- ・「楽曲分析」、「ピアノ演奏法特殊講義」等の授業
- ・定期演奏会の出演（選抜者）



音楽学部オープンキャンパス「ピアノレッスン」
(2021年10月3日)



バスカル・ドゥヴァイヨン客員教授によるピアノマスタークラス
(2021年10月5日)



「卒業演奏会」(2022年3月21日)



STUDENT'S VOICE



ピアノ専攻4回生
天勝 悠太 さん

京都芸大でピアニストとしての総合力を養い、視野が広がりました。

ピアノ専攻では、国内外で活躍されているプロフェッショナルの先生方にご指導いただきながら、バロック音楽から現代音楽に至るまでの様々な作品を学ぶことができます。また、ソロ以外にも様々な楽器の伴奏を経験できることに加え、ピアノ専攻生同士でペアになって、連弾や2台ピアノの曲を学ぶ「ピアノ重奏」や、他の専攻生とアンサンブルを行う「室内楽」などの実

技科目を通じて、ピアニストとしての総合力を養うことができます。

僕自身、入学してから多様な経験を積むことで、演奏家としての視野が広がったと感じています。そして、共に高みを目指す仲間へ刺激を受けながら、充実した日々を送ることができ、京都芸大に入学して本当に良かったと思います。

弦楽専攻

Strings



「卒業演奏会」(2022年3月20日)

多くの演奏経験を積み 作品がもつ「真の美しさ」を表現できる演奏家をめざす

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、弦楽専攻の紹介動画がご覧いただけます。



将来、演奏家として社会に貢献できる人材を育てることを目標としています。そのために、演奏技術や表現法のほか、さまざまな知識と知恵を身につけた上で、どの作品も自らの力で解釈し、演奏できる能力を養っていきます。在学中にできるだけ多くの演奏経験を積むこ

とで、音楽作品への理解と共感を深め、作品がもつ「真の美しさ」や自身が得た音楽の感動を世の人々に伝えられる表現力を培います。このため、入学後、前半2年間では、演奏技術や表現法の基礎力の徹底を図り、後半2年間では、ソリストとして、また室内楽やオーケ

ストラ奏者として、どの分野にも要求される高度な演奏技術と表現力、そして高いアンサンブル能力を身につけることを目指しています。

4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	[弦楽1・2] 基礎技術の確認。古典派を含む弦楽器のための作品の修得。	[弦楽3・4] バッハの無伴奏曲などを含む弦楽器のための作品の修得。	[弦楽5・6] 協奏曲とオーケストラ伴奏による独奏曲を含む弦楽器のための作品の修得。	[弦楽7・8] 4年間の集大成として、広範囲にわたる弦楽器のための作品の修得。
必修科目・選択科目	弦楽1・2	弦楽3・4	弦楽5・6	弦楽7・8
	弦楽合奏1・2	弦楽合奏3・4	弦楽合奏5・6	弦楽合奏7・8
	オーケストラ1・2	オーケストラ3・4	オーケストラ5・6	オーケストラ7・8
	ソルフェージュ1・2	ソルフェージュ3・4		
和声法初級	ヴァイオリン(副科) *ヴァイオリンのみ 音楽学演習e(弦楽四重奏) 室内楽			
ピアノ(副科)1・2	ピアノ(副科)3・4	ピアノ(副科)5・6 声楽(副科)1・2 指揮法(副科)1・2	ピアノ(副科)7・8 声楽(副科)3・4	
西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ 合唱	音楽心理学 音楽音響学 合唱	和声法中級 楽曲分析 対位法 民族音楽学	日本音楽史 音楽学特講 ほか	
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

弦楽専攻では、各々の個人レッスンで演奏上の基礎テクニックと表現法を修得し、室内楽、弦楽合奏、オーケストラの授業を通して合奏能力を身につけます。

年2回の独奏による実技試験のほか、各クラスで自発的な試演会も行います。また、オーケストラの定期演奏会が京都コンサートホールにおいて年2回開催され、ほかにも学内外で多数の演奏会に出演する機会があります。



教員



四方 恭子 教授
専門 ヴァイオリン



豊嶋 泰嗣 教授
専門 ヴァイオリン、ヴィオラ



向山佳絵子 准教授
専門 チェロ

非常勤講師

[ヴァイオリン]

- ・ 泉原隆志
- ・ 江口純子
- ・ 大谷玲子
- ・ 黒川 侑
- ・ パブアゼ・ギオルギ

[ヴィオラ]

- ・ 小峰航一
- ・ 細川泉

[チェロ]

- ・ 福富祥子

[コントラバス]

- ・ 西口 勝

[弦楽合奏・室内楽]

- ・ 上森祥平

専攻独自の取り組み

ウエスティ音暦「弦楽の調和」

地域への文化芸術の還元、地域文化への寄与、市民に対する良質な音楽の提供を目的として、大学の所在区にある西文化会館での演奏会を京都市西文化会館、京都市音楽芸術文化振興財団との共催により、「ウエスティ音暦」と銘打ち実施しています。2010年度から、年2回のうち1回を弦楽専攻が担当しています。



ウエスティ音暦「弦楽の調和」(2021年11月27日)



STUDENT'S VOICE



弦楽専攻4年生
朴 美姫 さん

他専攻の先生や仲間たちとの交流からも刺激を受けています。

弦楽専攻では、ソロの演奏技術や表現力を磨き、さまざまな知識を身につけるのはもちろんのことですが、さらに弦楽合奏やオーケストラ、室内楽の授業を履修することでアンサンブルの経験を積むことができます。

私はコントラバスを専攻していますが、弦楽アンサンブルだけではなく他専攻の仲間ともアンサンブルを組んでいます。その際、他の楽器の先生のレッスンを

を受けることができ、新たな発見があり、沢山の刺激を受けます。

この大学は人数が少ないこともあり、仲間達とお互いに悩みを相談したり、先生方も親身に相談に乗ってくださるので、とても充実した学生生活を送ることが出来ます。このように素晴らしい先生方から音楽を学び、素敵な仲間達と励まし高め合える恵まれたこの環境に私はとても感謝しています。

管・打楽専攻

Brass, Woodwinds
and Percussion



「卒業演奏会」(2022年3月20日)

管・打楽器は「音のパレット」 さまざまな音色を操る適応力あるスペシャリストへ

管・打楽器奏者は、オーケストラやアンサンブルの一員となっても、ソリストとしての技量を求められます。管・打楽専攻は、その責任を負うにふさわしい音楽家としての成熟を目指す方に開かれています。在学中に、楽器を自在に操るテクニックを身につけることはもちろん、その楽器でしか出せ

ない音色感の修得、バロック期からアヴァンギャルドにいたる、あらゆる音楽作品に対応できる知識の獲得に努めます。ソリストとしての能力はもとより、オーケストラをはじめとするあらゆるアンサンブルへの適応力を持った奏者の育成に力を入れています。

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、管・打楽専攻(木管楽器)の紹介動画がご覧いただけます。



本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、管・打楽専攻(金管楽器)の紹介動画がご覧いただけます。



本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、管・打楽専攻(打楽器)の紹介動画がご覧いただけます。



本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、管・打楽専攻(サクソフォン)の紹介動画がご覧いただけます。



4年間の実技カリキュラム

※2021年度から、新たな楽器科目(専攻細目)として、ユーフォニアムを新設しました。

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	教員との個人面談によって研究方針を定め、楽器のポテンシャルを最大限引き出すための基礎的な技術と知識を修得する。	古典派作品の演奏を中心に、音楽的文法の理解・修得に努め、基礎的な技術と知識を確立する。	19世紀から近代にかけての作品解釈の実践を通し、音楽的知識、並びに高度な演奏技術を修得する。	幅広い年代の作品を演奏研究し、演奏家としてキャリアをスタートするにふさわしい演奏技術と知識を修得する。
必修科目・選択科目	管・打楽1・2	管・打楽3・4	管・打楽5・6	管・打楽7・8
	管・打楽合奏1・2	管・打楽合奏3・4	管・打楽合奏5・6	管・打楽合奏7・8
	オーケストラ1・2 サクソフォンアンサンブル1・2 ユーフォニアム・チューバアンサンブル1・2	オーケストラ3・4 サクソフォンアンサンブル3・4 ユーフォニアム・チューバアンサンブル3・4	オーケストラ5・6 サクソフォンアンサンブル5・6 ユーフォニアム・チューバアンサンブル5・6	オーケストラ7・8 サクソフォンアンサンブル7・8 ユーフォニアム・チューバアンサンブル7・8
	ソルフェージュ1・2	ソルフェージュ3・4		
	和声法初級		室内楽	
	ピアノ(副科)1・2	ピアノ(副科)3・4	ピアノ(副科)5・6 声楽(副科)1・2 指揮法(副科)1・2	ピアノ(副科)7・8 声楽(副科)3・4
	西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ 合唱	音楽心理学 音楽音響学 合唱	和声法中級 楽曲分析 対位法 民族音楽学	日本音楽史 音楽学特講 ほか
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

管・打楽専攻では、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、トランペット、ホルン、トロンボーン、バストロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、打楽器の中からいずれか一つの楽器(受験時に選択)を履修します。専攻実技は原則として個人レッスンで行

われ、エチュード、独奏曲、室内楽曲等を通し、それぞれの楽器の基礎的な演奏テクニック、各時代の一般的な音楽的表現法の修得に努めます。管・打楽合奏やアンサンブル、オーケストラの授業では、小編成のアンサンブルから吹奏楽や大オーケストラ作品に至るまで、

アンサンブルにおける演奏技術、表現法とともに各楽器の役割を学びます。年に2回、独奏による試験、卒業時には30分程度のプログラムによるジョイントリサイタル形式の試験を実施します。

教員



大嶋 義実 教授
専門 フルート



村上 哲 教授
専門 ホルン



森本 瑞生 講師
専門 打楽器

非常勤講師 (※)は客員教授

- | | | | |
|----------|------------|------------|-----------|
| [フルート] | [サクソフォン] | [ユーフォニアム] | [打楽器] |
| ・ 富久田治彦 | ・ 須川展也(※) | ・ 外園祥一郎(※) | ・ 中村 功(※) |
| [オーボエ] | ・ 國末貞仁 | ・ 三宅孝典 | ・ 堀内吉昌 |
| ・ 高山郁子 | [トランペット] | [チューバ] | ・ 真鍋明日香 |
| [クラリネット] | ・ 早坂宏明 | ・ 武貞茂夫 | [管・打楽合奏] |
| ・ 小谷口直子 | [トロンボーン] | [マリimba] | ・ 上田 希 |
| [ファゴット] | ・ 岡本 哲 | ・ 沓野勢津子 | ・ 若林義人 |
| ・ 中野陽一朗 | [バストロンボーン] | | |
| | ・ 小西元司 | | |

専攻独自の取り組み

ウエスティ音暦

Beautiful Harmony ～音楽で幸せなひと時を～

地域への文化芸術の還元、地域文化への寄与、市民に対する良質な音楽の提供を目的として、大学の所在区にある西文化会館での演奏会を京都市西文化会館、京都市音楽文化芸術振興財団との共催により、「ウエスティ音暦」と銘打ち実施しています。2010年度から年2回のうち1回を管・打楽専攻が担当しています。

打楽器、金管楽器、木管楽器それぞれのアンサン

ブルや吹奏楽の魅力あふれるサウンドをお届けしました。

文化会館コンサート

『星月夜』～秋澄む夜のアンサンブル～

京都市北文化会館との共催により、毎年秋に開催しています。学部生・大学院生らで編成された本格的な管・打楽アンサンブルを、市民の皆さまに気軽に楽しんでいただけるよう、無料コンサートでお届けしています。



文化会館コンサート「星月夜～秋澄む夜のアンサンブル～」
(2021年11月17日)



「京都市立芸術大学フルートオーケストラ2021 with アジア・フルート連盟 特別演奏会 ～アジアのフルート奏者たち～」
(2021年8月14日)



STUDENT'S VOICE



管・打楽専攻4回生
藤井 虹太郎さん

第90回 日本音楽コンクール
トランペット部門
第1位ならびに岩谷賞(聴衆賞)受賞

ハイレベルな仲間たちと一緒に音楽に向き合っています。

人見知りな私ですが、先輩や同級生が気さくに話しかけてくれたので他府県から入学してもすぐに打ち解けることが出来ました。

ハイレベルな仲間たちに囲まれ日々良い刺激を受けながら音楽に向き合うことができます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ですが、教職員の方々のご尽力のおかげで可能な限り対面

レッスンや練習を続けさせていただいています。オーケストラや吹奏楽、ソロだけでなく室内楽や各楽器専攻アンサンブル等さまざまな分野の演奏が学べます。私は尊敬する先生方の元で音楽を学べる事、そしていつも刺激を与えてくれる京都芸大の仲間たちにとても感謝しています。

声楽専攻

Vocal



「第167回 定期演奏会」(2021年12月10日)

身体そのものが「楽器」 幅広い視野をもつインターナショナルな声楽家に

声楽の一番の特徴は、身体そのものが「楽器」であることです。そのため、声楽専攻では、単に口から声を出すというだけではなく、それぞれの「楽器」をよく理解したうえで、共鳴、呼吸法、発声テクニックなどを4年間の個人レッスンを通して実践的に学びます。また、私たち個人の感情や性格までもがその「楽器」を通

してそのまま反映されるため、技術の修得と同時にバランスのとれた人間性を目指すことも欠かせません。声楽テクニックだけに偏らない広い視野をもった学生の育成を目指します。さまざまな言語によるテキストの習熟が必要なものも、本専攻の大きな特徴です。テキストの意味をより深く理解し、正しい発音によって表

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、声楽専攻の紹介動画がご覧いただけます。



現することで、将来インターナショナルに通用する人材の育成を目標にしています。卒業後は、国内はもとより、諸外国の歌劇場や放送局などで演奏活動を行っている者や、指導者として後進の育成に当たっている者など、音楽界に貢献すべく活躍の場を広げていきます。

4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	発声の基礎を学びながら、声楽についての知識をしっかりと身につけていく。イタリア語のディクショナ(発語法)をはじめ、イタリア古典歌曲等を中心とした個人レッスンを受ける。	発声の基礎と並行し、他言語の歌曲やオペラの Aria 等に幅を広げ、内容を深めていく。ドイツ語のディクショナが加わる。	作品解釈の実践を通し、音楽的知識と高度な演奏技術を修得する。フランス語のディクショナを学ぶ。また、重唱とオペラ実習の授業でアンサンブルや演技を通して、舞台表現者としての基礎を固めていく。それぞれの授業で試演会として成果を発表する。学年末に試演会で成果を発表する。	より深い作品解釈の実践、高度な音楽的知識と演奏技術を修得していく。日本語のディクショナを通して詩の明瞭な発語と表現を学ぶ。また、演技や舞台表現の技術をさらに深め、それぞれ試演会として学期末にその成果を発表する。
必修科目・選択科目	声楽1・2 合唱1・2 ディクショナa(イタリア語) ソルフェージュ1・2	声楽3・4 合唱3・4 ディクショナb(ドイツ語) ソルフェージュ3・4	声楽5・6 合唱5・6 ディクショナc(フランス語) 重唱1・2 オペラ実習1・2	声楽7・8 合唱7・8 ディクショナd(日本語) 重唱3・4 オペラ実習3・4
	オペラ総論1・2			
	和声法初級 ピアノ(副科)1・2	ピアノ(副科)3・4	ピアノ(副科)5・6 指揮法(副科)1・2	ピアノ(副科)7・8
	西洋音楽史I 西洋音楽史II	音楽心理学 音楽音響学 和声法中級 楽曲分析	対位法 民族音楽学	日本音楽史 音楽学特講 ほか
	語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語		
その他	メディア学 法学 演劇学 文化人類学 西洋美術史 日本美術史 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

4年間を通して、声楽の基礎となる発声の技術を修得し、それぞれの学生が持つ能力を高めるとともに、ヨーロッパの音楽を中心とした古典から現代までの歌曲やオペラ・ Aria、日本歌曲など、さまざまな声楽曲を個人レッスンの形式で学びます。その上で年2回、実技試験

を行います。このほか、定期演奏会の演奏曲目として声楽作品が取り上げられた場合には、ソリスト(オーディションによる)や合唱として参加します。大学院オペラ公演や4年次のオペラ試演会の際には、助演、合唱として参加するほか、舞台の照明や衣装、大道具、小道具の

準備などに関わります。その際、全学年の声楽専攻生が製作スタッフとしても参加することで、歌手の養成だけでなく、舞台の裏表の仕組みを明確に認識・体感しながら舞台を作り上げていく経験を積みます。

| 教員



小濱 妙美 教授
専門 声楽 (ソプラノ)



久保 和範 教授
専門 声楽 (バリトン)



北村 敏則 准教授
専門 声楽 (テノール)



日紫喜恵美 准教授
専門 声楽 (ソプラノ)



上野 洋子 准教授
専門 声楽 (ソプラノ)

| 非常勤講師

- ・ 相可佐代子
- ・ 日下部祐子
- ・ 清水徹太郎
- ・ 萩原次己
- ・ 福原寿美枝
- ・ 松原友
- ・ 松本薫平

| 専攻独自の取り組み

「オペラの日」開催

「4回生オペラ」「大学院オペラ」の前期試演会を「オペラの日」と題して本学講堂で開催し、一般公開しています。7月の暑い時期ですが、たくさんのお客様にご来場いただき、日頃の成果を発表します。また、「3回生オペラ」「4回生オペラ」の試演会も年に一度一般公開しており、日頃の集大成として活気あふれる舞台を上演しています。毎年2月には定期演奏会「大学院オペラ」を、大学院生のみならず、学部生全員参加型で行うことで、一体感のある京都芸大ならではの催しとして親しまれています。



STUDENT'S VOICE



先生方の厳しくも温かいレッスンは、とても貴重な時間です。



声楽専攻3回生
石原のぞみさん

本学の声楽専攻では、音楽家や人間としての様々な成長を日々感じることができます。発声の基礎はもちろん、声楽に必要な知識や言語についても深く学べる場所です。

個人レッスンでは、先生方の温かく、時には厳しく熱心なご指導により、自分自身の課題としっかりと向き合うことができます。一つ一つのレッスンがとても貴重な時間です。オペラ公演では、出演者としての経

験だけでなく、裏方の仕事にも触れることができます。表には立たずとも、多くの人たちの存在が舞台を支えているのだということを実感します。

また、本学は少人数だからこそ、学生同士の繋がりが深く、互いにたくさんの刺激を受けながら支え合っています。このような環境の中で、充実した日々を過ごせることをとても嬉しく思います。

音楽学専攻

Musicology



音楽・音・音響，そしてそれに関わる人と社会 —— 音楽学の広大なフィールドへようこそ

本学オープンキャンパス Youtubeチャンネルで、音楽学専攻の紹介動画がご覧いただけます。



「音楽学 Musicology」とは、音楽や音、音響とそれに関わる人間と社会など、音(楽)にまつわる事柄すべてを研究対象にすることができる学問領域です。

近年、音楽の領域では激しい勢いで多様化と拡散、複合化が進んでいます。西洋の古今のいわゆる芸術音楽のみならず、日本を含めた世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽、また環境音やノイズ、電子音響にいたるまで、さまざ

まな音楽や音、音響が共存し、互いに影響を与えながら複合的な展開を見せています。

そうした近年の音楽文化の多様化とグローバル化に対応しながら、音楽学専攻では音楽に関するさまざまな知識や理論の修得に加えて、演奏、調査、実験など、より実践的な活動もふまえたしなやかな知性と思考力を養い、多方面で活躍できる人材を育てることを目指しています。そのために、西洋音楽史、民族音楽学、

音響・音楽心理学と、それぞれ専門領域の異なる4人の教員が、1学年3名という少人数制の利点を活かして、学生ひとりひとりの関心に応じた柔軟できめ細やかな指導を行います。また、本専攻には一般選抜に加えて、社会人特別選抜も設けられており、社会人の方々も実社会での経験を生かして学ぶことが可能です。卒業後は、主に大学院に進む者と、就職して社会人になる者とに分かれます。

4年間の実技カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
内容	音楽学を学ぶ上で必要となる基礎的な知識や能力を身に付けるとともに、外国語の修得も目指す。		それぞれ志望する演習クラスに分かれて専門研究を行い、卒業論文を仕上げる。	
必修科目・選択科目	西洋音楽史Ⅰ 西洋音楽史Ⅱ	音楽心理学 音楽音響学		
	音楽学概説		民族音楽学 日本音楽史 原典研究 ほか	
	実験音楽論 ポピュラー音楽論 音楽学特講 ミュージック・ライティング		音楽学演習 音楽学実習 ほか	
			音楽学特別演習1・2	音楽学特別演習3・4 卒業論文
	ピアノ(副科) 1・2	ピアノ(副科) 3・4	ピアノ(副科) 5・6 指揮法(副科) 1・2	ピアノ(副科) 7・8
ソルフェージュ 1・2	ソルフェージュ 3・4	声楽(副科) 1・2 チェンバロ(副科) 1・2	声楽(副科) 3・4 チェンバロ(副科) 3・4	
和声法初級 和声法中級 楽曲分析 対位法 合唱				
語学	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語			
その他	メディア学 法学 文化人類学 日本文化史 アジア文化史 社会学 心理学 体育 ほか			

1, 2年次は、主に音楽学を学ぶ上で必要となる基礎的な知識や能力、研究に求められる学問的な思考力を身に付けることに重点が置かれます。また、幅広い教養や知識の運用能力が求められる現代社会に柔軟に対応できるよう、音楽以外のさまざまな授業もあわせて履修します。

3年次からは各専攻教員のもとで専門的な研究を行います。プレゼンテーションやディスカッションを通して、実社会でも役立つ汎用的なスキルを磨くとともに、論文作法などの高度な学術的能力の修得も目指しながら、担当教員の個人指導のもと、最終的な研究成果を卒業論文としてまとめます。

少人数制の利点を生かし、異なるテーマに関心を持つ学生たちが互いに刺激しあい、共に学びあうことができる環境を提供します。

教員



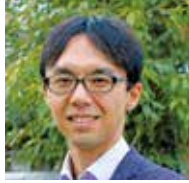
津崎 実 教授
専門 音楽心理学



太田峰夫 教授
専門 西洋音楽史



川端美都子 准教授
専門 民族音楽学



池上健一郎 准教授
専門 西洋音楽史



専攻独自の取り組み

定期演奏会に向けた出演者インタビューやコラム記事の作成、合同ゼミなど、学年や専攻の垣根を越えた企画も充実

音楽学専攻では、実技専攻の学生とも協力して、本学部の定期演奏会をより盛り上げるため、学内に向けた出演者インタビューやコラム記事の作成などを行っています。上回生になると、定期演奏会プログラムの曲目解説の執筆も担当します。また、専攻教員全員が集まって行う合同ゼミも定期的に開催しており、研究室の垣根を越えて学生同士が刺激しあえる環境が整っています。



STUDENT'S VOICE

美術学部の講義も履修でき、さまざまな刺激を受けています。



音楽学専攻4回生
鷺塚 葵さん

私は音楽心理学のゼミに所属しており、呼吸音をはじめとした聴覚情報が演奏の調和にどのように影響するかについて研究しています。合奏の様子を見てみると、奏者同士で視線を送りあったり、身体を動かして出だしを揃えたりするのをよく目にします。しかし、もしそのような視覚情報が遮断された場合、円滑な演奏が妨げられるのではないかと疑問に思ったのが研究の出発点でした。また、音楽学専攻生は、副科

で実技専攻生と同じようにレッスンを受けたり、美術学部の授業を履修したりすることもできます。私も実際、副科打楽器は1回生の頃から続けていますし、3回生の前期には「日本美術史概説」という授業を履修しました。このように自分の興味に応じて幅広く学ぶこと、また、少人数制だからこそ先生方から温かく丁寧な指導を受けられること、これが京大芸大の、そして音楽学専攻の魅力だと感じています。

修士課程

Master's Course



作曲・指揮専攻

作曲

学部での研究のさらなる展開を課題とし、より多くのイベントに自主的に参加して、企画や制作を経験しながら、作曲者として自立することを目標としています。修了時は、修士作品または修士論文と修士論文を提出します。

指揮

指揮実習を中心に指揮法を探究することにより、技術の熟成を図ります。また、各自のレパートリーを

形成し、広げることによって、広く演奏分野で活躍できる指揮者を育成します。修了時は、修士演奏または修士演奏と修士論文を提出します。

器楽専攻

ピアノ

演奏技術・表現力の向上を目指すとともに、理論的な考察・研究を行います。2021年度は「ショパンのノクターン」と「ラヴェルのピアノ曲」についての演習を行いました。課程の修了に際しては、その成果として修士演奏Ⅰ(80分程度のリサイタル)と修士論文の提出が義務づけられます。また修士論文の提出の代わりとして修士演奏Ⅱ(60分程度のリサイタル)を行うことも可能です。

弦楽

より高度な演奏技術・表現力を追究し作品解釈のための研究や考察を行い、社会に貢献できる音楽家を育てることを目的とします。修了に際しては、その成果を修士演奏として発表します。演奏に加え修士論文を選択することも可能です。

管・打楽

より高度な演奏法、さらに理論面での研究を求めます。修了時には、独奏による修士演奏Ⅰ、室内楽による修士演奏Ⅱまたは修士論文の提出が課せられます。

声楽専攻

各研究室において専門的な研究を行います。修了時には、リサイタル形式による修士演奏Ⅰと修士論文の提出、またはそれに代わる修士演奏Ⅱが課せ

られます。

クラス授業

歌曲演習には、ドイツ歌曲とフランス歌曲のクラスがあり、各専門の歌曲を研究します。声楽演習のクラスでは、専任教員による専門的な分野を題材に演習を行います。

オペラ

オペラのクラスでは、オペラの公演を年1回行います。オーケストラ伴奏つきの本格的な舞台を一般公演として行います。(p.67参照)

音楽学専攻

学部時代に培った能力を基盤とした学術的意義の高い研究を目指します。専門科目を履修するとともに、担当教員の演習に参加して研鑽を積みみます。担当教員からの個人指導を受けながら、課題探究・解決力や論理的思考に根差したコミュニケーション力を養い、最終的な研究成果を修士論文としてまとめます。優れた成果をあげた学生は、関連学会で研究発表を行うこともできます。

日本音楽研究専攻

日本の伝統文化を、音楽面を中心に研究します。伝統音楽の理論・思想・歴史を深く知るだけでなく、伝承の現場に参加し、観察して体験を深めます。学び得た知識を論文にまとめ、さらに一般向けにわかりやすく提示する手段を実践的に学び、伝統文化における音楽・芸能の理解を深めていきます。学術的な深い理解を踏まえたうえで、伝統音楽・芸能の伝承と実践をサポートできる人材を育成します。

博士（後期）課程

Doctoral Course



研究領域

作曲・指揮

作曲作品の実作または指揮の実技と理論の研究を通して、高度な作曲技法または指揮法の修得を目標とします。そのために、作曲と指揮の密接な関係を鑑みて、双方向からの実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな音楽の創造を図ります。

作曲では、創作を行うとともに、作曲理論研究・音楽作品研究を深く究め、新たな音楽の創造を図ります。

指揮では、広い視野に立って、芸術の中での指揮者の役割を研究します。また、指揮法の技術向上に関する研究、指揮教育の今後のさらなる発展のために、高度な能力を有する研究者を養成します。

器楽

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度な器楽演奏の修得を目標とします。そのため、演奏作品および演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな器楽演奏の創造を図ります。

声楽

声楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度な声楽演奏の修得を目標とします。そのため、演奏作品および演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな声楽演奏の創造を図ります。

音楽学

西洋音楽史、音楽心理学、音響心理学、民族音楽学それぞれの先端的研究の成果をふまえた、高度で創造的な研究の達成を目標とします。また、学際的・分野横断的な視点に立って、新たな音楽学研究の可能性を追究します。

博士（後期）課程の学生による研究発表の場として「特別総合演習」が設けられており、教員を含めたさまざまな専門領域のメンバーとのディスカッションを通じて研究を推進してゆくことが期待されています。それに加えて、自身の研究成果を学会で発表するとともに、論文としてまとめ、学術雑誌に投稿することが求められます。最終的には、専門的研究の成果として、博士論文を完成させ、博士号の取得を目指します。

定期演奏会

Subscription Concerts



第166回定期演奏会(2021年7月8日)

日頃の鍛錬の成果を発表する大舞台

京都市立芸術大学の定期演奏会は、昭和28(1953)年に第1回目を開催し、令和3(2021)年に第167回を迎えた歴史ある演奏会です。夏・冬年2回のオーケストラ公演と、年1回の大学院オペラ公演の計3回開催しています。



京都市立音楽短期大学, 第1回定期演奏会を弥栄会館で開催(1953年)

オーケストラ公演

オーケストラ公演は京都コンサートホールで開催しており、古典から現代音楽まで幅広く楽曲を取り上げています。楽曲ごとに演奏者が変わることによって、多くの学生に出演機会があり、プロの演奏家を目指すうえで必要なアンサンブル能力の向上と大舞台での経験を積むことができます。



第167回定期演奏会(2021年12月10日)

大学院オペラ公演

大学院オペラ公演は、平成25(2013)年から定期演奏会に位置付けられ、修士課程の音楽専攻生を中心に、音楽学部・音楽研究科がひとつとなって作り上げる充実した舞台です。出演者やオーケストラだけでなく、舞台装置づくりをはじめ、オペラに必要な準備のほとんどを学生自らが手がけています。きらびやかな舞台と学生たちの華麗な歌声をたっぷり楽しめるオペラ公演は、多くの観客の前で日頃の鍛錬の成果を発表する場となっています。



第163回定期演奏会大学院オペラ公演(2020年2月15日,16日)



第165回定期演奏会大学院オペラ・ガラコンサート(2021年2月14日)

※2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客で開催し、演奏会形式でライブ配信を実施しました。

教職課程

Teacher Training Course



教職課程とは

教育職員免許法に基づいて、教育職員免許状を取得するために必要な単位を修得する課程です。免許状の取得を希望する場合、卒業に必要な単位数のほかに教職課程の単位を修得することが必要です。教職課程の意義を十分に理解し、履修方法や手続き等に間違いがないよう周知な計画と準備をして臨んでください。

教員



三木 博 教授
専門 教育人間学



飯田 真人 教授
専門 美術教育



清水久莉子 特任講師
専門 音楽教育学

本学で取得可能な教職員免許状

美術学部

種類	教科	必要な実習・体験
中学校教諭一種	美術	・教育実習 3～4週間 ・介護等体験が必要
高等学校教諭一種	美術 工芸	・教育実習 2週間

音楽学部

種類	教科	必要な実習・体験
中学校教諭一種	音楽	・教育実習 3～4週間 ・介護等体験が必要
高等学校教諭一種	音楽	・教育実習 2週間

美術研究科 修士課程

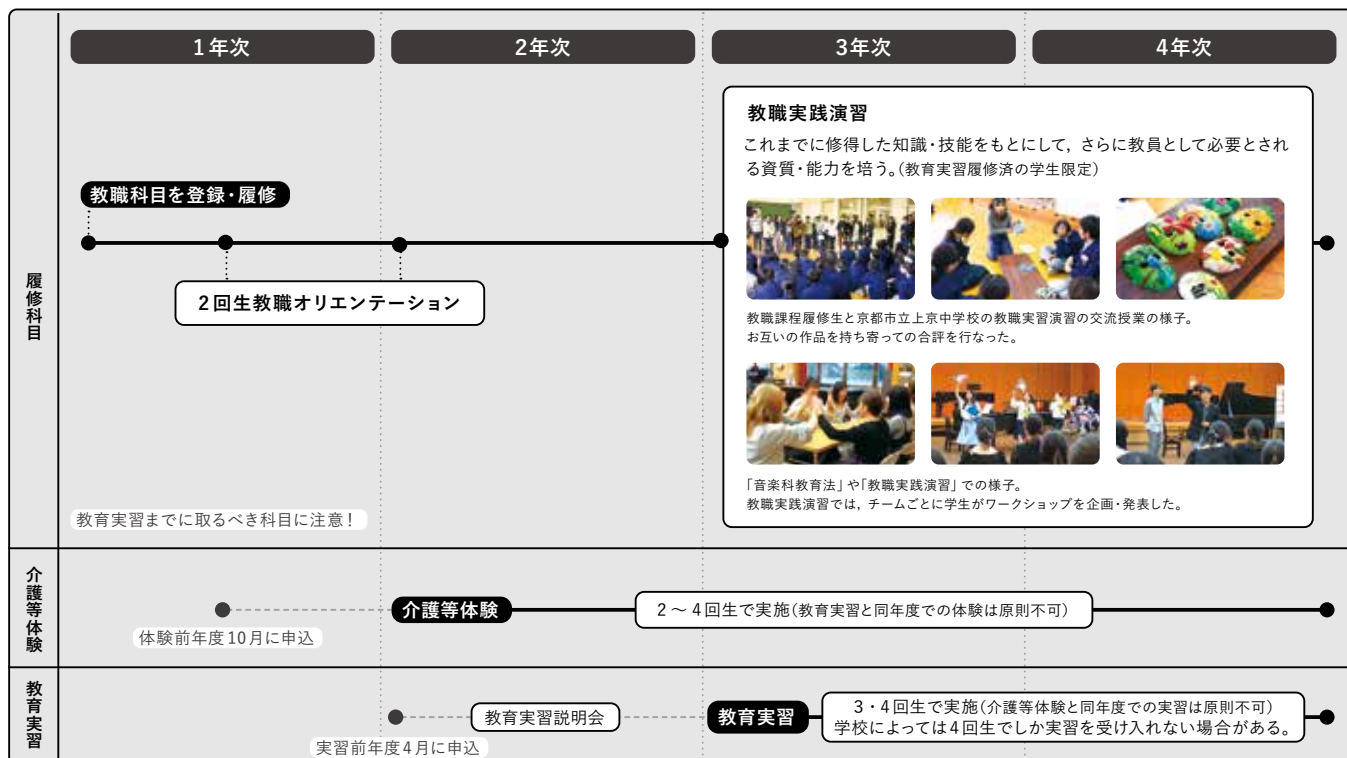
※専攻によって修得できる免許状の種類が異なります。

種類	教科	備考
中学校教諭専修	美術	・修士の学位を有する ・中学校教諭一種免許状を取得済み
高等学校教諭専修	美術 工芸	・修士の学位を有する ・高等学校教諭一種免許状(美術・工芸)を取得済み

音楽研究科 修士課程

種類	教科	備考
中学校教諭専修	音楽	・修士の学位を有する ・中学校教諭一種免許状を取得済み
高等学校教諭専修	音楽	・修士の学位を有する ・高等学校教諭一種免許状を取得済み

教職課程履修スケジュール



研究センター

日本伝統音楽研究センター	70
芸術資源研究センター	72
@KCUA(アクア)	74

本学には2つの研究センターがあります。
日本伝統音楽研究センターは、2020年に開設20周年を迎え、日本の伝統音楽を総合的に研究する国内唯一の公的研究機関です。
芸術資源研究センターは、2014年に設置されました。芸術作品や各種資料を芸術資源として捉え直し、将来の新たな芸術創造につなげることを目的としています。

学外ギャラリー

本学のサテライトギャラリー@KCUA(アクア)では、当ギャラリー学芸員の企画による特別展のほか、京都市立芸術大学の研究成果発表展ならびに教員・在学生・卒業生による企画展を実施しています。全ての展示会は、市民の方に広く鑑賞の機会を提供し、その活動を知っていただくため、入場無料としています。

日本伝統音楽研究センター
<https://rcjtm.kcua.ac.jp/>

新研究棟6～8階にある日本伝統音楽研究センターでは、珍しい楽器や貴重な音源が保管されており、日本の音楽に特化した図書室や展覧ギャラリーも併設。市民講座などを通じて一般公開している。



芸術資源研究センター
<https://www.kcua.ac.jp/arc/>

大学会館1階にある芸術資源研究センターは、ガラス張りで開放的な空間。彫刻専攻の小山田教授製作の大きなテーブルを囲んでさまざまな対話生まれる。



@KCUA
<https://gallery.kcua.ac.jp/>

地下鉄二条城前駅から徒歩3分の「堀川御池ギャラリー」内にある本学のサテライトギャラリー@KCUAは、2つのギャラリースペースがあり、当ギャラリー企画による様々なジャンルの展示会を開催。



「京芸 transmit program 2020」小嶋晶作品展示風景
(撮影：来田猛)

日本伝統音楽研究センター

Research Institute for
Japanese Traditional Music



伝音センター
公式ウェブサイト



<https://rcjtm.kcuu.ac.jp>

公開講座等の最新イベント情報のほか、論文や動画等のアーカイブが閲覧いただけます。



第55回公開講座「語りの立体化そして復曲 一狂言、能、題目立一」(2019年11月16日)

世界的に注目を浴びる研究機関へ

伝統音楽・芸能に特化した貴重な資料をもつ研究のメッカとして

日本伝統音楽研究センター（通称：でんおん、伝音センター）は、2000年に本学の新研究棟の竣工と同時に創設され、20年を超える歴史を歩んできました。

日本伝統音楽に関する情報・研究成果を発信する体制が軌道に乗り、さらに国際的な研究活動・交流が進展した今、伝音センターは、伝統音楽・芸能に特化した、貴重な資料の宝庫をもつ研究のメッカとして世界的にも注目されるようになりました。

現在、国内では国際日本文化研究センター、海外ではアメリカのスタンフォード大学音楽学部、スイスのジュネーブ高等音楽学院と協定を結び、さらに中国の音楽学院との協定の締結を進め、共同研究や講演会・コンサートの開催など、さまざまな活動を行っています。



でんおん連続講座「常磐津節実践入門」受講者と「常磐津部」との合同試演会の様子

日本音楽研究専攻（修士課程）

2013年、大学院音楽研究科修士課程に日本音楽研究専攻（1学年定員3名）を設置したことで、専任教員と非常勤講師（特別研究員）が学生教育にも携わることになりました。

日本音楽研究専攻は、教育内容を基礎領域・特殊領域・応用領域の3つの領域に区分し、独自の段階的な学生教育を行っています。特に史資料の解釈、フィールドワーク、実技など、複数のアプローチを通じて対象をより深く理解するこ

と、市民講座等の実践活動を通じて、広く社会に対して研究内容を提示できるようになることを重視しています。これまでに14人の学生が修士論文を提出して学位を取得し、社会に出て活躍しています。

学生の存在は、伝音センターの活動に活気をもたらします。近年は国際交流の進展にともなって、外国人留学生が増え、にぎやかになってきました。



細川 周平 所長
専門 音楽学



藤田 隆則 教授
専門 民族音楽学



竹内 有一 教授
専門 三味線音楽



武内 恵美子 准教授
専門 日本音楽文化史



田 敏 智志 准教授
専門 音楽史学・民間芸能



齋藤 桂 講師
専門 音楽学

特別研究員 デュラン, ステファン・アイソル 根本千聡 光平有希

主な活動① 全国的・国際的レベルの研究センターとして

収集と保存

SP・LPレコード、オープンリールテープ等に収録されている無形文化財の音源をデジタル化し、公開活動を進めています。



調査と研究

年間で計50名ほどの共同研究員や演奏家が招聘され、さまざまなジャンル・方法の調査研究を行っています。



公開と啓蒙

文献資料を収蔵する「資料室」では、学芸員と司書が日々地道な作業を続け、学術的研究の啓蒙普及と公開に貢献しています。



主な活動② 日本伝統音楽に対する「知」と「魅力」を共有するために

公開講座

日本の伝統音楽およびその研究活動を伝えるために、毎回、学外から演奏家や研究者などの豪華ゲストを招き、年3回程度開催しています。



伝音セミナー

SPレコード等に残された音源を紹介する無料講座です。日本の伝統音楽に触れるのは初めてという方にも気軽に受講していただけます。



でんおん連続講座

専門的なテーマを扱う講座です。演奏などの実演を交えた説明と、歴史的資料、口伝書、楽譜等の演奏資料を読み進め、理解を深めます。



伝音センターの施設

図書室

収蔵資料数は約4万1千点。本学の教職員、学生のほか、調査研究のために必要な方も閲覧・視聴いただけます。



展観ギャラリー

年に数回、特定の研究テーマで文献・楽器・パネル等の展示を行っています。



出版物

紀要・所報・研究報告書・DVD等

紀要・研究報告書等の学術出版物や、公開講座の様子が収録されたDVD等を制作し、公開講座等の成果内容を、国内外の研究者および市民との情報共有と交流に役立てています。



芸術資源研究センター



YouTubeチャンネル「沓掛2023」キャンパスアーカイブプロジェクト
(ゲスト：井上明彦／撮影：阪本結)

新たな芸術を生み出す「創造のためのアーカイブ」

Archival Research Center



芸術資源研究センター（略称：芸資研、英語表記：Archival Research Center）は、文化芸術都市・京都に受け継がれ、また新たに誕生する芸術作品や各種資料などを「芸術資源」として包括的に捉え直し、記録の保存・活用を意味するアーカイブの手法を取り入れ、新たな芸術創造を生み出すための調査・研究機関として、2014年4月に発足しました。

日常的にさまざまな作品や資料を生み出している芸術大学は、ひとつの巨大なアーカイブと言えます。芸資研では、これからの芸術創造のための資源となりうるものを集めた「創造のためのアーカイブ」を育みます。1880年の京都府画学校創立から140年を迎える本学の歴史の中で培われ、現在も生まれつつある教育・研究の成果が、将来の芸術文化・教育の発展に寄与することはもちろんのこと、美術や音楽といった芸術の分野を越え、相互が出合うことにより、これまでにない新しい芸術が京都に生まれ、拓かれることを目指します。

芸資研では、こうした新しいアーカイブ理論に基づく基礎研究を進めると同時に、本学の特色や土壌を活かした重点研究に取り組んでいます。

芸資研
公式ウェブサイト



<https://www.kcuu.ac.jp/arc/>



芸資研 YouTube チャンネル



キャンパスアーカイブプロジェクト
沓掛 2023



総合基礎実技アーカイブ

総合基礎実技（P20参照）の課題と成果を資料化し、芸術教育に新たな展望を開くことを目指します。



沓掛2023／映像配信のアーカイブ実験室

2023年の京都市立芸術大学移転に向けて、現在の沓掛キャンパスの記録を写真で残すプロジェクトです。学生・教職員・卒業生など、さまざまな方々から沓掛キャンパスの写真を提供していただき、それを「本学に関係する個人個人の記憶の集合体」としてまとめ、沓掛時代の京都芸大の記録をつくらうとするとりくみです。



シンポジウム「デジタル時代の〈記憶機関〉芸術／大学における図書館・美術館・アーカイブ」2020年11月28日
登壇者：桂英史、佐々木美緒、松山ひとみ、森野彰人
司会：佐藤知久（芸術資源研究センター教員）



芸術資源研究センター紀要『COMPOST』

2020年に刊行を開始した芸資研の紀要で、年1回発行しています。「COMPOST=コンポスト」という名前には、資料の廃棄や、保存・蓄積される場所という意味と同時に、分解や堆肥化を通じた変化と再生のイメージが込められています。表紙には、毎号少しずつ変化する手刷りの版画を用いています。



所長
森野 彰人 教授
美術学部・美術研究科



副所長
砂原 悟 教授
音楽学部・音楽研究科



副所長
武内恵美子 准教授
日本伝統音楽研究センター



専任研究員
佐藤 知久 教授
(専門 文化人類学)

特別招聘研究員

彬子女王
森村泰昌
塩見允枝子
加治屋健司

非常勤研究員

高嶋 慈
滝 奈々子
竹内 直
埜 美智子
橋爪皓佐
藤岡 洋

基礎研究

アーカイブ理論の研究

アーカイブという言葉は、「公文書館」から「芸術表現の方法」まで、さまざまな意味で用いられています。芸術研究では、芸術および芸術大学におけるアーカイブの可能性を検討し、その理解を深めるために、識者を招いたアーカイブ研究会を随時開催しています。

芸術資源の調査収集と活用

芸術研究は、京都芸大が所蔵する芸術作品や各種資料を中心に芸術資源を調査し、創造的に活用するために研究しています。芸術資料館や附属図書館と連携しつつ、学内各所に点在する芸術資源の目録作成を進めると同時に、将来的には京都を中心とした学外の芸術資源も含めて、その創造的な活用を推進したいと考えています。

教育場での活用

アーカイブの発想や方法は、芸術教育においても有効です。芸術家は、芸術作品によって構成される芸術の歴史を踏まえて制作してきましたが、現代の芸術家が制作時に向き合う多様な情報環境は、芸術作品に限定されない資料や情報を含んだアーカイブにたとえることができます。現代社会にふさわしい創作能力を育成するために、アーカイブの発想や方法を芸術教育に取り入れたいと考えています。

これまでのアーカイブ研究会



第5回「アーティストはいつしか作品を作るのをやめ、資料を作り始めている」田中功起（アーティスト）
2014年12月8日



第17回「エイズ・ポスター・プロジェクトを振り返る」小山田 徹（美術学部教員）、佐藤知久（芸術資源研究センター教員）、プブ・ド・ラ・マドレーヌ（美術家）
2017年5月17日



第24回「特集展示『鈴木昭男 音と場の探究』をめぐって」奥村一郎（和歌山県立近代美術館学芸員）、鈴木昭男（サウンド・アーティスト）
2018年12月16日



第33回「360°」展覧会アーカイブ事業『ART360°』の実践を通じた考察 辻 勇樹（Actual Inc. 代表取締役 / ART360° ディレクター）
2020年12月18日（オンライン配信）

重点研究

多様な専門分野をもつ学内外の研究者が時限的に推進する重点研究を、プロジェクト・リーダーが中心となり、一人もしくは数人の研究者からなる研究チームによって実施しています。現在進行中のプロジェクトから、いくつかを紹介します。

進行中のプロジェクト例

富本憲吉アーカイブ・辻本勇コレクション

富本憲吉記念館創設者の辻本勇氏からコレクションの寄贈を受け、本学の前身である京都市立美術大学に陶磁器専攻を創設した元学長・富本憲吉ゆかりの書簡等の資料を調査研究しています。中間成果として書籍『富本憲吉「わが陶器造り」』を刊行しました。



富本先生誕生日
(撮影年不詳)

バシェの音響彫刻プロジェクト

1970年の大阪万博で制作された17基のバシェの音響彫刻のうち、これまでに修復された6基の音響彫刻の構造と響きを体系的にアーカイブ化しています。部材の劣化を防ぐメンテナンスを施すと共に、まだ復元されていない部材についても調査しながら、新たな創造活動の可能性を探っています。



「バシェ音響彫刻 特別企画展」開幕
(京都市立芸術大学 @KCUA / 2020年11月7日)

現代美術の保存修復／再制作の事例研究一國府理

《水中エンジン》再制作プロジェクトのアーカイブ化
2014年に急逝した國府理（本学美術研究科 彫刻専攻修了）の作品《水中エンジン》（2012年）を再制作するプロジェクトに関する記録と、関連資料のアーカイブ化を行っています。動態的な作品における「同一性」「自律性」の問題や、作品がはらむ本質的な批評性と「再制作」の関係など、現代美術作品の再制作プロセスが提起する、さまざまな問いについても検討しています。



「平成美術：うたかたと瓦礫 1989-2019」展示風景
(京都市京セラ美術館 / 2021) 撮影：木奥惠三

@KCUA

Gallery @KCUA



「Slow Culture」展示風景／2021（撮影：来田猛）

開かれた芸術文化創出の交流の場

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）は、多くの方に作品を鑑賞していただく場として、また本学の活動成果を公開する実験的発表の場として、堀川御池ギャラリー内に2010年4月にオープンしました。「@KCUA」は本学の英語表記「Kyoto City University of Arts」の頭文字をもじったもので、ラテン語の「アクア=水」となります。生命を養う水のように、芸術が人々の暮らしに浸透し、創造力豊かな社会に貢献するという本学の理想を表現しています。

@KCUAでは、当ギャラリー学芸員の企画による特別展のほか、本学の研究成果発表展ならびに教員・在学生・卒業生による企画展など、年間約10本の展覧会を開催しています。

そのほか、国内外で活躍するアーティストを講師に迎えた若手アーティスト対象のワークショップや、大学移転整備プレ事業の実施など、展覧会だけにとどまらず、多岐にわたる活動を実施しています。



namoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」phase 1 展示風景／2022（撮影：来田猛）

@KCUA



<https://gallery.kcua.ac.jp>

ギャラリー・アクア 利用案内

開館時間 | 11:00-19:00

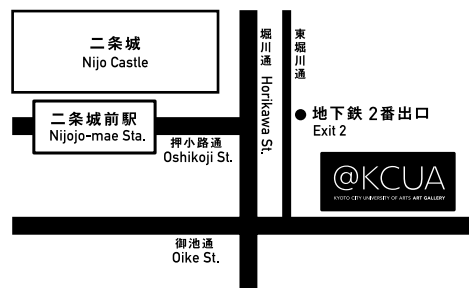
休館日 | 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）

問合せ | 075-253-1509



@KCUAの役割

- ① 芸術文化創出の人材交流の場とすること
- ② 芸術資源の連携活用のサテライト機能を果たすこと
- ③ 教育・研究成果を広く市民へ公開すること



キャンパスライフ

大学施設	76
クラブ活動・大学行事	78
学生生活サポート	79
キャリアデザインセンター	80
学外連携事業	82
国際交流	84
年間行事予定	86

学びの場・創造の現場である沓掛キャンパスの施設、充実したクラブ活動、国立の芸術系大学との交流など、伝統ある京都芸大ならではの施設や交流があります。学生生活や卒業後の進路についても積極的にサポートしています。

<https://www.kcua.ac.jp/student/>



11月の芸大祭では、毎年学生たちによって大きなモニュメントが設計・制作され、個性的なウェルカムゲートとして来校者を出迎えます。



オンライン芸大祭では、音楽学部生有志によるライブ配信が行われました。



5月の五芸祭では、部活動ごとのスポーツ交流のほか、合同コンサートも開催されています。

大学施設

University facilities



芸術資料館の収蔵品



村上華岳《二月の頃》1911年



稲垣仲静《豹》1917年



竹内栖鳳《鶏》1903年



《色絵七宝透文手焙》江戸時代中期

自然に囲まれた静かな環境で、各々の課題に取り組む

● 芸術資料館

Art Museum & Collection

芸術資料館は、1991年に設置された大学博物館（美術系博物館）で、博物館相当施設の指定を受けており、本学の博物館実習の受け入れ施設となっています。

収蔵品は、学生の卒業作品と旧教員の作品および美術工芸に関する参考資料で、1880年に開校した京都府画学校以来の140年におよぶ歴史を受け継ぎ、写生や粉本を含めた総数は約4,300件に上ります。学内での教育活動はもとより、陳列室やギャラリー・アクアでの一般公開、展覧会への貸出しなどによって、広く利用に供しています。京都と本学の歴史に根ざした調査研究活動を通じて、積極的に作品と関連資料の収集を行い、近世から現代に至る貴重な資料の保存機関として、活動成果の社会への還元を目指しています。



芸術資料館 利用案内

開館時間 | 9:00-17:00
休館日 | 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
入場料 | 無料
問合せ | 075-334-2232



● 附属図書館

University library

蔵書は、芸術に関する専門的図書、雑誌を中心に約14万冊に及んでおり、小合文庫、長崎文庫、高山文庫など特色のあるコレクションも揃っています。7,000点を超える視聴覚資料は、AVコーナーやグループで使用できる視聴覚室で利用することができるほか、所蔵の楽譜をピアノで演奏するための試奏室などの施設も備えています。閲覧室には、100席の閲覧席を設置。OPACや国立情報学研究所の総合目録データベース検索が可能です。自習室も備えています。



附属図書館 利用案内

開館時間 | 9:00-20:00（通常開館）
9:00-17:00（短縮開館）
休館日 | 土・日・祝・館内整理日等

※ 臨時休館や時間変更をすることがあります。
必ず事前にご確認のうえお越しください。

問合せ | 075-334-2233



● 新研究棟

Research centre

1～5階が大学院博士（後期）課程の研究室やアトリエ、6～8階は日本伝統音楽研究センターが設置されており、いずれも高度かつ特殊でありながらもユニークな研究機関が集合しています。（新研究棟のほかにも博士課程の附属棟として、立体工房、陶磁器研究棟、映像スタジオ棟が学内に設置されています）



● 講堂

Auditorium

入学式や卒業式などの式典のほか、音楽学部・音楽研究科の公開試験や試演会から、オーケストラや室内楽のコンサート、本格的なオペラまで、幅広い演奏会に使用され、学生たちに親しまれています。学生が使用するときは、専門のスタッフから照明や音響の指導を受けることもできます。



● 芸大ギャラリー

Gallery

芸大ギャラリーには「大ギャラリー」と「小ギャラリー」があります。大ギャラリーは中央棟1階にある本学のメインギャラリー、小ギャラリーは大学会館にあるガラス張りの壁が印象的なギャラリーです。どちらも各専攻ごとに展示を行うだけでなく、部活の仲間や友人など、複数の専攻の学生たちがグループ展を企画できる自由な制作発表の場となっています。学内のみならず、広く学外の方々へ向けて成果が発表できるオープンな空間です。



大ギャラリー

● 大学会館

University hall

大学会館の中には、「芸術資源研究センター」が研究スペースを構えるほか、演奏や上映、展示などにも使える円形の「ホール」をはじめ、講演会など多目的に利用できる「交流室」、作品の展示も可能な「ホワイエ」や「小ギャラリー」、コンピュータを使った美術や音楽の制作・実験ができる「情報スペース」があります。屋外には円形ステージがあり、イベント等で活用されています。



大学会館 外観



ホール



ホワイエ



交流室



情報演習室



小ギャラリー

クラブ活動

Club activities



40年の歴史を誇る「GMG」こと「芸大ミュージカルグループ」



大学のクラブ活動としては世界唯一の「常磐津部」



古典派音楽研究会（こてけん）



能楽部



バスケットボール部の試合（五芸祭）

本格的な体育系やミュージカル、常磐津節も

学部や専攻を越えた交流を築く 本学ならではの個性的なクラブも

京都芸大には現在、10の体育系クラブと9の文化系クラブがあります。長い歴史があるミュージカルグループや、常磐津節、古典派音楽に取り組むなど、趣味を同じくする学生同士が楽しく活動しているクラブや研究会がある一方で、練習試合や遠征活動を本格的に行うクラブもあるなど、活動内容はさまざまです。ほかにも多くの同好会があり、美術学部と音楽学部が共に活発に活動しています。京都芸大では、顧問教員が相談に乗ったり、大学が活動費を助成するなどして、学部や専攻を越えたつながりが生まれる学生のクラブ活動を支援しています。

体育系クラブ

ラグビー部／サッカー部／硬式テニス部
バレーボール部／バスケットボール部
バドミントン部／ママチャリ部／陸上部／ダンス部／野球部

文化系クラブ

GMG（芸大ミュージカルグループ）／軽音楽部
茶道部／漫芯創意（漫画研究部）／能楽部
映像研究部／常磐津部
古典派音楽研究会（こてけん）
現代音楽研究会 club MoCo

五芸祭（五芸術大学体育・文化交歓会）

「五芸」とは、日本にある国公立の芸術系大学（京都芸大、金沢美術工芸大学、東京藝術大学、愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学）のことで。京都芸大と金沢美術工芸大学との野球の交流戦から始まり、その後、東京藝術大学を加えて「三美祭」、愛知県立芸術大学が参加して「四芸祭」、そして沖縄県立芸術大学が参加して「五芸祭」となりました。毎年5月下旬

に、体育系クラブの試合を中心に、文化系クラブの催しも加わり、ブラスバンドやオーケストラの演奏会、展覧会や演劇などが開催される「五芸祭」は、各校を順に会場にすることもあって、他大学の様子を知ったり、全国に芸術の交友関係が広がる絶好のチャンスです。（2021年度は中止となりました。）



沖縄県立芸術大学による琉球芸能公演（五芸祭）



学生有志による交流展覧会（五芸祭）

学生生活サポート

Student life support



悩みを軽くして、制作や演奏活動、学業に専念

相談窓口

学生相談室

学生相談室では、専門のカウンセラーによるカウンセリングを毎週3日行っています。学業や将来への不安、友人や恋愛などの人間関係の悩み等、お気軽に御相談ください。プライバシーは厳守します。

保健室

保健室には、保健師が常駐し、学生の心身の健康や安心をサポートしています。ケガや病気の処置はもちろんのこと、健康上の不安や心の悩みなどの相談窓口にもなっています。また、毎年すべての学生に対して健康診断を実施しています。

キャンパス・ハラスメント相談窓口

セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント等、大学内でのあらゆるハラスメント（いじめ・嫌がらせ）の相談を受け付け、迅速に対応します。相談窓口は学内外にあり、学内はキャンパス・ハラスメント相談員、学外は専門のクリニックで対応しています。

オフィスアワー

教員が研究室などで、学生からの質問や相談に応じる“オフィスアワー”。美術学部・音楽学部のすべての専任教員が設けています。学部・専攻に関わりなく、どの教員にでも聞くことができるので、例えば、美術学部の学生が作品で使用する音楽について、音楽学部の教員に相談することもできます。

各種割引・機材の貸出し

在学生は下記の割引制度を受けられるほか、必要な機材を借りることができます。

割引制度

▶ 旅客運賃割引証

片道の区間が100kmを超える旅行を行う場合に使用できるJRの学割証を発行します。

▶ キャンパスメンバーズ

京都国立博物館、国立の各美術館で学生証を提示すると割引等を受けられます。

▶ 京都市キャンパス文化パートナーズ

入会手続（無料）を行うと、京都国際マンガミュージアム、二条城等の文化施設で割引等を受けられます。

食堂

食堂は、講義や制作・練習の合間に仲間としゃべりするスペースにもなっています。安くてボリュームがある日替り定食や、テイクアウトできる唐マヨ丼は大人気。（営業内容が変更となる可能性があります。）

購買

食堂と隣接する購買「リブレ」では、食品や菓子類はもちろん、画材や文房具、京都芸大オリジナルグッズのクロッキー帳や五線譜ノートなども揃えています。映像スタジオ棟の隣には画材専門の購買もあります。（営業内容が変更となる可能性があります。）



機材の貸出し

大学会館にて撮影・録音機器、プロジェクター等を貸し出しています。プロジェクターは学生・国際担当窓口でも貸し出しています。



*写真は2019年以前のもの

キャリアデザインセンター



Career Design Center
Kyoto City University of Arts

ウェブサイト・SNSでも発信中!



ウェブサイト



Facebook



Twitter



Instagram



さまざまな分野の卒業生を紹介する広報物「瓦版」

芸術大学を卒業したら、その先はどうなる?

アーティストとして芸術活動続けるための支援や、大学で学んだことを活かして就職したい人・起業したい人の支援を行っています。

キャリアデザインセンターでは、一人一人が「自分の生きかた」を考えるお手伝いをします。芸術活動の継続的かつ体系的な支援や、在学生や卒業生を対象とした講演会・セミナーなどを行うほか、専門のアドバイザー（芸術アドバイザー：美術1名、音楽2名）キャリアコンサルタント（国家資格）：1名）が相談に応じます。



「アーティストのための確定申告入門講座」
(2022年2月25日)



作品展示販売&コンサート「THE GIFT BOX 2021」
(2021年12月18日, 19日)



学内外からの演奏依頼に対するコーディネイト：京都市立芸術大学移転整備プレ事業「作品・新キャンパス模型展示」オープニングイベント (2021年10月2日)



「交換留学から辿るキャリアパス」
久門剛史氏（美術家/写真上）
山根明季子氏（作曲家/写真下）
（2021年10月7日）



卒業生による講演会「10年後の京芸生」
（2021年10月6日）



「ポートフォリオ講座」
（2021年6月18日）



「キュレーター招聘：プレゼンテーション&ポートフォリオレビュー」
（2022年2月12日、13日）



「就職ガイダンス」
（2021年4月20日）



「就活座談会」
（2021年10月5日）



「合同業界研究会」
（2022年2月16日、18日、22日）

芸術活動支援

〈美術・音楽共通〉

- ▶ インターナショナル・コーディネータとの連携企画講座「交換留学から辿るキャリアパス」の開催
- ▶ 卒業生による講演会「10年後の京芸生」の開催
- ▶ さまざまな分野の卒業生を紹介する広報物「瓦版」の発行
- ▶ アーティストのための確定申告入門講座の開催
- ▶ 作品展示販売&コンサート「THE GIFT BOX」の開催

〈美術〉

- ▶ アーティストのための「ポートフォリオ講座」の開催
- ▶ 制作活動・作家活動全般に関する各種相談・支援

〈音楽〉

- ▶ 学外からの演奏依頼に対するコーディネート
- ▶ 音楽活動全般に関する各種相談・支援

就職支援

- ▶ 就職活動に関する各種セミナーの開催
- ▶ 就職活動に関する各種相談・支援
- ▶ 就職ガイダンスや会社説明会、模擬面接などの開催
- ▶ 求人票の閲覧

過去3年間の就職先・進路の一覧はp.95-96

問合せ

キャリアデザインセンター

- ▶ TEL 075-334-2348
- ▶ MAIL career@kcu.ac.jp



学外連携事業

Off-campus
Collaboration



クロックタワーコンサート
京都大学との連携事業として毎年実施しています。

産業界、教育機関、地域とのつながりを深める

本学では、教育研究成果と、140年を超える歴史を重ね蓄積してきた芸術的資産を社会に還元するとともに、歴史都市・京都の文化芸術の裾野を広げ、また、個性と魅力を一層高めることを目的として、産業界、小・中・高等学校や大学等の教育機関、様々な地域団体との学外連携事業に取り組んでいます。



教育機関との連携

小・中・高等学校や大学等の教育機関との連携を行うことで、芸術に携わる次世代の育成に貢献することを目指しています。



カザラッカコンサート
小学生にクラシック音楽を身近に感じてもらうため、大学近隣の桂坂小学校において、「カザラッカコンサート」と題し、音楽学部の学生有志が、演奏会を開催しています。



小学校におけるレジデンスの取組
西京区と下京区の小学校において、本学卒業生・修学生がレジデンス作家として活動しています。小学校の空き教室等を制作スペースとして利用させていただき、児童たちとも交流しながら、日々の制作活動に励んでいます。レジデンス作家たちは小学校の作品展にも参加しています。



小学校・中学校でのワークショップ
西京区や下京区をはじめ、京都市内の小学校で、美術学部の学生や卒業生が講師として、アート作品を通じた体験活動の指導を行っています。学生たちが授業の中で制作したものを、教材やテキストとして使用することもあります。



企業・団体との連携

教育研究成果の社会への発信や、産業発展に貢献することを目的に、企業・団体との連携に取り組んでいます。



京都駅ビル開発株式会社との連携

京都駅ビル東広場で、「京都駅ビル芸術祭」と題して、美術学部の学生が作品展示やワークショップを開催しています。また、音楽学部の学生や卒業生が、京都駅ビルで様々なコンサートを開催しています。



京都物産出品協会、セブン-イレブンとの連携

美術学部の学生を対象に、敬老の日のギフトアイデアの募集を行い、優秀賞に選ばれた作品について、学生と協会会員各社で商品化に取り組み、セブン-イレブンで販売されました。



ホテルグランヴィア京都との連携

美術学部の学生を対象に、ホテルグランヴィア京都内カフェレストランで開催されるスイーツバイキングの店内オブジェデザインアイデアを募集し、最優秀賞に選ばれた作品のオブジェが制作されました。



地域との連携

地域の各種団体等との連携を推進し、大学の資源や教育研究の成果を発信することにより、芸術文化によるまちづくりに貢献しています。



地下鉄北山駅構内での作品展示

地下鉄北山駅からコンサートホールへ続く地下通路に、美術学部の学生が音楽をテーマに制作した作品を毎年展示しています。



地域イベントへの協力

下京区や西京区で行われる地域のイベントなどで、音楽学部の学生によるステージ演奏や、美術学部の学生による似顔絵制作ブースの出展等の協力を行っております。



祇園祭関連での取組

2022年に山鉾巡行への復帰を予定している鷹山の衣装等のデザインについて、美術学部の学生が取り組んでいます。また、祇園祭宵山で観光客等に配布されるうちわの表面のデザインを、デザイン専攻の学生が制作し、最優秀に選ばれたデザインのうちわが翌年の祇園祭で配布されます。



下京まちなかアートギャラリーへの出展

下京区で開催される「下京まちなかアートギャラリー」に、美術学部の学生や卒業生・修生が多数参加し、京都駅ビル駅前広場をはじめとして、区内各所で作品を展示しました。

国際交流

International Programs

国際交流の始まり

1900(明治33)年、竹内栖鳳教諭がパリ万博を視察。翌1901(明治34)年7月、ベルリン皇立美術学校へ学生作品を贈りました。12月にはベルリンの同校より同じく学生作品の寄贈を受けるといった作品交換による国際交流を行っています。



ウィーン国立音楽大学との交流公演にて

交換留学制度等、積極的に交流を展開

本学では、海外の大学との交換留学や教員交流、海外の著名な美術家・音楽家を招く事業等の国際交流を行っています。

交換留学制度では、海外のトップレベルの協定校と学生の相互派遣を行っているほか、一般の学生、本科留学生、研究留学生として海外からの学生を受け入れており、学内の国際化に力を注いでいます。そして、日本語講座を開講するなど、海外出身の学生がより学びやすい環境づくりにも取り組んでいます。

また、海外で活躍する美術家・音楽家・研究者等を招き、学生・教員共に国際的な視点を持ち、共同研究や公演を実施するなど、積極的な国際交流を展開しています。

美術学部／美術研究科の協定校

研 は研究科のみの協定

UK | イギリス

研 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)

Italy | イタリア

ミラノ工科大学(ミラノ)

France | フランス

国立高等美術学校(パリ)

国立高等装飾美術学校(パリ)

Norway | ノルウェー

ベルゲン大学 美術・音楽・デザイン学部

(ベルゲン)

Finland | フィンランド

研 アールト大学 芸術・デザイン・建築学校
(ヘルシンキ)

Poland | ポーランド

研 ポズナニ芸術大学(ポズナニ)

Canada | カナダ

ナスカド大学(ハリファックス)

Republic of Korea | 韓国

韓国芸術総合学校(ソウル)

China | 中国

研 中央美術学院(北京)

Australia | オーストラリア

研 シドニー大学 美術学部(シドニー)

交換留学制度

本学では、海外各地の美術・音楽関連大学と交換留学協定を結び、学生の相互派遣を行っています。

交換留学生として、美術学部・美術研究科の学生は1セメスター(1学期)、音楽学部・音楽研究科の学生は1~2セメスターの期間、協定校に留学することができます。交換留学は、豊かで幅広い芸術体験を積むとともに、現地生活の中で国際的な感覚を身につけることができる貴重な機会です。また、協定校からさまざまな地域出身の学生を本学に受け入れることで、国際交流の推進力となっています。2020年度からは美術学部・美術研究科がノルウェーのベルゲン大学美術・音楽・デザイン学部と、音楽学部・音楽研究科がイタリアのレッチェ音楽院、スイスのジュネーブ高等音楽院とそれぞれ協定を結ぶなど、着実に国際交流の輪を広げています。



韓国芸術総合学校の学生による大学紹介



国立高等美術学校(フランス)



ポズナニ芸術大学(ポーランド)



ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(イギリス)での留学生展示の様子



ベルゲン大学美術・音楽・デザイン学部(ノルウェー)



韓国芸術総合学校(韓国)

音楽学部／音楽研究科の協定校

研 は研究科のみの協定

UK | イギリス

英国王立音楽大学 (ロンドン)

Austria | オーストリア

ウィーン国立音楽大学 (ウィーン)

Czech Republic | チェコ

プラハ芸術アカデミー (プラハ)

Germany | ドイツ

フライブルク音楽大学 (フライブルク)

研 プレメン芸術大学 (プレメン)

Norway | ノルウェー

ベルゲン大学グリーグ・アカデミー音楽学部 (ベルゲン)

Republic of Korea | 韓国

檀国大学校 音楽大学 (龍仁市)

Taiwan | 台湾

国立台北芸術大学音楽学院 (台北市)

Italy | イタリア

レッツェ音楽院 (レッツェ)

Switzerland | スイス

ジュネーブ高等音楽院 (ジュネーブ)



英国王立音楽大学 (イギリス)



フライブルク音楽大学 (ドイツ)



ベルゲン大学 (ノルウェー) 学生寮の様子



帰国報告会 (美術)

帰国報告会 (音楽)

留学全般の相談

インターナショナル・コーディネータは、学生の交換留学に関するコーディネート業務や、留学全般の相談を受け付けています。また、留学や語学に関する資料を備えた**国際交流室***では、海外の大学情報のほか、過去の派遣留学生によるレポートを閲覧することができます。

*資料閲覧・相談には事前予約が必要です。ただし、定期的に開室しており、開室時間中は予約なしでの留学相談も行っています。

インターナショナル・コーディネータ

(教務学生課学生・国際担当)

TEL | 075-334-2721 (月-金曜日・9時-17時)

FAX | 075-334-2345

Email | intl-r@kcua.ac.jp



国際交流ウェブサイト
<https://intl.kcua.ac.jp>

国際交流事業

2019-2021年度の事業

交換留学生の派遣・受け入れに留まらず、本学では国際的に活躍する芸術家、研究者等を招き、さまざまな交流事業を実施しています。

【美術学部・美術研究科】

2021年度には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により国際間の移動が制限されたため、多くのイベントが中止を余儀なくされましたが、留学生や海外出身教員に各自の故郷を紹介してもらった国際交流イベント「KOKO-DOKO」を行うなど、新たな試みにも挑戦しました。

12月には、本学で学ぶ留学生（修士課程の留学生・研究留学生）による展覧会を開催しました。台湾、中国、フランス、ポーランドからの留学生20名の成果が一堂に会し、彫刻・絵画・デザイン・工芸などの国際色豊かな力作が並びました。

32回目の開催となった本展は、2020年度以降ギャラリー@KCUAから大学内のギャラリーに開催場所を移し、学内の活発な国際交流の場として、発展的に成長を遂げています。



留学生展の様子 (撮影：清水花菜)



国際交流イベント「KOKO-DOKO」の様子 (撮影：清水花菜)

【音楽学部・音楽研究科】

2019年度からの2年間で、イタリアのレッツェ音楽院、スイスのジュネーブ高等音楽院と交換留学協定を、チェコのプラハ芸術アカデミーと交流協定の覚書を結ぶなど、国際交流の輪を広げています。2019年度には、提携校であるウィーン国立音楽大学と共同で、両大学の学生・教員を相互に派遣し、各地で公演するオペラ・プロジェクトを実施しましたが、本学からウィーンへの派遣は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。2021年度の困難な状況下でも、イタリア、オーストリア、ドイツに交換留学生を派遣するなど、継続した国際交流を行っています。



ウィーン国立音楽大学との交流公演



日台青少年交流音楽会の様子

【日本伝統音楽研究センター】

2019年度には、山東音楽学院と新たな交流協定を締結し、2020年春に、スタンフォード大学との能の共同研究として、ウェブサイト「インターメディアとしての能」を完成し発表するなど、さまざまな地域との研究連携を行っています。



山東音楽学院との交流協定の締結



ウェブサイト「インターメディアとしての能」

年間行事予定

Annual calendar and events



(上) GMGの芸大祭公演は毎年満席となるほどの人気。衣装や舞台美術も学生が手がける。
(下) 学生による模擬店では飲食物のほかオリジナルの器やアクセサリーなどの販売も人気。

京都芸大のおもな年間行事

4月	入学式 オリエンテーション 前期授業開始
5月	五芸祭
6月	
7月	創立記念日(7/1) 定期演奏会 合評・前期展 前期学科試験 前期実技試験
8月	夏期休業 集中講義 オープンキャンパス(美術)
9月	夏期休業 演奏旅行
10月	後期授業開始 オープンキャンパス(音楽)
11月	芸大祭
12月	留学生展 定期演奏会 冬期休業
1月	合評・後期展 後期学科試験 後期実技試験
2月	作品展 定期演奏会(大学院オペラ)
3月	春期休業 卒業演奏会 卒業式/学位記授与式

美術 合評/前期展・後期展

前期および後期の期末には、課題制作などの合評が行われますが、専攻によっては芸大ギャラリーを使った展示をすることもあります。

美術 作品展 (P.48 参照)

毎年2月に開催している美術学部・修士課程最大のイベントです。

音楽 定期演奏会 (P.67 参照)

年に3回開催される定期演奏会では、さまざまな編成のオーケストラ作品やオペラ作品を取り上げ、日頃の成果を発表します。

音楽 実技試験

実技試験の一部は公開で行われ、教員に加え一般の方にも入場いただき、演奏会さながらの雰囲気の中で行います。

芸大祭

京都芸大最大のイベントである「芸大祭」は、毎年11月上旬に開催。美術・音楽両学部の学生が、仮装行列、展覧会、演奏会、ミュージカル、講演会、模擬店などの企画を練りに練って、学内はもちろんのこと、京都市内でもエネルギーギッシュに披露しています。

芸大祭には、学生、教員、受験生や卒業生などのほか、多くの市民の方々にもお越しただいており、学外の方にも京都芸大の面白さを存分に味わっていただく3日間です。(2021年度は中止となり、学生有志のオンライン企画を行いました。)

五芸祭 (P.78 参照)

日本にある国公立の芸術系大学(京都芸大、金沢美術工芸大学、東京藝術大学、愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学)による交歓会です。

2022年8月7日開催

美術学部オープンキャンパス

専攻ごとの見学会や学生作品の展示、ワークショップや有志によるライブペインティングなどを開催。個性あふれる教員と在学生在が、京都芸大の魅力や存分に体感できる企画を用意してお待ちしています。



2019年の様子

2022年10月1日・2日開催

音楽学部オープンキャンパス

各専攻のレッスンの見学や授業の参加など、京都芸大の日常をありのままに公開。京都芸大をとことん体験できるプログラムを用意して受験生をお待ちしています。



2021年の様子

WEB オープンキャンパス

2020年、2021年はウェブ上でオープンキャンパスを開催し、ワークショップや個別相談会、動画配信などさまざまなオンラインイベントを行いました。

WEB オープンキャンパス
Youtube チャンネル



2021年の特設サイト

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント内容が変更または中止となる場合があります。

大学情報

歴史・沿革	88
教育・研究理念	89
教育方針(ポリシー)	90
入試情報	92
学費・奨学金	94
進路	95
教員一覧	97
オープンキャンパス/進学説明会/アクセス	98

京都芸大140年を超える伝統をふまえた「創造の現場」という校風、少数精鋭の高度な教育体制、そして地域と連携し文化都市・京都の特質を生かした交流・研究の拠点。この教育・研究理念の三本柱のもと、美術学部、音楽学部はそれぞれのポリシーでカリキュラムを構成。学生を育成しています。

<https://www.kcua.ac.jp/profile/>



歴史・沿革

History and Development



初代摂理
田能村直入



教員
幸野操嶺

幕末から明治。斜陽化した京都を復興するため、1878(明治11)年、南画家・田能村直入は、時の京都府知事・横村正直に画学校設立の陳上書を呈上。続いて四条派・幸野操嶺と望月派・望月玉泉が、円山派・久保田米庵、岸派・巨勢小石との連署で、画学校創設の建議書を同知事に提出。かくして1880(明治13)年「京都府画学校」が開校した。

創立140年を超える 長い歴史が育む人と文化

京都市立芸術大学(略称:京芸大)は、1880(明治13)年に日本初の公立の絵画専門学校として開設された「京都府画学校」を母体とする芸術大学です。美術と音楽を両軸とする本学は、文化首都・京都に蓄積された豊かな美の伝統を背景に、建学以来、国内外の芸術界・産業界で活躍する優れた人材を輩出し、国内のみならず世界の芸術文化に貢献してきました。

1883(明治16)年の京都府画学校規則第一条には「本校は美術を拡張し工芸製作の基礎を訂正するために設くるものにして粗を戒め精を窮め浮を去り実^ニに就き公益を謀り文化を補うを本旨とす」とあります。創造的な精神と技術によって広く社会や文化に貢献することが、今日まで続く本学の基本理念です。

1889(明治22)年、市制施行による京都市誕生とともに市に移管、京都市画学校に。その後、市立絵画専門学校、市立美術専門学校と変遷を経て、1950(昭和25)年、京都市立美術大学に。一方、1952(昭和27)年に日本初

の公立音楽大学として京都市立音楽短期大学が設置されます。開学の趣旨に「京都市が市民の音楽熱の熾烈なる実状に鑑み、名実ともに国際文化観光都市にふさわしい教養ある社会人としての音楽芸術家を育成せんがため」とうたわれました。この二つの大学が1969(昭和44)年に統合されて「京都市立芸術大学」となりました。以後50年以上、「京芸大」「京芸」として市内外の皆さまから親しまれてきました。

本学にゆかりのある文化勲章受章者として、竹内栖鳳、堂本印象、富本憲吉、小野竹喬、山口華楊、上村松篁、池田遙邨、加山又造、草間彌生など、音楽学部・研究科出身者からは、指揮者の佐渡裕、阪哲朗、チェリスト上村昇、河野文昭、プリマ管英三子、ピアニスト三木香代、ファゴット奏者の水谷上総、ヴィオラ奏者の小倉幸子など、いずれも著名な芸術家を輩出。これら先輩諸氏に続き、アーティストとして認められた数多くの卒業生が国内外で活躍しています。

(以上、敬称略)

沿革

- 1880(明治13)年 京都府画学校 創立
- 1889(明治22)年 京都市画学校 改称 *京都府から京都市へ移行
- 1891(明治24)年 京都市美術学校 改称
- 1894(明治27)年 京都市美術工芸学校 改称
- 1901(明治34)年 京都市立美術工芸学校 改称
- 1909(明治42)年 京都市立絵画専門学校 創立
- 1945(昭和20)年 京都市立美術専門学校 改称
- 1950(昭和25)年 京都市立美術大学 *大学制度へ移行
- 1952(昭和27)年 京都市立音楽短期大学 創立
- 1969(昭和44)年 京都市立芸術大学 *美術大学と音楽短期大学の統合
- 1980(昭和55)年 大学院美術研究科修士課程 設置 *西京区大枝沓掛へ移転
- 1986(昭和61)年 大学院音楽研究科修士課程 設置
- 2000(平成12)年 大学院美術研究科博士(後期)課程・修士課程保存修復専攻 設置
日本伝統音楽研究センター 開設
- 2003(平成15)年 大学院音楽研究科博士(後期)課程 設置
- 2010(平成22)年 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA^{アクトア} 設置
- 2012(平成24)年 *公立大学法人へ移行
- 2014(平成26)年 芸術資源研究センター 開設

教育・研究理念

芸術の意義を担う人材を育てる京都芸大が 守り続ける三つの柱とは

あらゆる人間と自然が多様性をもって地球の上に共存しうる新たな文明社会を構築することが求められる現代、芸術が果たす役割はますます大きなものになっています。なぜなら芸術は、太古以来、そこに培われた多様な技術と知恵をもって、人間と人間、人間と自然を創造的に結びつけてきたからです。京都芸大は、こうした芸術の普遍的意義を担う人材を育成するため、教育・研究理念に以下の三つの柱を建てています。

Philosophy of Education and Research



画学校開学建議書(1878)

1

本学独自の伝統をふまえ、 芸術の教育研究を「創造活動」 として推進すること

芸術の教育研究はそれ自体がひとつの「創造活動」でなければなりません。建学以来、本学はたえず人間の創造性という原点にたち、社会や文化全体に貢献しうる芸術の研究教育の理想を追及してきました。自由で豊かな発想とたしかな基礎力の育成を重視し、専門性の深化と同時に分野を横断する交流を促進する本学の理念は、日本の高等芸術教育に新しい展望を切り開くものでもありました。それはまた、実技と理論を有機的に結びつけ、教育・研究の場をたえず柔軟で開かれた「創造の現場」として展開していく本学独自の校風を支えています。

2

少数精鋭の 高度な教育体制を 維持・展開させること

芸術創造の技術と精神は、適切な規模と設備をそなえた創造的環境のなかでこそ養われます。本学の特色は、美術と音楽の各専門分野で活躍する芸術家・研究者・教育者による少数精鋭の高度な研究教育環境にあります。それは、教員と学生相互の親密で豊かなコミュニケーションを支え、学生自身の自己発見・自己啓発の機会を最大限に保証するとともに、分野を横断する活発な交流を促しています。

3

地域社会と連携しつつ、 文化首都・京都の特質を活かした 国際的な芸術文化の交流拠点となること

日本の芸術文化を育んだ文化首都・京都は、豊かな伝統文化・伝統産業が存在するとともに、先進的な学術研究や産業が活発に展開する国際的な文化交流の中心地でもあります。本学は、この京都の文化的土壌に根ざしながら、芸術を広く地域社会に発信し、学術・産業・生活文化の諸分野に創造的な視点と活力をもたらすこと、そして世界の多様な芸術文化が交流しあう国際的な芸術創造と研究の拠点となることをめざします。

教育・研究目的

美術学部

美術学部は、国際的な芸術文化の都である京都の文化的・人的資源を生かし、独創的で多様な研究を背景に、専門的かつ横断的な教育を通して、優れた芸術家をはじめ独創的な人材を生み出し、もって社会に貢献することを目的とします。

音楽学部

音楽学部は、個性を尊重し創造性を育む専門的な音楽芸術の教育研究により、幅広い教養を併せ持つ優れた音楽家や研究者となりうる人材を育成し、もって社会に貢献することを目的とします。

美術学部の教育方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

美術学部は、次のような学生を求めています。

- 芸術文化に対して幅広い興味、強い好奇心を持っている学生
- 表現に対する強い意欲を持っている学生
- 自ら課題を見出し、解決しようとする意欲を持っている学生
- 基礎的な学力や造形力、柔軟な思考力を持っている学生

入学試験の基本的な考え方・方針

美術学部は、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に適した学生を受け入れるため、以下の試験を課しています。

- 基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テストを課します。
- 基礎的な造形力や柔軟な思考力などを評価するため、個別試験（描写・色彩・立体・小論文）を課します。

【個別試験の評価の観点】

- 描写：与えられた対象物を条件に従って構成し、的確に観察・把握し、描写表現する能力（鉛筆描写力）
- 色彩：与えられたテーマを条件に従って発想・構想し、的確に色彩表現する能力
- 立体：与えられたテーマを条件に従って発想・構想し、的確に立体表現する能力
- 小論文：与えられた文書等を的確に理解し、それをもとに思考したことを論述する能力
- 多様な能力を評価するため、本学の個別試験と大学入学共通テストの成績を総合して選抜を行います。

入学前に身につけてほしい力

美術学部は、以下のような能力を入学までに身につけることを期待します。

- 自分を取り巻く世界に対する想像力と観察力
- 高等学校卒業までに学習する基礎的な知識・技能
- 基礎的な論述能力（総合芸術学科）
- 以上をもとに答えが一つに定まらない問題に、自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美術学部は、以下の考え方に基づき、カリキュラムを編成し、実施します。

- 専門性の深化と専攻を横断する教育課程による本学独自の開かれた「創造の現場」を通して、幅広い視野と専門的な知識を習得すること
- 実技教育とともに学科教育も重視することで、表現力に加え、新たな芸術を生み出す自由で豊かな発想力、思考力を身につけること
- 少人数による密度の高い教育課程の中で、個々のテーマに合わせて課題を設定し、自ら学ぶ能力を養うこと

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

美術学部は、卒業時までに達成すべき目標を以下のとおりとします。

- 芸術に関わる幅広い視野と、専門的な知識の修得
- 柔軟な思考力と独自の発想力の修得
- 自己の主題を実現する表現手法の修得

音楽学部の教育方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

音楽学部は、次のような学生を求めています。

- 音楽芸術の専門教育を受けるに足る基礎的技術と知識、強い学習意欲を持つ学生
- 個性と芸術的創造力にあふれる学生

入学試験の基本的な考え方・方針

音楽学部は、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に適した学生を受け入れるため、以下の試験を課しています。

【作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽専攻】

- 本学での専門教育を受けるに足る基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テスト（国語、外国語等）を課します。

- 本学での専門教育を受けるに足る専攻ごとの技術や知識を評価するため、第一次試験において各専攻別に課題を課します。
- 本学での専門教育を受けるに足る幅広い音楽的素養を評価するため、第二次試験(音楽通論、聴音書取、新曲視唱、副科ピアノ演奏等)を課します。
- 以上の試験の成績を総合的に判断し、最終可否判定を行います。

【音楽学専攻】

- 本学での音楽学の専門教育を受けるに足る基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テスト(国語、外国語等)を課します(社会人特別選抜を除く)。
- 第一次試験では、本学での音楽学の専門教育を受けるに足る語学力を評価するとともに、学術的研究に必要な着眼力、問題提起能力、課題解決に向けた発想力、論理的思考力及び文章構成力を、学生募集要項の発表と同時に公開する課題に対する事前提出物によって測ります。
- 第二次試験では、音楽に対する学術的研究を実践する上で必要となる着眼力、問題提起能力、課題解決に向けた発想力、論理的思考力、プレゼンテーションや討論などのコミュニケーション能力を測るために、主に事前提出物で論じた内容に関する口頭試問を実施します。
- 以上の試験の成績を総合的に判断し、最終可否判定を行います。

入学前に身につけてほしい力

音楽学部各専攻では、以下のような能力を入学までに身につけることを期待します。

【作曲専攻】

- 和声法及び対位法の基礎能力
- それらを使って、音楽を構成できる能力
- 高度の作曲法へ進むための、読譜力、理解力、知的好奇心

【指揮専攻】

- 指揮法、いわゆるバトンテクニックの習熟度よりも、音楽家としての基礎力の習熟度を重視します。
- 具体的には、
 - ◇ 聴音、視唱等のソルフェージュの基礎能力の向上
 - ◇ 和声法の基礎能力
 の2点を重視します。
- 加えて、ピアノまたは他の楽器、声楽での演奏を通して音楽的な表現が出来るように、演奏面での習熟も期待します。

【ピアノ専攻】

- 基礎的な読譜・初見能力の習得
- 音楽の語法、形式、様式(スタイル)に対する理解と実践
- 基礎的な練習曲、演奏技術(メカニズム)の理解と習得
- バロック・古典・ロマン・近現代作品などは多様なレパートリー構築への準備

【弦楽専攻】

- 基礎的な読譜能力および演奏技術の習得
- 音階、練習曲、協奏曲の学習と実践
- バロック・古典・ロマン・近現代の多様な作品の演奏への準備

【管・打楽専攻】

- 基礎的な楽器演奏技術
- 基礎的な読譜能力及び、様々な時代様式の楽曲に対する基礎的理解とその表現技術

【声楽専攻】

- 基礎的な歌唱技術
- 聴音、視唱等のソルフェージュの基礎能力(特にコールユーブンゲンは重要な課題の一つなので、習得しておくこと)

【音楽学専攻】

- 音楽に対する関心に加えて総合的な俯瞰能力を有する者を求めます。それに当たって以下に掲げる基礎的な学力が受入の際の評価の対象となります。
- 高等学校の教育課程の教科・科目の履修により培われる論理的思考能力
 - 高等学校の教育課程の教科・科目で習得した内容を活用する能力
 - 国語・外国語を用いたコミュニケーションならびに自己表現の能力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

音楽学部は、少人数教育の利点を活かした密度の高い指導を通して、学生が専門分野における技術と知識を学び、感性を養うとともに、あらゆる芸術の土台となる幅広い教養と、次の力を身につけることを目指し、カリキュラムを編成し、実施します。

- 実演分野においては、楽器、声を操る上での基礎的な身体技法及びそれらを自由に操る知的応用力
- 創作分野においては、作曲上必要となる基礎的な楽音の取扱い方と知的応用力、またその記譜力
- 学術分野においては、教養教育にも重点を置いた教育課程によって培われる、問題を把握する基礎的な思考力、情報リテラシー能力及び情報発信能力

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

音楽学部は、卒業時まで達成すべき目標を以下のとおりとします。

- 実演、創作、学術の各分野における、音楽人として相応しい音楽的もしくは学術的基礎力、応用力の獲得
- 幅広い教養を有し、それらを社会に対して創造的に発信し、芸術文化に寄与できる能力の修得

入試情報

Admission Information

募集人員，試験日

学部	学科	専攻	募集人員		令和5年度 入試日程	参考（令和4年度入試日程）		
			一般入試			出願期間	個別試験	合格発表
			前期	後期				
美術学部 135名	美術科	日本画 油画 彫刻 版画 構想設計	70	-	令和4年 6月下旬に 発表します	令和4年 1月24日（月） ～2月4日（金）	令和4年 2月25日（金）～26日（土）	令和4年 3月8日（火）
	デザイン科	総合デザイン デザインB	30	-				
	工芸科	陶磁器 漆工 染織	30	-				
	総合芸術学科	総合芸術学	5	-				
音楽学部 65名	音楽学科	作曲・指揮	-	4	令和4年 6月下旬に 発表します	令和4年 1月24日（月） ～2月4日（金）	【第一次試験】 令和4年 3月12日（土） ～3月15日（火）	【第二次試験】 ※第一次試験 合格者のみ 令和4年 3月17日（木）
		ピアノ	-	14				
		弦楽	-	14				
		管・打楽	-	16				
		声楽	-	14				
		音楽学	-	3				

試験教科・科目

学部	学科	専攻	令和5年度 試験教科・科目	参考（令和4年度試験教科・科目）		
				大学入学共通テスト	個別試験	
美術学部	美術科	日本画 油画 彫刻 版画 構想設計	令和4年 6月下旬に 発表します	4教科 （国語，外国語，数学・理科，地歴・公民）	描写（鉛筆描写） 色彩（色彩表現） 立体（立体表現）	
	デザイン科	総合デザイン デザインB		5教科 （国語，外国語，数学，理科，地歴・公民）		
	工芸科	陶磁器 漆工 染織		4教科 （国語，外国語，数学・理科，地歴・公民）		
	総合芸術学科	総合芸術学		4教科 （国語，外国語，数学，理科・地歴・公民）		
音楽学部	音楽学科	作曲・指揮	令和4年 6月下旬に 発表します	3教科（国語，外国語，数学・地歴・公民）	【第二次試験】 音楽通論，聴音書取，新曲視唱， 副科ピアノ演奏	
		弦楽				
		管・打楽		2教科（国語，外国語）	【第一次試験】 実技試験	
		ピアノ				【第二次試験】 音楽通論，聴音書取，新曲視唱， ピアノ新曲視奏
		声楽				
音楽学	3教科（国語，外国語，数学・地歴・公民）	【第一次試験】 英語 事前提出物（音楽 に関する課題作文）	【第二次試験】 口頭試問			

入試の実施状況(過去3年)

学部	学科	専攻	令和2年度				令和3年度				令和4年度			
			募集人員	志願者数	入学者数	志願倍率	募集人員	志願者数	入学者数	志願倍率	募集人員	志願者数	入学者数	志願倍率
美術学部	美術科	日本画 油画 彫刻 版画 構想設計	70	227	70	3.2	70	264	70	3.8	70	256	70	3.7
		デザイン科	30	112	30	3.7	30	98	30	3.3	30	98	30	3.3
		工芸科	30	84	30	2.8	30	65	30	2.2	30	86	30	2.9
		総合芸術学科	5	16	5	3.2	5	7	5	1.4	5	13	5	2.6
	合計	135	439	135	3.3	135	434	135	3.2	135	453	135	3.4	
音楽学部	音楽学科	作曲・指揮	4	10	4	2.5	4	7	4	1.8	4	11	3	2.8
		ピアノ	14	55	14	3.9	14	44	14	3.1	14	44	14	3.1
		弦楽	14	26	14	1.9	14	29	14	2.1	14	24	14	1.7
		管・打楽	16	75	16	4.7	16	71	16	4.4	16	51	16	3.2
		声楽	14	33	14	2.4	14	40	14	2.9	14	31	14	2.2
		音楽学	3	8	3	2.7	3	15	3	5.0	3	22	4	7.3
	合計	65	207	65	3.2	65	206	65	3.2	65	183	65	2.8	

令和5年度入学者選抜要項等の請求について

「テレメール」または「モバっちょ」を利用して請求してください。

また京都芸大でも配布しています。詳細は京都芸大ウェブサイト「資料請求」をご覧ください。

- ▶ 入学者選抜要項は、令和4年6月下旬に発表する予定です。
 - ・大学入学共通テストで受験を要する教科、個別試験日程などを発表します。
 - ・音楽学部は、「副科ピアノ課題曲」も発表します。
- ▶ 学生募集要項は、令和4年11月に発表する予定です。
 - ・出願手続などを発表します。
 - ・音楽学部は、「各専攻実技課題」も発表します。

※インターネット出願を行うため、学部学生募集要項の印刷版冊子は作成しません。

【大学院 修士課程】学生募集要項は、令和4年7月上旬に発表する予定です。

【大学院 博士（後期）課程】学生募集要項は、令和4年11月上旬に発表する予定です。

（学生募集要項等は、いずれも京都芸大ウェブサイトに掲載します。）

※令和5年度入試から、インターネット出願の導入を予定しており、大学院募集要項の印刷版冊子は作成しません。

申込先・入試に関する問合せ先

京都市立芸術大学 事務局 連携推進課 入試担当
 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
 Tel 075-334-2238 Fax 075-334-2281
 メールアドレス nyushi@kcua.ac.jp

学費・奨学金

Tuition and Scholarships

学費

区分	授業料(年額)	入学考査料	入学料	
			市内出身者	市外出身者
学部生	535,800円	17,000円	282,000円	482,000円
大学院生	535,800円	17,000円	282,000円	482,000円
研究留学生	535,800円	—	84,600円	
科目等履修生 及び聴講生	1単位につき 14,400円	—	28,200円	

美術学部

- ・美術教育後援会費 80,000円(学部4年間)
- ・象の会(同窓会)入会費 15,000円

音楽学部

- ・音楽教育後援会会費 100,000円(学部4年間)
- ・真声会(同窓会)入会金 15,000円

共通(学部4年間)

- ・学生教育研究災害傷害保険料 3,300円
- ・学研災付帯賠償責任保険料 1,360円

その他の費用

- ・実習経費…実技実習に必要な器具・材料費等(専攻によって異なります。)
- ・研修旅行費…そのつど実費徴収

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の給付奨学金は、国の高等教育における修学支援新制度の一つとして、意欲と能力のある若者が経済的理由により進学及び修学の継続を断念することのないよう、原則として返還義務のない奨学金を支給するものです。申込みは大学又は在学する高等学校等を通じて行います。支援対象者の要件は、原則として日本学生支援機構の定める学業等に係る基準や家計に係る基準等に該当する学部生のみが対象となります。

日本学生支援機構の貸与奨学金は、国の実施する制度の一つとして、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が経済的理由により修学をあきらめることのないよう支援することを目的として、国が奨学金を貸与するものです。申込みは大学又は在学する高等学校等を通じて行います。貸与奨学金には第一種(無利子)と第二種(有利子)の2種類があり、それぞれについて選考基準があります。

給付奨学金

学部生	通学区分	基本の月額(円)
	自宅通学	第I区分(29,200)/第II区分(19,500)/第III区分(9,800)
	自宅外通学	第I区分(66,700)/第II区分(44,500)/第III区分(22,300)

貸与奨学金

学部生	種別	月額(円)
第一種(無利子)	自宅通学	20,000/30,000/45,000
	自宅外通学	20,000/30,000/40,000/51,000
第二種(有利子)		20,000 ~ 120,000(1万円単位)

大学院生	種別	月額(円)
第一種(無利子)	修士課程	50,000/88,000
	博士(後期)課程	80,000/122,000
第二種(有利子)		50,000/80,000/100,000/130,000/150,000

その他の奨学金

財団法人などの奨学金を随時情報提供しています。大学を通じて推薦する奨学金制度のうち、主なものは、右記のとおりです。

私費留学生のみを対象とした奨学金

文部科学省外国人留学生学習奨励費
 (公財)加藤朝雄国際奨学金財団奨学金
 (一財)橋本循記念奨学金
 (公財)朝鮮奨学会奨学金
 (公財)平和中島財団奨学金
 (公財)ロータリー米山記念奨学会奨学金
 (公財)京都市国際交流協会張鳳俊奨学金基金
 (公財)佐藤陽国際奨学金財団奨学金
 清水寺奨学金

私費留学生以外を対象とした奨学金

(公財)青山音楽財団奨学金
 (公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学金
 (一財)京信榊田喜三記念育英会奨学金
 (公財)香雪美術館奨学金
 (公財)中信育英会奨学金
 (公財)日本文化藝術財団加藤定奨学金
 (公財)佐藤国際文化育英財団奨学金
 (一財)法華倶楽部四恩育英会奨学金
 清水寺奨学金

授業料減免制度

国による授業料の減免

国による授業料減免は、国の高等教育における修学支援新制度の一つとして、意欲と能力のある若者が経済的理由により進学及び修学の継続を断念することのないよう、対象者の経済的状況に応じて授業料を減免するものです。対象者は、原則として国の定める学業等に係る基準や家計に係る基準等に該当する学部生です。

本学独自の授業料減免

本学独自の授業料減免は、入学後、日本学生支援機構の奨学金等を受給する等、学資調達を努力をしてもなお経済的理由により授業料の納付が困難と認める者に対し、審査のうえ基準に適合した場合は、授業料を減免します。減免の対象者は、原則として高等教育修学支援新制度の対象とならない学

部生、大学院修士課程・博士(後期)課程の学生です。

《制度の概要》

- ①前期、後期それぞれの期の授業料について審査を行います。前期に減免適用を受けた人も、後期では改めて申請する必要があります。
- ②申請書等の配布及び受付期間は、大学の掲示板で前期は4月頃、後期は9月頃お知らせします。
- ③申請書類に基づいて、本学が定める減免適用のための家計基準、学業基準を満たしているかどうかを学内の委員会において審査し、減免適用者を決定します。減免の適用率は、5割又は3割ですが、予算に余裕がある場合、5割とされた人のうち成績優秀者を全額又は7割の減免率に引き上げることがあります。

進路

Career after graduation

2018-2020年度の卒業生の進路（美術学部）

美術科

日本画専攻	油画専攻	彫刻専攻	版画専攻	構想設計専攻
制作活動(6名, 8.5%) 進学・留学(29名, 40.8%) 本学大学院(28名) 本学科目等履修生 就職(20名, 28.2%) (株)アダストリア(2名) 石塚会計事務所 (株)伊藤軒 (株)エスト (株)京都アニメーション(2名) (株)コンセプトラボ さいたま市立与野東中学校 サンデーイベント(株) 自営業 島村楽器(株) (株)修美 (株)静好堂中島 (株)千總 ナツメアタリ(株) 任天堂(株) ネイロ(株) (株)白鳳堂 ※企業名不詳(1名) その他(16名, 22.5%)	制作活動(4名, 8.7%) 進学・留学(16名, 34.8%) 本学大学院(15名) 京都芸術大学大学院 就職(18名, 39.1%) イートレックジャパン(株) (株)エイチーム(2人) (株)カブコン 京都芸術高等学校 (株)グレップ (株)KDDIエボルバ (株)ケーズウェイ 自営業(2名) (株)秀光ビルド (株)高津商会 (有)田丸 (株)中広 (株)テクロス (株)テレフィット (株)日展 (株)阪急阪神百貨店 読売テレビ放送(株) その他(8名, 17.4%)	制作活動(3名, 13.6%) 進学・留学(6名, 27.3%) 本学大学院(4名) 東京藝術大学大学院 HAL大阪 就職(8名, 36.4%) 大阪市立鯉江中学校 カイハラ(株) (株)京都アニメーション 京都市役所 スズキ(株) 舞鶴市立青葉中学校 (株)光岡自動車 (株)メガハウス その他(5名, 22.7%)	進学・留学(7名, 22.6%) 本学大学院(6名) ニュージーランド(※学校名不詳) 就職(16名, 51.6%) アイフル(株) (株)永昌堂印刷 (株)グラフィック (株)くろちく (株)ザグザグ JP ツーウェイコンタクト(株) (株)シッパス (株)清栄コーポレーション (株)高島屋 長岡京市役所 任天堂(株) Happy Elements(株) (株)フジプラス (株)メガハウス ユザワヤ商事(株) (株)洛北義肢 その他(7名, 20.0%)	制作活動(2名, 7.4%) 進学・留学(9名, 33.3%) 本学大学院(9名) 就職(9名, 33.3%) (一社)アーツード京都 (株)インテリジェントシステムズ かおもち (株)大広 (株)ネルケプランニング (株)バンダイナムコオンライン A4A(株) 自営業 (有)タニスタ その他(7名, 25.9%)
合計(71名)	合計(46名)	合計(22名)	合計(35名)	合計(27名)

デザイン科

ビジュアル・デザイン専攻	環境デザイン専攻	プロダクト・デザイン専攻
進学・留学(11名, 18.3%) 本学大学院(10名) 京都工芸繊維大学大学院 就職(42名, 70.0%) (株)アナロジカル ALSOK京滋(株) (株)イグニッション・エム (株)インテリジェントシステムズ (株)WAVE 宇野(株) (株)エー・ティ・エー (株)エム・シー・アンド・ピー (株)エル・ローズ 神谷利男デザイン(株) (株)ギークサイト (株)ケイ・ウノ(2名) 神戸市役所 (株)コナミアミューズメント (株)彩ユニオン (株)Sabeevo (株)サンセイ 山陽製紙(株) (株)サンワ その他(7名, 11.7%)	進学・留学(1名, 20.0%) 本学大学院 就職(2名, 40.0%) 石上純也建築設計事務所 (株)デザインアートセンター その他(2名, 40.0%)	制作活動(2名, 8.3%) 進学・留学(9名, 37.5%) 本学大学院 就職(14名, 58.3%) (株)木の家専門店 谷口工務店 岐阜県立郡上高等学校 (株)コロマチ (株)寿屋 (株)STUDIO SIGN 日本メナード化粧品(株) (株)俄 ヤマハ発動機(株) 両備ホールディングス(株) その他(4名, 16.7%)
合計(60名)	合計(5名)	合計(24名)

工芸科

総合芸術学科

陶磁器専攻	漆工専攻	染織専攻
<p>制作活動 (1名, 4.8%)</p> <p>進学・留学 (9名, 42.9%) 本学大学院 (7名) 大阪府立大学 多治見意匠技術研究所</p> <p>就職 (8名, 38.1%) (株)アスカ (株)オアシスライフスタイルグループ (株)箱木 (株)ケイ・ウノ 光洋陶器(株) ジーク(株) シュンビン(株) (株)スーパー・ブレンNEX</p> <p>その他 (3名, 14.3%)</p>	<p>進学・留学 (12名, 40.0%) 本学大学院 (8名) 石川県立漆器産業技術センター 大阪アミューズメントメディア専門学校 八洲学園大学 ヤマハピアノテクニカルアカデミー</p> <p>就職 (12名, 40.0%) 茨木市立豊川中学校 小倉美術印刷(株) コクヨ(株) 堺市立中学校 (株)さわの道玄 自衛隊兵庫地方協力本部 (株)漆琳堂 水彩画教室パステル (株)象彦 (株)トレゾア (株)俄 FLAIR</p> <p>その他 (6名, 20.0%)</p>	<p>制作活動 (2名, 6.3%)</p> <p>進学・留学 (8名, 25.0%) 本学大学院 (7名) 東京藝術大学大学院</p> <p>就職 (14名, 43.8%) (株)エアアンドエス (株)大久保 京都市立銅駝美術工芸高等学校 近藤ニット(株) 自営業 住江織物(株) 帝塚山学院中学校高等学校 東リ(株) 服部テキスタイル(株) (株)バル (株)プレーリードッグ (株)プレスハウス 丸栴染色(株) (株)ロフトマン</p> <p>その他 (8名, 25.0%)</p>
合計 (21名)	合計 (30名)	合計 (32名)

総合芸術学専攻
<p>制作活動 (1名, 7.1%)</p> <p>進学・留学 (6名, 42.9%) 本学大学院 (5名) アカデミー・オブ・アート大学 (アメリカ合衆国)</p> <p>就職 (2名, 14.3%) (株)アートフロントギャラリー 平安伸銅工業(株)</p> <p>その他 (5名, 35.7%)</p>
合計 (14名)

2018-2020年度の卒業生の進路 (音楽学部)

作曲専攻	ピアノ専攻	弦楽専攻
<p>音楽・演奏活動 (2名, 22.2%)</p> <p>進学・留学 (4名, 44.4%) 本学大学院</p> <p>その他 (3名, 33.3%)</p> <p>合計 (9名)</p>	<p>音楽・演奏活動 (3名, 7.1%)</p> <p>進学・留学 (16名, 38.1%) 本学大学院 (14名) ドイツ (学校名不詳) ボストン音楽院 (アメリカ合衆国)</p> <p>就職 (10名, 23.8%) 稲美町立稲美中学校 ANAセールス(株) おおかわ皮ふ科クリニック 沖縄県立開邦高等学校 (株)河合楽器製作所 (株)キューブシステム 兵庫県教育委員会 (株)ヤマハミュージッククリエティング (株)ロワジール・ホテルズ沖縄</p> <p>その他 (13名, 31.0%)</p> <p>合計 (42名)</p>	<p>音楽・演奏活動 (8名, 18.6%)</p> <p>進学・留学 (14名, 32.6%) 本学大学院 (6名) シュトゥットガルト音楽演劇大学 (ドイツ) 相愛大学大学院 相愛大学 東京藝術大学大学院 (3名) 桐朋オーケストラアカデミー</p> <p>就職 (5名, 11.6%) (株)ジェイアール西日本ホテル開発 シスメックスCNA(株) 藤塚精密金型(株) 箕面市役所 ※企業名不詳</p> <p>その他 (16名, 37.2%)</p> <p>合計 (43名)</p>
<p>指揮専攻</p> <p>その他 (1名, 100%)</p> <p>合計 (1名)</p>		

管・打楽専攻	声楽専攻	音楽学専攻
<p>音楽・演奏活動 (14名, 29.2%)</p> <p>進学・留学 (11名, 22.9%) 本学大学院 (5名) 尚美ミュージックカレッジ ドイツ (※学校名不詳) 東京藝術大学大学院 桐朋オーケストラ・アカデミー フランス (※学校名不詳) (2名)</p> <p>就職 (6名, 12.5%) 海上自衛隊 自衛隊音楽隊 (株)四国中央テレビ (公財)名古屋フィルハーモニー交響楽団 (株)明屋書店 陸上自衛隊</p> <p>その他 (17名, 35.4%)</p> <p>合計 (48名)</p>	<p>音楽・演奏活動 (1名, 2.9%)</p> <p>進学・留学 (19名, 55.9%) 本学大学院 (14名) イステイテュート・マランゴーニ(イタリア) 大阪大学大学院 東京藝術大学大学院 武庫川女子大学 (3名)</p> <p>就職 (4名, 11.8%) (株)イケテイ (株)一如社 大阪府立学校 天津市立伊香立中学校</p> <p>その他 (10名, 29.4%)</p> <p>合計 (34名)</p>	<p>音楽・演奏活動 (1名, 12.5%)</p> <p>進学・留学 (2名, 25.0%) 本学大学院</p> <p>就職 (3名, 37.5%) (株)アワーズ (株)おふいす・ととも (株)東急ホテルズ</p> <p>その他 (2名, 25.0%)</p> <p>合計 (8名)</p>

専任教員一覧

Faculty members

美術学部/美術研究科

日本画専攻	P.22	
教授	川嶋 渉	KAWASHIMA Wataru
准教授	奥村 美佳	OKUMURA Mika
准教授	小島 徳朗	KOJIMA Tokuro
准教授	正垣 雅子	SHOGAKI Masako
講師	谷内 春子	TANIUCHI Haruko
講師	三橋 卓	MITSUHASHI Taku
特任准教授	翟 建群	ZHAI Jianqun
油画専攻	P.24	
教授	森口 サイモン	MORIGUCHI Simon
教授	石原 友明	ISHIHARA Tomoaki
教授	渡辺 信明	WATANABE Nobuaki
教授	法貴 信也	HOKI Nobuya
教授	金田 勝一	KANEDA Shoichi
教授	伊藤 存	ITO Zon
特任教授	児玉 靖枝	KODAMA Yasue
彫刻専攻	P.26	
教授	松井 紫朗	MATSUI Shiro
教授	小山田 徹	KOYAMADA Toru
教授	中原 浩大	NAKAHARA Kodai
准教授	安藤 由佳子	ANDO Yukako
准教授	金氏 徹平	KANEUJI Teppei
版画専攻	P.28	
教授	田中 栄子	TANAKA Eiko
教授	大西 伸明	ONISHI Nobuaki
准教授	吉岡 俊直	YOSHIOKA Toshinao
講師	王 木易	WANG Muyi
構想設計専攻	P.30	
教授	高橋 悟	TAKAHASHI Satoru
教授	石橋 義正	ISHIBASHI Yoshimasa
准教授	木村 友紀	KIMURA Yuki
特任准教授	人長 果月	HITOOSA Kazuki
総合デザイン専攻	P.34	
教授	辰巳 明久	TATSUMI Akihisa
教授	滝口 洋子	TAKIGUCHI Yoko
教授	楠田 雅史	KUSUDA Masashi
教授	舟越 一郎	FUNAKOSHI Ichiro
准教授	坂東 幸輔	BANDO Kosuke
准教授	島田 陽	SHIMADA Yo
デザインB専攻	P.36	
教授	藤本 英子	FUJIMOTO Hideko
教授	高井 節子	TAKAI Setsuko
准教授	牛田 裕也	USHIDA Yuya
特任講師	谷川 嘉浩	TANIGAWA Yoshihiro
陶磁器専攻	P.38	
教授	長谷川 直人	HASEGAWA Naoto
教授	重松 あゆみ	SHIGEMATSU Ayumi
教授	森野 彰人	MORINO Akito
准教授	若杉 聖子	WAKASUGI Seiko

漆工専攻	P.40	
教授	栗本 夏樹	KURIMOTO Natsuki
教授	安井 友幸	YASUI Tomoyuki
准教授	笹井 史恵	SASAI Fumie
准教授	大矢 一成	OYA Kazunari
染織専攻	P.42	
教授	藤野 靖子	FUJINO Yasuko
教授	日下部 雅生	KUSAKABE Masao
准教授	藤井 良子	FUJII Ryoko
講師	安藤 隆一郎	ANDO Ryuichiro
特任教授	上野 真知子	AGANO Machiko
総合芸術学専攻	P.44	
教授	三木 博	MIKI Hiroshi
教授	吉田 雅子	YOSHIDA Masako
教授	加須屋 明子	KASUYA Akiko
教授	田島 達也	TAJIMA Tatsuya
教授	礪波 恵昭	TONAMI Keisho
教授	飯田 真人	IIDA Masato
教授	畑中 英二	HATANAKA Eiji
准教授	竹浪 遠	TAKENAMI Haruka
准教授	深谷 訓子	FUKAYA Michiko
准教授	砂山 太一	SUNAYAMA Taichi
保存修復専攻	P.46	
教授	宇野 茂男	UNO Shigeo
准教授	竹浪 遠	TAKENAMI Haruka
准教授	高林 弘実	TAKABAYASHI Hiromi
共通教育	P.20	
教授	三木 博	MIKI Hiroshi
教授	飯田 真人	IIDA Masato
教授	上 英俊	UE Hidetoshi
准教授	玉井 尚彦	TAMAI Naohiko
准教授	磯部 洋明	ISOBE Hiroaki
准教授	中村 翠	NAKAMURA Midori
講師	永守 伸年	NAGAMORI Nobutoshi
音楽学部/音楽研究科		
作曲専攻	P.52	
教授	岡田 加津子	OKADA Kazuko
准教授	中村 典子	NAKAMURA Noriko
講師	酒井 健治	SAKAI Kenji
指揮専攻	P.54	
教授	下野 竜也	SHIMONO Tatsuya
ピアノ専攻	P.56	
教授	阿部 裕之	ABE Hiroyuki
教授	砂原 悟	SUNAHARA Satoru
教授	上野 真	UENO Makoto
准教授	三船 優子	MIFUNE Yuko
講師	田村 響	TAMURA Hibiki

弦楽専攻	P.58	
教授	四方 恭子	SHIKATA Kyoko
教授	豊嶋 泰嗣	TOYOSHIMA Yasushi
准教授	向山 佳絵子	MUKOYAMA Kaeko
管・打楽専攻	P.60	
教授	大嶋 義実	OSHIMA Yoshimi
教授	村上 哲	MURAKAMI Satoshi
講師	森本 瑞生	MORIMOTO Mizuki
声楽専攻	P.62	
教授	小濱 妙美	KOHAMA Taemi
教授	久保 和範	KUBO Kazunori
准教授	北村 敏則	KITAMURA Toshinori
准教授	日紫喜 恵美	HISHIKI Emi
准教授	上野 洋子	UENO Yoko
音楽学専攻	P.64	
教授	津崎 実	TSUZAKI Minoru
教授	太田 峰夫	OTA Mineo
准教授	川端 美都子	KAWABATA Mitsuko
准教授	池上 健一郎	IKEGAMI Ken'ichiro
教職課程	P.68	
教授	三木 博	MIKI Hiroshi
教授	飯田 真人	IIDA Masato
特任講師	清水 久莉子	SHIMIZU Kuriko
研究センター		
日本伝統音楽研究センター	P.70	
所長	細川 周平	HOSOKAWA Shuhei
教授	藤田 隆則	FUJITA Takanori
教授	竹内 有一	TAKEUCHI Yuuichi
准教授	武内 恵美子	TAKENOUCHI Emiko
准教授	田畷 智志	TAKUWA Satoshi
講師	齋藤 桂	SAITO Kei
芸術資源研究センター	P.72	
所長	森野 彰人	MORINO Akito
副所長	砂原 悟	SUNAHARA Satoru
武内 恵美子	TAKENOUCHI Emiko	
教授	佐藤 知久	SATO Tomohisa
客員教授一覧はP.15をご覧ください。		
教員情報の詳細はこちら		
https://www.kcua.ac.jp/professors/		

オープンキャンパス

Open Campus

個性あふれる教員と在学生在が、あなたを待っています！

美術学部オープンキャンパス

2022年

8月7日(日) 10:00-17:30 予定

専攻ごとの見学会や学生作品の展示、ワークショップの開催や在学生有志によるライブペインティングなど、京都芸大の魅力をご存分に体感できます。

京都芸大のレッスン内容をとことん公開します！

音楽学部オープンキャンパス

2022年

10月1日(土) 10:00-13:45 予定

10月2日(日) 10:00-17:00 予定

各専攻のレッスンの見学や授業の参加など、京都芸大の授業内容をありのままに公開します。

オープンキャンパスYoutubeチャンネル

専攻紹介動画や教員&学生インタビューのほか
これまでのアーカイブもご覧いただけます！



オープンキャンパスの詳細および最新情報は
本学ウェブサイトをご覧ください。



<https://www.kcua.ac.jp/examinee/>

問合せ先
事務局連携推進課 入試担当
TEL 075-334-2238
MAIL nyushi@kcua.ac.jp

※ オープンキャンパスは事前申込制です。公開予定の特設ページよりお申込みの上、ご参加ください。

進学説明会

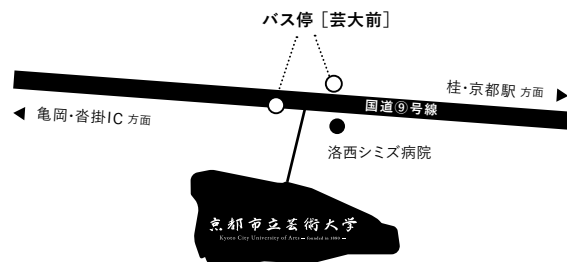
京都をはじめ、各地で開催される進学説明会に、京都芸大も参加しています。本学の教育の魅力をお伝えします。是非ご参加ください。

アクセス

Access map

京都市立芸術大学

京都市西京区大枝沓掛町13-6



京阪京都交通バス [芸大前] 下車、徒歩すぐ

- ▶ 1・2・13・14・25・28 系統 (阪急桂駅東口経由)
 - 京都駅 (C2のりば) より約45分
 - 阪急桂駅 (東口) より約20分
- ▶ 11A系統 (JR桂川駅発)
 - JR桂川駅より約15分

京都市立芸術大学

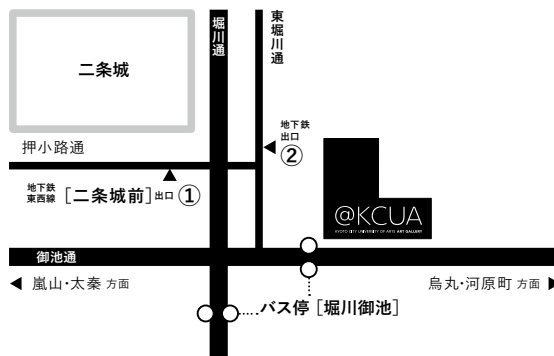
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
Tel 075-334-2200 (代表)
Fax 075-332-0709 (代表)

発行/2022年5月
企画/公立大学法人 京都市立芸術大学 全学広報委員会
協力/DORIAN NAKAGAWA (写真提供)
編集・作成/公立大学法人 京都市立芸術大学 総務広報課

※本誌に掲載した情報は、2022年5月31日現在に確認できたものです。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本誌に掲載しているイベント等が延期・中止となる場合があります。
※本誌に掲載されている写真には、撮影のため一時的にマスクを外しているものがあります。

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

京都市中京区押小路町238-1



地下鉄二条城前駅下車、2番出口より徒歩3分
市バス [堀川御池] 下車、徒歩すぐ

- ▶ 9・12・15・50・67・101系統

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —